

---

# ハートキャッチプリキュアSTRIKERS

キュアノア

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ハートキャッチプリキュアSTRIKERS

### 【Nコード】

N5212S

### 【作者名】

キュアノア

### 【あらすじ】

砂漠王デューンを倒したプリキュア。しかし、ミッドチルダに存在しなかった砂漠の使徒がミッドチルダにいた。プリキュアは次元を超え、時空管理局という組織と協力する。プリキュアと時空管理局との戦いが今始まる！

## ミッドチルダ（前書き）

初めての小説となります。間違えることはあるかもしれませんが、暖かい目で見るとは幸いです。ハートキャッチプリキュアの時期は最終回の後になっております。後、声優ネタになっただけでございます。では、どうぞ。

## ミッドチルダ

砂漠王デューンを倒して一週間が経った。しかし、新たなる戦いが始まりとなる。

### 希望ヶ花

つぼみ「お花さん、元気になって下さい。」

シプレ「ですう〜。」

えりか「つぼみー!」

つぼみ「あ、えりか!」

えりか「今日も遊びに来たよ!」

コフレ「コフレもですー!」

つぼみ「もうえりかだったら、遊ぶしか興味ないのですか。しょうがないですね。」

その時、灰色のカーテンが現れた。

つぼみ「え!?!」

シプレ「うわあー!」

つぼみとシプレは灰色のカーテンに包み込んでしまい、灰色のカーテンは消えた。

えりか「つぼみ!」

ミッドチルダ。そこには時空管理局という組織が存在し、あらゆる世界に管理していた。だが、ガジェットという無人機械がロストロギアと呼ぶ古代の遺産を回収するため、徘徊をしていた。しかし・

スナツキー「キー!」

「キャアアアア!」

ミッドチルダに存在しなかったスナツキーが人間達を襲った！何故スナツキーがミッドチルダにいるのか分からなかった。

灰色のカーテンに包み込んだつぼみとシプレは見知らぬ街にいた。

つぼみ「え？此処って・・・」

シプレ「何処ですう？」

プリキュアがミッドチルダに降りたった。

## ミッドチルダ（後書き）

感想をお待ちしております！

## 変身

つぼみとシプレは灰色のカーテンに包み込んで、灰色のカーテンが消えた。ミッドチルダに灰色のカーテンからつぼみとシプレがいた。

つぼみ「此処って一体？シプレ、分かりますか？」

シプレ「いえ、初めて見る街ですう〜。」

つぼみ「私はえりかと遊ぼうとしたら、灰色のカーテンが現れて、私とシプレがそのカーテンに・・・」

シプレ「大丈夫ですうー！携帯を使えば、何の問題はないですうー！」

シプレは携帯を取り出す。

つぼみ「そうですね。携帯を使えばみんなに話せますね。では早速！」

つぼみは携帯を使い、みんなに連絡しようした。しかし・・・



『この電話番号は、現在使われておりません。』

つぼみ「え?」

シプレ「どういことですか?」

つぼみは思った。『現在使われてない』ということに、いつもならかけてくれるはずだった。

つぼみ「ん?」

シプレ「何ですか?」

二人の目の前にガジェット・ドローンが複数現れた。

つぼみ「ロボット?」

するとガジェットの黄色いセンサーからビームが放った。

つぼみ「うわあー!」

つぼみはそのビームを避けた。

つぼみ「何するのですか!?」

ガジェットは問答無用であり、ガジェットはつぼみを攻撃してきた。

つぼみ「うわあー!」

つぼみはひたすらビームを避ける。

シプレ「つぼみ！」

つぼみ「あれって砂漠の使徒ですか！」

シプレ「あれは砂漠の使徒じゃないですー！」

つぼみ「え？」

砂漠の使徒。それは、地球と人類を砂漠化しようとした悪の組織である。

つぼみ「そんなことよりシプレ、行きますよ！」

シプレ「はいですうー！」

つぼみはココロパフュームを出し、姿はノースリーブのワンピースのような光の衣装に全身が包まれた。

シプレ「プリキュアの種、行くですうー！」

シプレの体からプリキュアの種が出てきた。そして……

つぼみ「プリキュア！オープンマイハート！」

変身すると、つぼみが持つてるココロパフュームを体全体にココロパフュームを吹きかけた部分にプリキュアのコスチュームに変化した。更に、ツインテールをした髪型が巨大なピンク色のポニーテールに変わった。そして、変身完了した。

ブロッサム「大地に咲く一輪の花！キュアブロッサム！」

つぼみはキュアブロッサムに変身した。

変身（後書き）

いつき「ねえ、いつになったら僕達は出るの？」

作者「それは今考えてる。」

ゆり「・・・」

## 出会い

希望ヶ花

いつき「どうしたのえりか。突然呼び出されて・・・」

ゆり「何かあったの？」

えりか「実は・・・つぼみが消えたの。」

・・・

いつき「は？」

ゆり「えりか、またボケてるの？」

えりか「ボケてなんかはないよ！ホントだってば！」

コフレ「えりかは嘘をついてないです！」

ポプリ「ホントでしゅか？」

ゆり「えりかが本当なら、探すしかないね。」

いつき「ポプリ、つぼみを探そ。」

ポプリ「はいでしゅー！」

えりか「二人ともありがとうー！」

「コフレ」では探すですー！」

えりか達はつぼみとシプレを探しに行った。

つぼみはキュアブロッサムになり、ガジェットの前に立ち向かった。

ブロッサム「ハア！」

ブロッサムはガジェットに攻撃した。ガジェットを1体倒した。だが、ブロッサムは思った。

ブロッサム「（何でだろう？何であっけなく壊れたんだろう？）はっ！考えてる暇はなさそうですね。早く片付けないと！」

ブロッサムの手にブロッサムタクトが手に取った。

ブロッサム「集まれ！花のパワー！ブロッサムタクト！ハア！」

タクトをローラーみたいのように回した。そして・・・

ブロッサム「花よ輝け！プリキュア！ピンクフォルテウェイブ！」

ピンクの花の形をしたエネルギー弾を飛ばす必殺技、『ピンクフォルテウェイブ』である。

ブロッサム「ハアアアアアア・・・」

ブロッサムタクトの中心にあるクリスタルドームを回転することで力を入れ込み、敵を浄化する必殺技である。しかし・・・

ドーン

ブロッサム「え!?!」

爆発した。

ブロッサム「どうして爆発したの?こんな経験初めてです。」

確かにフォルテウェイブなら浄化する必殺技だった。しかしガジエツトは違った。フォルテウェイブで浄化しなかったのは初めてであった。

シプレ「ブロッサム。はっ!誰か来るですうー!」

ブロッサム「え?誰って・・・何処に?」

シプレ「上ですうー!」

ブロッサム「上?」

二人は上を見ると人が空を飛んでいた。

ブロッサム「え？えええええええ！？」

空

そこには、黒い服と白いマントを羽織った金髪の少女が空を飛んでいた。

「ん？誰かいる。」

黒い服と白いマントを羽織った少女がブロッサムとシプレを発見した。

「あれってガジェット。あの子が・・・」

黒い服と白いマントを羽織った少女は地表に降りた。ブロッサムは構えた。

「待って。貴方を襲うつもりはないの。私達は時空管理局です。」

ブロッサム「時空管理局？シプレ、聞いたことありますか？」



シプレ「ないですう。」

????「それとデバイスを解除して下さい。」

ブロッサム「デバイス？」

シプレ「初めて聞くですう。」

????「じゃあ貴方達は次元漂流者なのね。」

ブロッサム& amp; シプレ「次元漂流者？」

????「簡単に言えば、別世界の人間が何らかのトラブルに巻き込まれて違う世界に来てしまい、迷子になってしまう人達のことなん？」

ブロッサム「私って迷子ですか？（泣）」

シプレ「ですう。ってブロッサム！泣いちゃ駄目です！」

????「ごめんね。たいした迷子じゃないから、私達は次元漂流者を確保する者だから泣かないで。」

ブロッサム「ホントですか？（泣）」

????「ホントだよ。私がいい所へ連れて行くから一緒に来て。」

ブロッサム「はい！あ、その前に・・・」

ブロッサムからつぼみに戻った。

つぼみ「これでいいですか？」

「……うん。いいよ。連れて来て。」

つぼみ&amp;mp;シプレ「はい！(ですう)」「(！」

こうして魔道師とプリキュアが会ったのです。

## 出会い（後書き）

えりか「何か最後のナレーションがガオレンジャーのようになって  
なかった？」

いつき「気のせいじゃない？」

ゆり「それとあの少女は誰？」

つぼみ「ウフフ。それは……秘密です」

## 自己紹介

### 機動六課

つぼみとシプレの前には金髪の少女と一緒に歩いていた。すると金髪の少女の動きが止まった。

「????」「そういえば貴方の名前聞いてなかったね。貴方の名前は?」

つぼみ「花咲つぼみです。で隣にいるのはシプレです。」

シプレ「シプレです。」

つぼみ「貴方は?」

フェイト「フェイト・テスタロッサ Tハラオウンよ。よろしくねつぼみ。」

つぼみ「よろしくお願ひしますフェイトさん。」

シプレ「クスクス」

つぼみ「シプレ?」

シプレ「何でもありません (二人の声が似てるです) (」

フェイト「じゃあ中に入ろうか。」

つぼみ「はい。」

二人は中に入った。そこには・・・

????「あ、フェイトちゃん。待ったで。」

栗色のショートカットの髪に留めしている女性が椅子に座っていた。

フェイト「フェイト・T・ハラウン、ただいま帰って来ました。」

????「んで、フェイトちゃんが言っていた子が・・・」

つぼみ「あ、どうも。」

????「椅子あるから座って。」

つぼみ「はい。」

女性の言うことを聞いて、椅子に座った。

フェイト「じゃあ私は任務があるからこれで・・・」

フェイトはそう言いながら去って行った。

はやて「初めまして、私は八神はやてと言います。機動六課の部隊長をしております。」

つぼみ「花咲つぼみです。で隣にいるのは・・・あれ、シプレ？」

気付いたらシプレはいなかった。

シプレ「うっははは！」

つぼみ「ん？あ！」

シプレの隣に人形サイズの大きさであり、薄い青白の髪をした物体が飛行しながら現れた。

????「あ、はやてちゃん。」

はやて「リイン。何しとるん？」

つぼみ「シプレ、まさか……」

シプレ「はい、リインとお友達になったですう！」

つぼみ「いつの間になー!?」

リイン「それとははやてちゃんが言っていた子が……」

はやて「そや。」

つぼみ「可愛いです〜。(いつきがいたら、大興奮でしょうね。)

確かにいつきがいたら、凄く興奮していた。いつきは可愛い物が大好きである。

はやて「あ、この子は私の末っ子のリインフォース？(ツヴァイ)や。」

リイン「リインですー!」

つぼみ「末っ子ですか。私はラインと言っていていいですか？」

ライン「はい、喜んで！」

はやて「それとつぼみちゃんの世界ってどついう物なん？」

つぼみ「（何故関西弁ですか？まあいいですけど。）はい、実は・・・」

数分後

つぼみ「というわけです。」

はやて「そうなんや。つぼみちゃんはプリキュアっちゅう戦士として砂漠の使徒と戦ったんやな。」

つぼみ「はい。」

そこに、ポニーテールにピンクの髪をした女性が現れた。

????「主はやて。」

はやて「あ、シグナム。」

つぼみ「あの、主って何ですか？」

はやて「ああ、それは・・・」

シグナム「主ははやて、少しよろしいでしょうか。」

はやて「シグナム？」

シグナム「この子の実力を試してほしいのですが、よろしいですか？」

はやて「でもなシグナム・・・」

つぼみ「いいですよ。相手になってあげます。」

シグナム「よし、ならば連れて来い。」



## 自己紹介（後書き）

「 えりか「リインの声って何処かで聞いたことあったような気が・・・」

番外編：2人目のプリキュア消える（前書き）

番外編です。ではどうぞ。

番外編：2人目のプリキュア消える

希望ヶ花

えりかはつぼみを探していた。

えりか「ったく、つぼみったら何処に行ったのよ？つぼみ探し半日仕事何だよ全く。もう何もかもめちゃくちゃだよ。」

コフレ「えりか！文句言っでないで早く探すですー！」

えりか「うるさいな！言われなくても分かつ・・・ん？」

二人の目の前に灰色のカーテンが現れた。そして・・・

えりか「嘘ー!?!」

コフレ「うわあー！」

二人は灰色のカーテンに包み込んでしまい、灰色のカーテンは消えた。

## 初めての練習

つぼみははやての案内で訓練施設に入った。

つぼみ「此处が訓練施設ですか？」

シブレ「そう思わないですう。」

はやて「つぼみちゃん。ホログラムって知ってる？」

つぼみ「ホログラム？」

「???」「この訓練施設はその技術を応用して作られた施設なんだぜ。」

赤毛の子供が答えた。

つぼみ「貴方は？」

ヴィータ「あたしはスターズ副隊長ヴィータだ。」

シグナム「自己紹介がまだだったな。私はライティング副隊長シグナムだ。お前は？」

つぼみ「花咲つぼみです。」

シグナム「いい名前だ。」

はやて「なのはちゃん。ちょっといい？」

なのは「ん？どうしたの？」

はやて「実はあの子は次元漂流者なんや。」

なのは「あの子が？」

はやて「せや。」

なのは「君が花咲つぼみちゃん？初めまして、高町なのは一等空尉よ。」

つぼみ「はい。なのはさん、よろしくお願いします。」

なのはの後ろには二人の少女と二人の子供がいた。

スバル「私はスバル・ナカジマ、よろしく！」

ティアナ「ティアナ・ランスターよ。よろしく。」

エリオ「エリオ・モンディアルです。よろしくお願いします！」

キャロ「キャロ・ル・ルシエです。こっちはフリードリヒです。」

フリード「キユクル〜。」

つぼみ「あ、可愛いです。（いつきがいたら凄く興奮していたかも。）」

シグナム「自己紹介は終わったな。花咲の力は何なのか試す。いい

な？」

つぼみ「はい！」

シプレ「つぼみ！」

つぼみ「やります、貴方の訓練を！」

はやて「どんな風になるんやろうな？」

なのは「あの子、デバイス持ってるの？」

はやて「よお見てみい。」

シグナム「レヴァンティン！」

シグナムの衣装が騎士の衣装に変わった。

つぼみ「シプレ！」

シプレ「はいですう！」

つぼみの手からココロパフォームを出した。

シプレ「プリキュアの種、行くですうー！」

つぼみ「プリキュア！オープンマイハート！」

つぼみはプリキュアの姿へと変わった。

ブロッサム「大地に咲く一輪の花！キュアブロッサム！」

スバル「カツコイイ！」

ティアナ「スバル！」

エリオ「何かあの人の声って、フェイトさんの声に似てる。」

キャロ「私もそう思いました。」

なのは「え？」

はやて「なのはちゃん知らなかった？」

なのは「うん。初めて知った。」

シグナム「では行くぞ。」

ブロッサム「はい！」

こうして二人の戦いが始まったのです。



初めての練習（後書き）

えりか「やっぱ最後はガオレンジャーのナレーションじゃん！」

いつき「もう無視しよ。」

つぼみ「アハハ。（汗）」

## プロッサムVSシゲナム(前書き)

対決です。どうぞ。

## ブロッサムVSシグナム

ブロッサム「ハア！」

シグナム「くっ！少しやるな。だが！」

ブロッサム「ふっ！」

ブロッサムはシグナムの攻撃を避けた。しかし・・・

ブロッサム「イタッ！」

腕に血が出た。

シプレ「ブロッサム！」

ブロッサム「シグナムさん！その剣本物ですか！？」

シグナム「ああ、レヴァンティンには偽物という物はない。」

ブロッサム「少しは手加減して下さい！」

シグナム「話す暇があるか？」

ブロッサム「そんな本物の剣で挑むなんて、私、堪忍袋の緒が切れ  
ました！」

なのは達は・・・

ティアナ「凄い気合い。」

スバル「シグナム副隊長と互角だなんて。」

なのは「つぼみちゃんの魔力が全然感じない。」

エリオ「え？魔力が感じないって……。」

キャロ「まさか花咲さんはロストロギアを持ってないということですか？」

はやて「そのようになるかもしれへんな。」

場所を戻って……

シグナム「レヴァンティン、カートリッジロード。」

ブロッサム「え？」

シグナム「紫電……一閃！」

ブロッサムは防ごうとするが、威力があり過ぎて防ぎきれなかった。

ブロッサム「うわあー！」

壁に激突した。

シプレ「ブロッサム！」

ブロッサム「うう。」

シグナム「この勝負は私の・・・「まだです。「ん？」

ブロッサム「ここで倒れるわけには・・・行きません！ブロッサム・・・シャワー！」

シグナムはその攻撃を避けた。しかし・・・

シグナム「な！」

ブロッサム「ハア！」

シグナムの前にブロッサムが攻撃してきた。シグナムはそれを気付かず、ブロッサムの攻撃をくらった。

シグナム「くっ！」

ブロッサム「ハア！」

シグナムは空を飛んだ。

ブロッサム「シプレ！」

シプレ「はいですう！」

するとシプレはブロッサムの片に乗るとシプレはマントみだいのようになり、ブロッサムは空を飛んだ。

シグナム「お前、空を飛べるのか!？」

ブロッサム「はい。このマントは、妖精が必要ですから。」

シグナム「妖精か。だが、ここで決着を着けるぞ！」

ブロッサム「そのつもりです！集まれ！花のパワー！ブロッサムタクト！」

シグナム「紫電・・・一閃！」

ブロッサム「花よ輝け！プリキュア！ピンクフォルテウェイブ！」

ドーン！

スバル「凄っ！」

エリオ「勝負は？」

なのは「この勝負、引き分けよ。」

キャラ「引き分け！？」

ティアナ「信じられない。」

はやて「それとつばみちゃん、気絶しちゃったらしいで。」

ヴィータ「じゃあ救援を出すか。」

なのは達は救援を呼び、気絶したつばみを病室まで運んだ。

## 初めての任務

医務室

つぼみ「ん・・・此処は？」

????「目が覚めた？」

つぼみが目を覚ますと、医務室にいた。そこに女性がいた。

つぼみ「貴方は？」

シャマル「私はシャマル。貴方はシグナムと戦って、気を失ってたのよ。」

つぼみ「そういえばシグナムさんと・・・結果は？」

シャマル「引き分けよ。」

つぼみ「そうですか。」

シプレ「つぼみー！」

つぼみ「シプレー！」

シプレ「良かったです。」

シャマル「それとシプレちゃんだっけ？」

シプレ「はいですう。」

シャマル「つぼみちゃんといつも一緒にいたの？」

シプレ「はいですう！」

つぼみ「ん？」

すると医務室から大きな青い犬が入ってきた。

つぼみ「犬？」

シャマル「あ、ザフィーラ。お腹すいたの？しょうがないわね。」

大きな青い犬の名前はザフィーラと呼ぶ。

シャマル「はい。」

つぼみ（いつきがいたら・・・いつきのこと無視しよ。）

希望ヶ花

いつき「ヘックシユン！」

ポプリ「いちゆき？」

いつき「誰か僕のこと噂していたような？」

機動六課

つぼみ「・・・」



つぼみが歩いていると、そこにヴィータと会った。

つぼみ「ヴィータさん。」

ヴィータ「呼び捨てでいいぞ。お前、凄かったな。シグナムと互角だったなんて。」

つぼみ「そうですか？」

ヴィータ「ああ。それとプリキュアだったな。あれは何々だ？」

つぼみ「実は……。」

数分後

ヴィータ「そうか。お前の言いたいことは分かったぜ。」

つぼみ「理解したのですか？」

ヴィータ「ああ。あたしは一発で理解するからな。」

つぼみ「そうですか。それとヴィータ達のやるべきことは何ですか？」

ヴィータ「あたし達のやるべきことは……。」

数分後

つぼみ「分かりました。私は手伝います。」

ヴィータ「お前も一発で理解したのか。」

つぼみ「はい。それとお前じゃなくてつぼみです。」

ヴィータ「そうだったな。つぼみ。」

ウィーン！ウィーン！

つぼみ「ん？あ、ヴィータ！」

機動六課本部

なのは「あ、二人とも。」

ヴィータ「何が起こったんだ？」

シャーリー「レリック反応とガジェットが現れたのです。場所は貨物列車です。」

はやて「フェイト隊長、急いで現場を。」

フェイト『了解。』

なのは「皆、これは訓練じゃないから、怪我でもしないように気を付けてね。」

フォワードメンバー「はい！」

つぼみ「シプレ、行きましょう！」

シプレ「はいですう！」

全員は、レリック反応とガジェットがいる現場へ向かった。

貨物列車外

貨物列車の上から灰色のカーテンが現れ、カーテンからえりかとコフレがいた。

えりか「え？此処って何処？」

コフレ「分からないです。」

えりか「しかも列車の上じゃん！何よこれー！？」

そこに二人の前からガジェットが現れた。そして襲ってきた。

えりか「うわ！もうあったまきた！コフレ！」

コフレ「はいですっ！」

えりかの手からココロパフュームを出した。

コフレ「プリキュアの種、行くですっ！」

えりか「プリキュア！オープンマイハート！」

えりかはプリキュアの姿に変わった。

マリ「海風に揺れる一輪の花！キュアマリン！」

初めての任務（後書き）

えりか「よっしやー！」

つぼみ「えりかのこと無視しよ。」

## 2人目のプリキュア転生！（前書き）

今回のつぼみの出番は・・・少ないです。



シプレ「つぼみは高所恐怖症ですう。」

スバル「つぼみちゃんって高い所嫌いなもの!？」

つぼみ「はい。」

その時、通信がきた。

フェイト『なのは、今現場に着いたよ。』

なのは「フェイト隊長。」

フェイト『今レリックを回収するからなのはも手伝って。』

なのは「了解。ヴァイス君、ハッチを。」

ヴァイス「分かりました!」

ヘリのハッチが開いた。

なのは「行くよ!」

なのははヘリを飛び降りた。

つぼみ「ええええええええ!？」

なのは「レイジングハート、セーットアップ!」

なのはの服が白い服に変わった。



ティアナ「皆、行くよ!」

スバル「うん!」

エリオ&amp;キャロ「はい!」

四人は飛び降りた。

つぼみ「滅茶苦茶危ないじゃないですかー!」

スバル「マツハキャリバー……」

ティアナ「クロスミラージュ……」

エリオ「ストラダ……」

キャロ「ケリユケイオン……」

フォワードメンバー「セーットアップ!」

フォワードメンバーは魔法の服に変わった。



マリンは後ろにいたガジェットを破壊した。

マリン「これくらいで気づかない奴が何処にいんのよ？はあ、また湧いてきた。さつてと、お仕事開始よ！」

マリンの手にはつばみと同じタクトであった。

マリン「集まれ！花のパワー！マリントクト！」

キャロ「あの武器って花咲さんと同じ・・・」

マリン「ハア！」

タクトを回した。

マリン「花よ煌めけ！プリキュア！ブルーフォルテウェイブ！」

マリンはブルーフォルテウェイブを放ち、ガジェットにヒットした。

マリン「ハアアアアアアア・・・」

マリン浄化しようとした。しかし・・・

ドーン！

マリン「え！？」

コフレ「爆発したですっ！」

マリン「ちょっと、どどどいっしょとっ？」

フェイト「ん？あれは・・・」

その時、通信が・・・

スバル『スバル・ナカジマ！ただいまレリックを回収しました！』

フェイト「そう。」

マリン「もう何が一体どうなって・・・ん？」

マリンはエリオとキャロが落ちていくのを見た。

マリン「な、ちょっと！」

その時、光が・・・

マリン「うわ！何これ！？」

コフレ「眩しいですっ！」

光は消えた。そしてエリオとキャロは突然現れた竜に乗っていた。

マリン「何あれ！？」

コフレ「カツコイイですっ！」

そして、列車が止まった。

エリオ「エリオ・モンディアル、ガジェットを全部破壊！」

なのは「お疲れ様。へりに帰還せよ。」

フォワードメンバー「はい！」

キャロ「その前にちょっといいですか？」

なのは「え？」

ティアナ「貴方、誰なの？」

マリ「あたし？あたしの名前はキュアマリン。又は……」

マリ「からえりかに戻った。」

えりか「来海えりか。」

コフレ「コフレですっ！」

なのは「じゃあ私達に連いてきて。」

えりか「分かった。」

なのは「えりかを連れて機動六課へ案内した。」

2人目のプリキュア転生！（後書き）

つぼみ「私の出番って少ないような？」

えりか「気のせいじゃない？」

作者「次回はつぼみとえりかが再開します。」

## 再会

希望ヶ花

いつき「つばみやシプレに続いて、えりかとコフレまで……」

ポプリ「いちゆき。」

ゆり「何がどうなってるのかしら？」

いつき「もう一回探します！」

ゆり「いつき、明日にしましょ。」

いつき「でも……」

ゆり「もうすぐぐで暗くなるわ。帰りましょ。」

いつき「はい。」

つぼみ「はあ〜。」

つぼみははやてに『OHANA SHI』された。

シプレ「大丈夫ですか？」

つぼみ「何となく。」

キャロ「花咲さん！」

そこにキャロがやって来た。

つぼみ「キャロちゃん。」

キャロ「あ〜、連れてきてくれませんか？シプレちゃんも。」

フリード「キュクルー。」

つぼみ& amp; シプレ「はい？」



????「伝説の戦士、プリキュア？」

????「ああ、奴らは地球を守る戦士だ。」

白い服を着た男と怪人がプリキュアについて話した。

????「地球を守る戦士か。時空管理局よりも厄介だな。」

????「心配ない。この私に協力するのだジェイルスカリエッティ。」

ジェイル「何故？」

????「私と組めば、奴らなど一発で仕留めることができる。私と協力しろ。」

ジェイル「ふっ。歓迎するよ。」

## 機動六課

キャロ「此処です。」

つぼみ「ん？」

えりか「あのさ、あたし探してる人がいるけど。」

フェイト「それは誰なの？」

えりか「教えない。」

シグナム「私も協力したいんだが・・・」

えりか「いい。あたしとコフレだけである人を探すから。」

ヴィータ「お前な・・・」

つぼみ「ああ！えりか！」

えりか「ん？つぼみ！？」

シプレ「コフレー！」

コフレ「シプレ！無事で良かったですっ！」

えりか「ちょっとつぼみ！今まで何処に行ってたのよ！？」

つぼみ「ごめんなさい！」

キャロ「やっぱり私の思った通りだった。」

エリオ「キャロ、どついでいって？」

キャロ「ほらエリオ君。私達が初任務をした時、あの人、花咲さんと同じ武器が出たのを見た？」

エリオ「あ、そう言えば……」

フェイト「もしかして、探したい人ってつぼみだったの？」

えりか「つぼみ、この人達は何なのよ？」

つぼみ「事情を説明します。」

数分後

えりか「なるほどね。」

つぼみ「はい。」

なのは「私達に協力する？」

えりか「勿論協力するよ！あたしは最初から最後までクライマックスだからね！」

ヴィータ「じゃあよろしくな。」

えりかは機動六課と協力することになった。

## 再会（後書き）

えりか「次回は・・・」

ユートピア！

つぼみ「何で財団Xのメモリが・・・」

えりか「違うよ！あの方のコラボだからね。」

つぼみ「それじゃあ・・・」

つぼみ& a m p・えりか「皆のハートをキャッチだよ！」

番外編：インフィニットストラトス&amp;mp;ハートキャッチプリキュア（前巻）

最初はユートピアさんのコラボです！

番外編：インフィニットストラトス&amp;ハートキャッチプリキュア

えりか「皆！集まれ！」

つぼみ「どうしたのですか？えりか。」

なのは「しかも私達まで……」

フェイト「何？」

えりか「今回は、ゲストが来るよ！」

なのは「ゲスト？」

つぼみ「誰ですか？」

えりか「これよ！」

ユートピア！

なのは「何で財団Xのメモリが……」

えりか「違っつて！ゲストはこの方！ユートピアさんからのキャラクター、終さんと楓ちゃんと桜ちゃんがやって来ました！」

終「黒谷終です。」

楓「音梨楓です。」

椛「椛ですわ。」

つぼみ「よろしく願いします。」

楓「それとサイン下さい！」

つぼみ「え？」

楓「私、プリキュアを毎週見てるんです。サイン下さい！」

つぼみ「分かりました。」

数分後

つぼみ「はい。」

楓「やったー！ありがとうございます！」 嬉しそう。

終「んで、いつき君とゆりさんだったか？あの二人は？」

えりか「ごめん。二人はまだリリカルなのはの世界に来てないんだ。」

終「そうか。」

椛「それといつきは男の子じゃないですわ。」

終「え？」

椛「少しは考えなさい。」 ルシファーで後頭部を殴る。

終「グハッ！」 血塗れ。

なのは「終さーん！」

フェイト「あれ、死ぬし。」

椛「それと気になることがありますわ。」

えりか「何？」

椛「スカリエツティと話してた怪人って一体何者ですか？」

えりか「あたしに質問するな。」

椛「コラー！」

えりか「冗談冗談。変態スカリエツティと話してた怪人は・・・教えませーん」

椛「コラー！いい加減にしないと、来海ももかさん呼びますわ。」

えりか「分かった！教えるからも姉に連絡するのやめて！」

椛「じゃあ教えて。」

えりか「スカリエツティと話してた怪人は、『天装戦隊ゴセイジャー』で登場した怪人です。」

椛「誰？」



えりか「ですが、これ以上言うとネタバレになるのでこのことはノ  
ーコメントで。」

椀「ウフフ」

全員「ん？」

楓「ヤバい！」

終「皆逃げて！」 復活した。

つぼみ「早っ！」

フェイト「え？どういう・・・」

椀「楽しくなってきたわ・・・その時私が全部壊してあ・げ・る」

なのは「嫌な予感。」

ブロッサム「皆さん逃げて下さいーい！」 変身。

終「楓！手を掴まれ！」

楓「はい！」

なのは「えりかちゃん！」

えりか「え？え？」

椛「ウフフ」

なのは「嫌ー！」

ブロッサム「もう駄目ー！」

椛「アハハハハハ！」

ドーン！ 大爆発！

全員「ギヤアアアアア！」 巻き込まれた。

数分後

椛「ウフフ スッキリしましたわ 皆さま、お世話になりました」

終& amp; 楓「……」 真っ黒焦げ。

椛「ほら、楓も挨拶しないと。」

終& amp; 楓「お世話になりました。」

ブロッサム「いえ……」 髪降ろし。

フェイト「楽しかったよ。」 ハゲツルピツカ。

なのは「また来てね。」 体が燃えてる。

えりか「……」 死。

楓「（何とかプリキュアのサインを守った。）プリキュア！ばいばい！  
ーい！」 三人は帰った。

ブロッサム「ハア〜。」

なのは「どうすんの？」

フェイト「どうするって・・・。」

この後三人は、機動六課本部に戻った。

番外編：インフィニットストラトス&amp;ハートキャッチプリキュア（後書

ユートピアさん、ありがとうございました！それとすいません。

番外編：3人目のプリキュア消える

希望ヶ花

いつき「つぼみとえりか、何処に行ったんだろっ?」

ポプリ「いちゆき!早く探すでしゅ!」

いつき「うん!でも家にいないし電話も出ない。」

ポプリ「こんな時は頑張って・・・ん?」

いつき「ポプリ?ん?」

二人の目の前に灰色のカーテンが現れた。

いつき「ポプリ、逃げるよ!」

ポプリ「はいでしゅ!」

二人は灰色のカーテンを避けようとするが、灰色のカーテンはどんどんと追い詰めて行く。

ポプリ「駄目でしゅ!逃げ切れないでしゅ!」

いつき「そんな・・・うわあー!」

二人は灰色のカーテンに包み込んでしまい、灰色のカーテンは消えた。

## 二つ目の任務

### 機動六課

ライン「5月13日、部隊の正式稼働後、初の緊急出動がありました。密輸ルートで運ばれたロストロギア・レリックをガジェットが発見、輸送中のリニアレールを襲撃、それを阻止、レリックを回収するという任務でしたが、六課前線メンバー同の活躍もあって無事に解決。確保した刻印ナンバー9のレリックは、現在中央のラボにて保管調査中。初任務としてはまず問題ない滑り出しだと、部長のはやてちゃん、六課の六課の後見人・騎士カリムやクロノ提督達も満足されているようです・・・っ」と

シプレ「凄くいいですう。」

コフレ「ラインは偉いですっ!」

ライン「ありがとう、シプレ、コフレ」

シャーリー「ライン曹長。」

ライン「あ、シャーリー!」

シャーリー「ご休憩中ですか?」

ライン「休憩半分、お仕事半分、個人的勤務日誌をつけてたですよ。」

シプレ「ラインはとってもいい子ですう。」

コフレ「そうですっ!」

シャーリー「成る程。」

シャーリー「新しいデバイス達の調子を見に、訓練場の方へ行ってきたんですよ。」

リン「そうですか。皆元気でした?」

シャーリー「はい。フォワード陣もデバイス達も、もう絶好調!」

シプレ「シプレも行くですっ。」

コフレ「コフレもですっ!」

## 訓練施設

えりか「凄っ。」

つぼみ「成長しましたね。」

シグナム「花咲、来海、こんな所にいたのか？」

つぼみ「シグナムさん。」

えりか「あんたは参加しないの？」

シグナム「私は古い騎士だからな・・・スバルやエリオのようにミッド式と混じった近代ベルカ式の使い手も勝手が違うし、剣を振るうしかない私が、バックス型のティアナとキャロに教えることはないしな。」

えりか「ふん。（何かオバサンみたい。）」

なのは「二人とも、ちよつといい？」

つぼみ「はい。」

フェイト「実は二人にも訓練した方がいいと思ってるんだ。」

なのは「例えばこれよ。」

するとガジェットが現れた。

えりか「うわ！何でこんなところにいんのよ!？」

フェイト「大丈夫、このガジェットはテスト用だから何も恐れることはないよ。」

つぼみ「そうなんですか？」



なのは「でもこれは実戦だと思ってね。」

えりか「はい！」

数分後

二人はココロパフォームを出した。

シプレ& amp・コフレ「プリキュアの種、行くです！」

つぼみ& amp・えりか「プリキュア！オープンマイハート！」

二人はプリキュアの姿に変わった。

ブロッサム「大地に咲く一輪の花！キュアブロッサム！」

マリン「海風に揺れる一輪の花！キュアマリン！」

ブロッサム& amp・マリン「ハートキャッチ・・・プリキュア  
！」

スバル「やっぱりカッコいい。」

ティアナ「スバル。」

マリン「それじゃ、キバツて行くよ！」

ブロッサム「はい！え？」

全員「・・・」

マリン「たあ！」

ブロッサム「ハア！」

二人はテスト用のガジェットを多数破壊した。

ヴィータ「スゲエな。」

シグナム「ああ。」

マリン「ブロッサム！あれやるよ！」

ブロッサム「あれですか！やります！」

マリン「よし！」

二人はタクトを出した。

ブロッサム& a m p・マリン「集まれ！花のパワー！」

ブロッサム「ブロッサムタクト！」

マリン「マリンタクト！」

ブロッサム& a m p・マリン「ハッ！」

タクトを回した。

ブロッサム& a m p・マリン「集まれ！二つの花の力よ！プリキ

ユア！フローラルパワー、フォルテツシモー！」

二人はガジェットに突撃した。そして・・・

ブロッサム& amp・マリナ、「ハートキャッチ！」

ドーン！

数分後

えりか「疲れた。」

つぼみ「そうですね。」

フェイト「それと二人とも、はやてが呼んでたよ。」

つぼみ「はやてさんが？」

はやての部屋

つぼみ「警備任務？」

はやて「せや。二人にも協力したいんやけど、手伝ってくれる？」

えりか「分かった。手伝うよ。私達は鍛えてますから。シュツ！」

はやて「お願いな！」

つぼみ「はい！」

## ホテルアグスタ

### 食堂ルーム

つぼみ& amp・えりか「……………」

二人はフォワードメンバーを見るともの凄い量のスパゲティを食べた。

つぼみ「どんだけ食うのですか？」

えりか「食いしん坊だね。」

グウ〜。

シプレ「お腹がすいたです。」

コフレ「コフレもです。」

リイン「じゃあお二人も食べて下さいです。」

つぼみ（どうしよう？私、キュアフルミックスがないしどうしたら二人を……）

えりか「こういう時は……ジャン！」

えりかの手にはキュアフルミックスがあった。

つぼみ「え？」

えりかは二人を渡した。

シプレ「ああく生き返ったですう。」

コフレ「コフレもですっ!」

リイン「リインも飲ませて下さいです。」

シプレ「このキュアフルミックスは妖精用ですからリインのはないですう。」

コフレ「そうですっ!」

えりか「あたしも一気に食べるけどいいよね?」

エリオ「え?」

えりか「答えは聞いてない!モグモグ・・・」

つぼみ(どんだけ食べるのですか・・・えりかは。)

一週間が経った。

森の中

「????」もうすぐでお前の探し物に着くぞ。」

「????」うん。」

森の中にはフードを被った男と小さい少女がいた。

へり

はやて「皆いるね。早速やけど今日の任務について説明するぞ。」

数分後

はやて「これで分かった？頼むで皆。」

フォワードメンバー「はい！」

キャロ「あの〜シャマル先生、その箱は何ですか？」

シャマル「ああ、この箱？これは隊長達のお仕事着」

外ではティアナとスバルとつぼみとシプレとシャマルが警戒していた。

つぼみ「今の所は何もないですね。」

シャマル「でもつぼみちゃん、油断しないでね。いつガジェットが出て来るか分からないからね。」

つぼみ「はい。ん？」

つぼみはティアナを見た。

つぼみ（ティアナさん・・・）

その頃、灰色のカーテンからいつきとポプリが出てきた。

ポプリ「いちゆき。」

いつき「此処は何処だろう？ん？あんな所にホテル・・・取り敢えずポプリ、あのホテルに行ってみよ。」

ポプリ「はいでしゅ！」



地下

エリオ「つばみさんは史上最弱のプリキュア呼ばわりされたのですか？」

えりか「うん。でもつばみは少しずつ変わった所があるの。あたしがいたおかげかな？」

コフレ「・・・」

森の中

????「あ、ドクターのオモチャが近付いている。」

????「そうか。」

その頃・・・

『来ました！空戦ガジェット1型！陸戦3型も来てます！』

シヤマル「そう・・・（シグナム、ヴィータちゃん！）」  
シグナム達は・・・

シグナム「分かった！お前達は上に上がりティアナの指揮に動け。  
ホテル前で防衛ラインを設置する。ザフィーラは私と来い！」

エリオ& amp・キャロ「はい！」

えりか「OK！シグナム！」

ザフィーラ「ああ。」

えりか「え？誰今の声？」

ザフィーラ「俺の声だ。」

えりか「い、犬が喋ったー！」

えりかはもの凄く驚いていた。

エリオ「ザフィーラって喋るんだ。」

キャロ「ちよつとびっくり。」

いつき「あ!」

二人の前にはガジェットが襲ってきた。

いつき「何あれ? 砂漠の使徒?」

ポプリ「いちゆき!」

いつき「うん!」

いつきの手からシャイニーパフュームを出した。

ポプリ「プリキュアの種、行くでしゅ!」

いつき「プリキュア! オープンマイハート!」

いつきはプリキュアの姿に変わった。

サンシャイン「陽の光浴びる一輪の花! キュアサンシャイン!」

3人目のプリキュア、闇の王（キング）転生！（前書き）

今回は何と、意外な人物登場！

### 3人目のプリキュア、闇の王（キング）転生！

此処は天国

アンジエ「おい、紅音也。」

音也「何だ？アンジエのおばさん。」

アンジエ「おばさんはやめろ。私はそういうのは似合わないからな。」

音也「スマン。で何だ？」

アンジエ「お前に頼みたいことがある。」

音也「頼みたいこと？それは何だ？」

アンジエ「リリカルなのは世界に行ってくれないか？」

音也「勿論行くさ。俺は断るとい言葉は知らない。」

アンジエ「そうか。頼むぞ。」

音也はなのはの世界に行った。

ホテルアグスタの外

シグナムとヴィータは騎士の姿に変わり、フォワードメンバーは魔道師の服に変わり、つぼみとえりかはプリキュアの姿に変わった。

ヴィータ「まとめて・・・ぶち抜けー！」

シグナム「紫電・・・一閃！」

ザフィーラ「ここは通さん。でりゃあー！」

スバル達は・・・

スバル「副隊長達とザフィーラすごい！」

ブロッサム「一撃で・・・ん？」

ブロッサムはティアナの表情を見た。ティアナは浮かない顔をしていた。

ブロッサム（ティアナさん、まさか・・・）

その頃

スカリエツティ『ご機嫌よう。騎士ゼスト、ルーテシア。』

ルーテシア「ご機嫌よう。」

ゼスト「何の用だ？」

スカリエツティ「あのホテルにレリックはなさそうだが、興味深い物が一つあるんだ。協力を・・・断る。」何故？

ゼスト「レリックが絡む限り、お互いに不可侵を守ると決めただ。だ。」

ルーテシア「私は・・・いいよ。」

スカリエツティ「君は実にいい子だね。今度是非お菓子を買っておこう。」

その時、彼女の手に光が・・・

スカリエツティ「アスクレピオスにデータを送ったよ。ご機嫌ようルーテシア、吉報を待っているよ。」

ルーテシア「うん。ご機嫌ようドクター。」

通信は切った。

ゼスト「いいのか？」

ルーテシア「ゼストやアギトはドクターを嫌うけど、私はドクターのこと嫌いじゃないから・・・」

ゼスト「そうか。」

ルーテシア「召喚・・・インゼクト。」

するとなにやらぬるぬるした物体が現れた。

ルーテシア「行ってらっしゃい・・・気を付けてね。」

サンシャインは・・・

サンシャイン「ハア・・・ハア・・・何とか仕留めた。それにしても、このロボットは一体？」

ポプリ「サンシャイン！あれ！」

サンシャイン「ん？」

二人の空を見ると、インゼクトが目的地に行く途中に目撃した。

サンシャイン「何あれ？あそこに何が・・・」

サンシャインとポプリは目的地に移動中のインゼクトの後を追った。



そこにティアナ達が駆けつけた。

ティアナ「皆、行くよ!」

スバル「OK!」

エリオ& amp; キャロ「はい!」

ブロッサム「マリン!行きましょう!」

マリン「さあ思いつきり・・・振り切るぜ!」

ルーテシア「ドクターの探し物、見つけた。」

ついにレリックを見つけてしまった。

そこに灰色のカーテンから音也と黒い蝙蝠が出てきた。

音也「此処か。ん?」

物音が出てきた。

「????何かやってるようだな。」

音也「ああ。久し振りにやるか。」

「????ガブリ。」

黒い蝙蝠は音也の手を噛み付き、腰からベルトが出てきた。

音也「変身。」

すると音也の姿が、黒い戦士に変身した。その姿は、『仮面ライダーダークキバ』である。

シヤマル『防衛ライン、もう少し持ち堪えてね！もうすぐヴィータ副隊長が助けに来るわ！』

スバル& amp; エリオ& amp; キャロ「「はい！」」

キャロ「あ、エリオ君！」

エリオの後ろにはガジェットがいた。

エリオ「しまった！」

その時！

サンシャイン「ハッ！」

サンシャインがエリオを助けた。

サンシャイン「大丈夫？」

エリオ「はい。」

マリ「おーい！エリオー！」

そこにブロッサムとマリがやってきた。

エリオ「あ、つぼみさん！えりかさん！」

サンシャイン「え？」

ブロッサム「間に合いました。って……」

……

ブロッサム& amp・マリ「サンシャインー!?」

サンシャイン「二人とも、探したよ」

シプレ「ポプリ！」

ポプリ「無事だったんでしゅね！」

キャロ「知り合いですか？」

ブロッサム「話は後です。ヴィータ副隊長達が来るまで何とか持ち堪えましょう！」

エリオ& amp・キャロ「はい！」

ティアナ「守ってばかりじゃ行き詰まります！ちゃんと全機落とします！」

マリン「ちょっとティアナ！何言ってるのよ！？」

ティアナ「私とスバルのクロスシフトAなら行きます！行くわよスバル！」

スバル「おう！」

シャマル『ティアナ！』

サンシャイン「・・・」

（証明するんだ。魔力が無くても・・・ランスターの弾丸は敵を仕留めることを出来るんだって！）

ブロッサム「ティアナさん！」

ティアナ「クロスファイアー・・・シュート！」

多数のガジェットを破壊した。

ティアナ「うわああああ！」

だが一つだけ外れ、そこには・・・

ポプリ「うわあー！」

ポプリがいた。

サンシャイン「ポプリ・・・ポプリー！」

ポプリ「サンシャイン！」

サンシャイン（ダメ！間に合わない！）

そして・・・

ドーン！

直撃した。

マリ「そんな・・・」

コフレ「ポプリが・・・」

サンシャイン「ポプリ・・・ポプリー！」

サンシャインは大粒の涙を出した。

サンシャイン「ポプリ・・・ポプリ」。 (泣)

ティアナ「あ。私・・・」

エリオ「ん？あれは・・・」

サンシャイン「？」

そこにバリアみたいのような物が出ていた。バリアが消え、その前にはダークキバがいた。そこにはポプリが・・・

サンシャイン「ポプリ！」

ポプリ「いちゆき！怖かったでしゅ！」

サンシャイン「良かった。ホントに良かった！」

ダークキバ「やっぱ此処にきた方が正解だったな。」

ダークキバット「ああ。」

ダークキバから音也に戻った。

ブロッサム「貴方は？」

音也「俺か？俺の名は、紅・・・音也だ。」

その後、ヴィータが駆け付け、ティアナはヴィータに叱られた。つぼみはいつきやポプリに説明し、音也のことについてはつぼみ達は分からなかった。その頃、ヴィータに叱られたティアナは・・・

ティアナ「……」

スバル「ティア。その……」

ティアナ「あんた行きなさい。私はもう少し此処で警備するから。」

スバル「ティア。あの時、こんなことになるとは思わなかった。だから私は……」

ティアナ「行けって言ってるでしょ!」

スバル「そう……だね。ゴメンね、ティア。」

スバルはヴィータ達の所に行った。

ティアナ「何がゴメンよ？謝らなきゃいけないのは、私の方なのに……私は……私は……」

ティアナの涙は止まらなかった。

3人目のプリキュア、闇の王（キング）転生！（後書き）

えりか「うっそー!？」

いつき「何でダークキバが何か出したの!？」

作者「まあ、他に思いつかなかったから。」

ムーンライト「お仕置きね。」

作者「へっ?」

ムーンライト「プリキュア!シルバーフォルテウェイブ!」

作者「うわあー!」



## ティアナの悩み（前書き）

ここで言いますが、スカリエツティヤルーテシアやゼストやアギト（ライダーではない方）は出ますが、クワットロやディエチやウーノやセインやドワーエヤトーレヤチンクヤセツテヤオットーヤノーヴェヤウエンディヤディードは出ません。

## ティアナの悩み

希望ヶ花

ゆり「つぼみやえりかに続いていつきまで、どっなってるの?」

????「ゆりちゃん!」

ゆり「薰子さん!」

そこに薰子がやってきた。

薰子「つぼみは見つかったの?」

ゆり「それがまだなんです。」

薰子「そうなの。ゆりちゃん、探すのは明日にしましょう。まっすぐで日が暮れるから。」

ゆり「はい。」

機動六課

いつき「可愛いー!」

フリード「キョクッ。」

いつき「こんなに可愛い童が見るなんて初めて!」

ヴィータ「本当にこいつは・・・女なのか?」

えりか「そうだよ。」

キャロ「あゝ、いつきさん。フリードを離して下さい。」

いつき「あ、ゴメンね。いやゝ、可愛い物を見ると凄く感動しちゃうんだ。」

エリオ「本当に女の子なんだ。」

つぼみ「あれ、スバルさん。ティアナさんは?」

スバル「あ、それが・・・」

天才バカは・・・

音也「誰が天才バカだ! まあいい。せつかくだから俺は機動六課の

サポートになった。さてヴァイオリンでも・・・ん？」

音也は窓から外を見るとティアナがいた。

音也「アイツ、こんな時間に何してんだ？」

音也はティアナがいる所に行った。

つぼみ「ティアナさん、何があつたのですか？説明して下さい。」

えりか「あたしもティアナの戦いが気になつてた。何の関係なの？」

いつき「お願いします。」

なのは「分かつた。ティアナのことについて説明するから。」

ティアナは・・・

ティアナ「ハア・・・ハア・・・」

音也「おい、こんな時間に何やってんだ？」

そこに音也がやってきた。

ティアナ「貴方は確か・・・」

音也「紅音也だ。女がこんな練習をするなんて似合わないぞ？少しは休んだらどうだ？」

ティアナ「大丈夫よ。私はこれくらいまだ動きますから。」

音也「頭を冷やせ。でないとなんか分からないぞ？」

ティアナ「私は強くなりたいたいからここに入ったのです。だから帰って下さい。」

音也「ハア、勝手にしろ。」

音也は去った。

ティアナ（絶対に証明して見せる！）

つぼみ達は・・・

つぼみ「そうですか。」

えりか「だからあんな戦い方に・・・」

いつき「・・・」

ポプリ「いちゆき、どうしたのでしゅ？」

いつき「うんうん、何でもない。」

シグナム「明日はスターズの模擬戦だ。花咲、来海、明堂院。明日は忘れるな。」

つぼみ& amp・えりか& amp・いつき「」「はい！」「」

音也は・・・

キバット？世「いいのか？」

音也「ああ。アイツの勝手かもしれない。だけど、明日はどんな攻撃をやるのか見る。ただそれだけだ。」

キバット？世「そうか。」

スバル「ティア。」

ティアナ「何？」

スバル「明日は模擬戦だから一緒に頑張ろう。」

ティアナ「うん。」

二人は寝た。

**模擬戦（前書き）**

今回はあの怪人が登場！



## 模擬戦

### 訓練施設

なのは「じゃあ午前中のまとめ、20:01で模擬戦をやるよ。まずはスターズから。バリアジャケット、用意して。」

スバル& amp・ティアナ「はい!」「」

ヴィータ「エリオとキャロとえりかといつきはあたしと見学だ。」

エリオ& amp・キャロ「はい!」「」

えりか「寄りに寄ってつぼみはまた寝坊か。」

いつき「ここは仕方ないよ。」

二人はバリアジャケットを付けた。

ティアナ「やるわよ。スバル。」

スバル「うん!」「」

そこにつぼみとシプレとフェイトがやってきた。

フェイト「あ、模擬戦始まった?」「」

エリオ「フェイトさん、つぼみさんも。」

つぼみ「えりか！何で起こしてくれなかったのですか！？」

えりか「うるさいな。何度も起こしたよ！」

いつき「つぼみ、ここは自業自得だよ。」

つぼみ「はあ。」

シプレ「つぼみ。」

フェイト「私も手伝おうと思ったんだけど・・・」

ヴィータ「今はスターズの番。」

フェイト「ホントはスターズの模擬戦も私が引き受けようと思ったんだけど・・・」

つぼみ「そうなんですか？」

ヴィータ「ああ、なのはもここんどこ訓練密度濃いからな。少し休ませねえと。」

フェイト「なのは、部屋に戻ってからもずっとモニターに向かいっぱなしなんだよ。訓練メニュー作ったり、ビデオでみんなの陣形をチェックしたり・・・」

エリオ「なのはさん、訓練中もいつも僕達のこと見ててくれるんですよね？」

フェイト「本当に・・・ずっと。」

えりか「休みなしで……」

いつき「……」

その頃、なのはは……

ティアナ「クロスファイアー、シュート！」

なのははティアナの弾丸を防いだ。そこにスバルが攻撃を仕掛けてきた。それを見たヴィータ達は……

えりか「フェイクだね。」

つぼみ「いえ……」

ヴィータ「？」

つぼみ「あれはフェイクじゃありません。本物です。」

全員は驚いた。

エリオ「分かるのですか？」

つぼみ「うん。分かるんです。私には分かるんです。」

なのは「フェイクじゃない・・・本物!？」

なのはは一瞬フェイクかと思ったが本物だと分かった。

スバル「うおおおおおおお!!」

スバルはなのはに思いつきりに攻撃した。がなのははスバルの攻撃を防いだ

なのは「スバル、危ないじゃない!そんな攻撃をしたら!」

スバル「すいません。今度はちゃんと防ぎます。」

えりか「あれ?」

キャロ「どうしたのですか?えりかさん。」

えりか「ティアナがいない!」

えりかはティアナがいないことに気付いていた。

ティアナ(スバル、クロスシフトC、行くわよ!)

スバル「おう!」

なのは「くっ!」

スバル「うおおおおお！」

スバルはなのはに攻撃しようとしたが、また防いだ。

スバル「ティアー！」

なのは「！」

本物のティアナはウイングロードを走っていた。

ティアナ「バリアを切り裂いてフィールドを突き抜ける！一撃必殺！」

ティアナはなのはに攻撃しようとした。

ティアナ「やあああああ！」

だがその時！

スバル「キヤア！」

ティアナ「え！？キヤア！」

なのは「うっ！」

何かの光弾でスバルとティアナに当たった。なのはは光弾を防いだ。

フェイト「な、何！？」

ヴィータ「一体何だよあれ!？」

コフレ「あ!あれ見るですっ!」

コフレが指を指した視線を見るとそこには、怪人がいた。

???「ようやく見つけたぞ、小娘!」

ティアナ「誰!？」

デレプタ「俺はナンバーズ07のデレプタだ!」

スバル「デレプタ?」

ティアナ「なのはさんの模擬戦を邪魔しないで!」

デレプタ「黙れ!流星弾!」

ティアナ「!」

デレプタの必殺技、流星弾がティアナに向けて放った。ティアナは逃げられなかった。そして・・・

ドーン!

直撃した。

スバル「ティアー!」

なのは「ティアナが、そんな・・・」

デレプタ「フン。」

デレプタは去ろうとしたが・・・

デレプタ「なっ！」

ティアナはまだ死んでいなかった。ひまわりみたいのようなバリアでティアナを守ったのは3人のプリキュアだった。

サンシャイン「ティアナさん。大丈夫ですか？」

ティアナ「いつ・・・き。」

ティアナは気絶した。

サンシャイン「スバルさん、ティアナさんをお願い。」

スバル「分かった！」

スバルはティアナを連れて安全な場所へ隠れた。

デレプタ「何だ貴様等は？」

ブロッサム「私達は・・・通りすがりのプリキュアです！」

マリ「なのは達の模擬戦を邪魔するなんて許せない！」

サンシャイン「みんな！」

ブロッサム& amp・マリン」「うん！」

サンシャインの手にタンバリンみたいなような物を出した。

サンシャイン「集まれ！花のパワー！シャイニータンバリン！ハアッ！」

サンシャインはタンバリンを回し、タンバリンを叩き始めた。

サンシャイン「花よ！舞い踊れ！プリキュア！ゴールドフォルテバースト！」

ブロッサム& amp・マリン」「ハアッ！」

二人はタクトを回した。

ブロッサム& amp・マリン」「集まれ！二つの花の力よ！プリキュア！フローラルパワーフォルテツシモー！」

二人はサンシャインの必殺技を突撃した。そして二人の体が黄金になり、そして……

サンシャイン「プリキュア！シャイニング……」

ブロッサム& amp・マリン」「フォルテツシモー！」

デレプタは三人の必殺技を防ぐ。

デレプタ「くっそ、此処は撤退だ！」



デレプタは消えた。ブロッサムとマリンは壁に激突した。

サンシャイン「ブロッサム！マリン！大丈夫？」

マリン「な、何とか・・・」

ブロッサム「大丈夫です。」

二人は苦笑いしていた。

番外編：4人目のプリキュア消える

希望ヶ花

薰子「ゆりちゃん、つぼみはいたの？」

ゆり「それがまだなんです。つぼみに続いてえりかといつきが消えるなんて思いませんでした。」

薰子「そうなのね。」

ゆり「私はあっちの方へ探します！」

薰子「ゆりちゃん！」

ゆり「何ですか？」

薰子「これを・・・」

薰子の手には鏡みたいのようなアイテム、『ハートキャッチミラー  
ジュー』をゆりに渡した。

薰子「もしもゆりちゃんまで消えたら、これでも持っていきなさい。  
頼んだわよ。」

ゆり「はい！」

薰子は向こうに行き、つぼみを探しに行った。

ゆり「みんな、無事でいて。私は・・・」

ゆりの目の前には灰色のカーテンが現れた

ゆり「今行くから！」

ゆりは灰色のカーテンに入り、灰色のカーテンは消えた。

なのはの過去（前編）

医務室

ティアナ「ん？此処は？」

シャマル「ティアナ、目が覚めたの？」

ティアナ「私は確か、いつきが・・・」

シャマル「いつきちゃんは貴方を守ったのよ。それからティアナは  
気絶したのよ。」

ティアナ「そうですか。」

何かの研究所

スカリエツティ「どうだった？テレプタ。」

テレプタ「ああ。エースオブエースの小娘がまだ生きていたらしい。

」

スカリエッティ「それはそうさ。高町なのはは時空管理局だから。」  
デレプタ「くっ！」

スカリエッティ「さて、どんなことをやるのか？それにあいつから貰った奴でも使うか。」

### つぼみの部屋

えりか「あのさつぼみ、気になったけど、あたし達どうして此処に来たんだろっ？」

つぼみ「分かりません。きっとこの世界に砂漠の使徒が存在してるかもしれない。」

シプレ「つぼみ！何言ってるですっ！」

コフレ「砂漠の使徒はもういなくなっただすっ！」

つぼみ「そうですね、何か嫌な予感が・・・」

ウィーン！ウィーン！

その時、警報がなった。

いつき「つぼみ！えりか！」

つぼみ& amp・えりか「うん！」

ヘリポート

なのは「今回は空中戦だから私とフェイト隊長とヴィータ副隊長の3人。」

フェイト「みんなはロビーで出動待機ね。」

えりか「あゝあ、あたし達は出動待機か。」

つぼみ「しょうがないですよえりか。今回は空中戦だからここは我慢をしましょう。」

えりか「ちえつ。」

ヴィータ「そっちの指揮はシグナムだ。留守を頼むぞ。」

スバル& amp; エリオ& amp; キャロ「はい！」

ティアナ「はい・・・」

何故かティアナは元気がなかった。

なのは「それとティアナ。」

ティアナ「ん？」

なのは「ティアナは、出勤待機から外れところか？」

ティアナ「！」

全員は驚いた。

えりか「え？ちょっとそれって・・・」

ヴィータ「その方がいいな。そうしておけ。」

なのは「ティアナにはこれ以上・・・」

ティアナ「命令に従えない奴は、使えないことですか？」

なのは「私の言ってることは当たり前だよ、それ。」

ティアナ「現場での指示はちゃんと聞いて、教導だつてちゃんとサボらずやっています。それ意外の努力だつて教えられたり通りじゃないと駄目なんですか？」

ヴィータは加減しようとするが、なのはがヴィータを止める。

ティアナ「私は、なのはさんみたいのようなエリートじゃないし、スバルやエリオの才能や・・・キャラみたいなレアスキルもない！少しくらい無茶したって死ぬ気でやらなきゃ強くなんなれないじゃないですか！」

ポプリ「いい加減にして欲しいでしゅー！」

ポプリが叫んだ。

ティアナ「ポプリ？」

ポプリ「ティアナは悪魔に負けてるでしゅー！あの時音也しゃんがいなかったら、ポプリは死んでたでしゅー！ティアナの意気地なし！ティアナの弱虫！そんなティアナなんか見たくないでしゅー！」

ティアナ「ポプリ。」

いつき「ポプリ、もういいよ。怒ったって何も変わらない。」

ポプリ「いちゅき。ひゅく。（泣）」

ティアナ「・・・」

シグナム「ヴァイス！もう出られるな？」

ヴァイス「乗り込んでくりゃ直ぐにでも！」

そしてヘリが・・・



なのは「ティアナ！私が戻ってから、ティアナのことちゃんと話すから！」

ヴィータ「だから付き合うなってのに！」

フェイト（エリオ、キャロ。ごめん、そっちのフォローをお願い。）

エリオ&amp;キャロ（はい。）

なのは達は目的地に向かった。

シグナム「いつまでも甘ったれてないでさっさと部屋に戻れ。」

スバル「シグナム副隊長。」

シグナム「何だ？」

スバル「命令違反はだめだし・・・さっきのティアアのもいいとか、それを止められなかった私は確かに駄目だったと思います。」

つぼみ「スバルさん。」

スバル「だけど・・・自分なりに強くなるうとするのとかきつい状況でも何とかしようとそんなにいけないことでしょうか！」

えりか「・・・」

スバル「自分なりの努力とか・・・そういうこともやっちゃいけないんでしょうか!？」

シャーリー「自主練習もいいことだし、強くなることの努力も凄くいいことだよ。」

そこにシャーリーがやって来た。

シグナム「持ち場はどうした？」

シャーリー「メインオペレートはライン曹長がやってくれますから。みんな不器用で、見てられなくて。」

つぼみ「シャーリーさん？」

シャーリー「みんな、ちょっとロビーに集まって。私が説明するから・・・なのはさんのことなのはさんの、教導の意味を。」

なのはの過去（前編）（後書き）

音也「今回も俺の出番なしかよ。」

なのはの過去（後編）

ロビー

音也「おい、何だ話って？」

シャーリー「昔ね、一人の女の子がいたの。その子は本当に普通の子で、魔法なんて知りもしなかったり、戦うような子じゃなかった。」

シャーリーはモニターをつけた。

つぼみ「なのはさん？」

えりか「？」

シャーリー「友達と一緒に学校に行つて、家族と幸せに暮らして、そういう一生を送るはずだったんだけど、事故が起きたの。魔法学校に通つていたわけでもないし、特別なスキルがあつたわけでもない。偶然の出会いで魔法を得て、たまたま魔力が大きかつただけの、9歳の女の子が、魔法と出会ってからわずか数カ月で命がけの実戦を繰り返してきたの。」

エリオ「これは・・・」

シャーリー「フェイトさんよ。」

そこにえりかが・・・

えりか「あのさ、魔法と言えば『魔法戦隊マジレンジャー！』だよ  
ね。」

全員「は？」

いつき「えりか、今何の話？」

えりか「いや、あの〜・・・」

シグナム「話を聞いてないなら寝ろ。」

えりか「今の冗談です！ちゃんと人の話聞いてますよ！」

シグナム「話を戻す。テストロッサは当時、家庭環境が複雑でな。  
あるロストロギアを巡って敵同士だったそうだ。この事件はテスト  
ロッサの母、プレシア・テストロッサの名を取って『PT事件』ま  
たは『ジユエルシード事件』と呼ばれるようになった。」

えりか「あの〜、もっと詳しく説明を・・・」

エリオ「収束砲！こんな大きな！」

キャロ「9歳の女の子が・・・」

エリオ「只でさえ、大威力魔法の負担はかかるのに！」

えりか「もう〜わけ分からなくなった。」

シグナム「その後も、戦いは続けた。」

シャーリーはモニターを変えた。今度はシグナム達が知ってる映像

だ。

シヤマル「私達が深く関わった、闇の書事件。」

えりか「????」

シグナム「襲撃戦での撃墜未満。そして、敗北。それに打ち勝つために選んだのは、当時はまだ安全性が危うかったカートリッジシステムの使用。体の負担を無視して自身の力を引き出すフルドライブ、エクセリオンモード。誰かを救うため、自分の思いを通すための無茶を高町はしてきた。だが、そんなことを繰り返して身体に負担が生じないはずがない。」

音也「つまりそれは・・・なのはちゃんの疲れか。」

シヤマル「事故が起きたのは、入局して2年目の冬。任務の帰り、ヴィータちゃんや部隊の人達と出かけた場所、不意に現れた未確認の襲撃。いつもなのはちゃんなら何の問題もなく、味方を守って落とせる相手だったはずなんですけど、溜まっていた疲労と続けてきた無茶が、なのはちゃんの動きをほんのちよつと鈍らせちゃったの。」

シャーリー「その結果がこれ・・・」

シャーリーはモニターを変えた。そして全員は驚いた。

シヤマル「なのはちゃん。「無茶して迷惑かけてごめんなさい。」って私達の前では笑ったけど、もう飛べなくなるかもしれない。とか立って歩けなくなるのかもしれないって聞かされて、どんな思いだったのか。」

シグナム「無茶をしても、命を懸けて勝たねばならぬ闘いの場は確かにある。だが、お前がミスショットしたあの場面は、仲間や安全や、命を懸けてもどうしても撃たねばならない状況だったか？訓練中のあの技は、一体誰のための、何のための技だったか？」

ティアナ「そ、それは・・・」

シャーリー「なのはさんは、皆に自分と同じ思いをさせたくないんだよ。だから、絶対無茶なんかしないように、皆が絶対無茶なんかしないように・・・」

音也「・・・」

シャーリー「本当に丁寧に、一生懸命考えて教えてくれるんだよ。」

つぼみ達は一発で理解したが、えりかだけは理解出来なかった。

なのは達は・・・

ヴィータ「何とかガジェットを全部片付けたな。」

フェイト「じゃあ帰ろっか？」

なのは「うん。」

そこに蝙蝠みたいな大群が現れた。

ヴィータ「何だこいつ?」

その蝙蝠はコウモリスナッキーである。

フェイト「襲ってきた!？」

なのは「この蝙蝠、魔力を感じないよ。」

ヴィータ「どどういうことだよ?」

そこに後ろからコウモリスナッキーがヴィータに襲おうとした。

フェイト「ヴィータ、後ろ!」

ヴィータ「な、しまった!」

その時!

ドーン!

ヴィータ「ん?何だ?」

ヴィータの目の前には銀色のプリキュアが現れ、ヴィータを守った。

????「大丈夫?」



ヴィータ「ああ。」

????「このスナッキーは私に任せて。」

なのは「貴方は？」

ムーンライト「私は・・・月光に冴える一輪の花！キュアムーンライト！」

なのはの過去（後編）（後書き）

ゆり「やっと私の登場ね。」

えりか「シャーリーの声って誰かに似てりよっな？」

#### 4人目のプリキュア転生！

ムーンライト「ハア！」

ムーンライトはコウモリスナツキーに殴りかかった。コウモリスナツキーは落ちた。

フェイト「あの人、凄い。」

ヴィータ「ああ。」

なのは「あの人もつぼみちゃん達と関係があるかも。」

ムーンライト「集まれ、花のパワー！ムーンタクト！」

ムーンライトの手にタクトを持った。

コウモリスナツキー「キー！？」

ムーンライト「花よ輝け！プリキュア！シルバーフォルテウェイブ  
！」

シルバーフォルテウェイブで沢山のコウモリスナツキーを落とす。そしてコウモリスナツキーは逃げた。

ヴィータ「有難う。助けてくれて。」

ムーンライト「別に、私はつぼみとえりかといつきを探しにきただけよ。」

フェイト「やっぱりつぼみ達の知り合いなんだ。(何だろう?あの人の声を聞いてたら、どこか懐かしいような感じがする。)」

ムーンライト「つぼみ達の所へ案内してくれない?」

なのは「つぼみちゃん達の所ですか?分かりました。ヴァイス君!」

ヴァイス「はい!」

フェイト「じゃあへりに乗って下さい。」

ムーンライト「分かったわ。」

ムーンライトはゆり姿に戻り、なのは達は機動六課に案内した。

## 何かの研究所

スカリエツティ「4人目のプリキュアか。仲々興味深い奴じゃないか。」

????「スカリエツティ、こっから先は、地獄になるみたいだなあ。」

そこに男が現れた。

スカリエッティ「おや、ナンバーズ04の大道克巳。ドクターの前で敬語じゃないとは侵害だね。」

克巳「そんなことはどうでもいい。それにおもしろくなっただ。この展開は。」

スカリエッティ「そうか。次が楽しみだね。」

ヘリポートの外

なのは「駄目じゃないシャーリー。勝手に人の過去を明かしちゃったら・・・」

シャーリー「ごめんなさい。それでこの人は？」

フェイト「この人はつぼみ達の知り合いです。」

シャーリー「つぼみちゃん達の？」

ゆり「ええ。つぼみ達は今何処に？」

シャーリー「つぼみちゃんなら自分の部屋にいます。」

なのは「そう。じゃあ私は用事があるから二人はこの人をお願いね。」

フェイト「うん。」

ヴィータ「ああ。」

なのははそう言うと、なのはは中に入った。

フェイト「じゃあ私達が案内しますから連れてきて下さい。」

ゆり「分かったわ。」

## プリキュアの部屋

つぼみ「なのはさんにこんなことがあったなんて……」

シプレ「驚きですう。」

コフレ「何故えりかは理解しなかったです？」

えりか「だって……」

いつき「ポプリ。どうしたの？」

ポプリ「いちゆき。ポプリはティアナに酷いこと言ってしまったでしゆ。いちゆき、どうしたらいいでしゆか？」

いつき「謝ればいいんだよ。謝ればティアナさんは分かってくれるはずだよ。」

ポプリ「いちゆき。」

そこからフェイトとヴィータが入ってきた。

フェイト「皆いたんだ。」

つぼみ「フェイトさん。」

ヴィータ「丁度あんた等の知り合いを連れてきたぜ。」

えりか「え？」

フェイト「入って下さい。」

ドアからゆりが出て来た。

つぼみ&amp;・えりか&amp;・いつき」「ゆ、ゆりさん!」

ゆり「皆、無事で良かったわね。」

えりか「どうして!？」

ゆり「あら、せっかく此処に来たのに不満かしら？」

いつき「いや、そういうわけじゃ……」

ゆり「それとこれを持ってきたよ。」

ゆりの手にはハートキャッチミラージュがあった。

つぼみ&amp;・えりか&amp;・いつき」「ハートキャッチミラージュ!」「」

ゆり「私が此処に来る前、薫子さんがこれを渡してくれたのよ。」

つぼみ「お祖母ちゃんか？」

ゆり「ええ。」

えりか「よし!これさえあれば、スーパーシルエットが出来ますね!」

いつき「よし、僕達で頑張るぞ!」

つぼみ&amp;・えりか」「おー!」「」



ゆり「それと、砂漠の使徒が現れたわ。」

つぼみ& a m p・えりか& a m p・いつき「」「え!?!」「」

つぼみ「そんな!砂漠の使徒はもう・・・」

ゆり「スナツキーが現れたからにはもう砂漠の使徒だということは  
確実よ。」

えりか「嘘。」

ヴィータ「なあ、砂漠の使徒って何だ?」

つぼみ「それは・・・」

つぼみ達はフェイト達に砂漠の使徒について説明した。

ティアナ「さて、なのはさんのお話が終わったし、そろそろ戻るか。」

ポプリ「ティアナ!」

そこにポプリがやってきた。

ティアナ「ポプリ。」

ポプリ「ティアナ、さっきは酷い」と言ってしまったってごめんなさい  
でしゅ。」

ティアナ「いいのよ。私も悪かったから。ポプリはいい子だよ。」

ポプリ「ティアナ。」

ティアナはポプリに抱きしめた。

ティアナ「有難う。」

ポプリは涙を出した。

ポプリ「ティアナ、ごめんなさいでしゅ！うえ〜ん！」

ポプリの涙は止まらなかった。

番外編：スバルの過去（前書き）

最後はガタツクさんの要望である二人のキャラが出ます。

## 番外編：スバルの過去

それは・・・私が機動六課に入る前の4年前の出来事です。

ミッドチルダ臨海第8空港

この第8空港はとてつもなく大火災が発生していた。その中には少女がいた。

スバル「お父さん、お姉ちゃん。キヤーツ！」

倒れてきた物が風圧で飛ばされた。

スバル「痛いよ、熱いよ、こんなの嫌だよ！帰りたいよ！」

像が倒れそうになった。

スバル「誰か、誰か助けて！」

その時！

ドォーン！

スバル「え？」

何かの光弾で像を破壊し、スバルを守った。スバルは後ろを振り向くとそこには、目が黄色いのと黒い服と背中には片方の翼を持った女性がいた。

スバル「あ！管理局だ！あれ？」

そこに管理局が現場に到着した。スバルは黒い服を着た女性を振り向くとそこには女性の姿はなかった。

## 現代 訓練施設

スバル「あの人に会いたいな。」

ティアナ「スバル、どうしたの？」

スバル「うんうん、何でもないよ。」

ティアナ「そう。速く行かないと訓練に遅刻しちゃう！急ぐよ！」

スバル「うん！」

その頃、灰色のカーテンから少年と色気の薄い少女が出て来た。

???「あれ、此処は何処なんだろう？」

???「私達は確か、なのはさん達と一緒に翠屋に遊びに行こうと思っ……」

???「取り敢えず此処を探してみるか。」

???「うん。」

番外編：スバルの過去（後書き）

ガタツクさん、今回は貴女のキャラの出番が少なくてすみません。  
でもいつかは絶対に出番を増やしますから。

## プリキュアVSフォワード（前編）

### 訓練施設

つぼみ「私達がスバルさん達の相手に？」

フェイト「うん。エリオ達の力はどうなのかつぼみ達が試すのよ。」

えりか「だからって何であたし達まで・・・」

なのは「だって、いつも訓練での相手は私かヴィータちゃんやフェイトちゃんばかりだから、たまにはつぼみちゃん達の方がいいかな、」  
、「と、思、っ、て。」

いつき「そうですね。」

なのは「どう、やってみる？」

そこにゆりが・・・

ゆり「なのは、スバル達の相手をするのなら当たっても構わないの？」

なのは「え？それは構いませんが・・・」

えりか「よし、その話、乗ったよ！」

つぼみ「じゃあお願いします。」



数分後

スバル「あの〜、なのはさん。」

なのは「ん？何、スバル。」

スバル「どうしてつぼみちゃん達がいるのですか？」

なのは「うん、今日の朝の訓練はつぼみちゃん達の戦闘訓練だよ。」

フォワードメンバー「えっ!?!」

いつき「そういうことだよ。」

えりか「さ〜て、早速訓練を始めるよ!」

エリオ「えりかさん、やる気満々ですね。(汗)」

つぼみ「でもシプレ達がいませんか?」

えりか「あ。」

いつき「ポプリ達がないとプリキュアには・・・」

そこに・・・

シプレ& amp・コフレ& amp・ポプリ「お待たせしました  
ですー！（でしゅー！）」「」

つぼみ「シプレ！」

えりか「コフレ！」

いつき「ポプリ！」

ゆり「貴女達、バリアジャケットに変えなさい。」

フォワードメンバー「はい！」

フォワードはバリアジャケットに変えた。

ゆり「シプレ達も来た所だから、皆、行くわよー！」

つぼみ& amp・えりか& amp・いつき「「「はい！」「」」

つぼみとえりかはココロパフュームといつきはシャイニーパフュームとゆりはココロポットを出した。

シプレ& amp・コフレ& amp・ポプリ「プリキュアの種、  
行くですー！（でしゅー！）」「」

シプレとコフレとポプリからプリキュアの種が出て来た。そして・

つぼみ& amp;・えりか& amp;・いつき& amp;・ゆり」「」「  
プリキュア！オープンマイハート！」「」「」

4人はプリキュアの姿に変わった。

ブロッサム「大地に咲く一輪の花！キュアブロッサム！」

マリ「海風に揺れる一輪の花！キュアマリン！」

サンシャイン「陽の光浴びる一輪の花！キュアサンシャイン！」

ムーンライト「月光に冴える一輪の花、キュアムーンライト！」

ブロッサム& amp;・マリ& amp;・サンシャイン& amp;・ム  
ーンライト」「」「ハートキャッチ、プリキュア！」「」「」

スバル「やつぱりかっこいい！」

ティアナ「スバル。」

なのは「それじゃあ勝利条件を教えるよ。目的はつぼみちゃん達の  
プリキュアをティアナ、スバル、エリオ、キャラの四人で撃破する  
こと。時間制限はないから全力で相手をするように。いいね？」

フォワードメンバー「はい！」

そして戦闘区域まで移動した。

なのは『それでは、準備はいい？』

フォワードメンバー「はい！」

マリン「準備OKよ！」

サンシャイン「こっちも。」

ムーンライト「いつでもいいわ。」

ブロッサム「どうぞ。」

なのは『では、レディー……コー……』

フォワードとプリキュアの戦いは始まった。

## プリキュアVSフォワード(中編)

スバル「リボルバー、シュート！」

スバルがブロッサム達に攻撃を仕掛けた。しかし・・・

サンシャイン「サンフラワーイーゼス！」

サンシャインが攻撃を防ぐ。

マリ「言っとくけど、あたし達は手加減しないからね！」

エリオ(みなさん、本気みたいです。)

キャロ(どうしよう?)

ティアナ(みんな、焦らないで。スバル、リボルバーナックルで砂煙を巻き上げて。その隙に私とキャロは指揮のしやすい高台で援護するからスバルとエリオはつばみ達に攻撃を仕掛けて、いいわね！)

スバル(分かった！)

エリオ(分かりました！)

スバルは地面に拳を叩き付ける。するとそこにもの凄い勢いで砂煙が巻き起こった。

ブロッサム「くっ！何ですかこれ!？」

ムーンライト（砂煙に紛れての奇襲攻撃？その技はもう見切ったわ！）

すると後ろからスバルが襲いかかった。

ムーンライト「ムーンライトリフレクション！」

ムーンライトはスバルの攻撃を防ぐ。

ブロッサム「えっ？」

ムーンライト「甘いわね、そういうパターンはもう計算済みよ。これから・・・って嘘！？」

気付くとそこには何人ものスバルとエリオが取り囲むように配置されていた。

マリ「ちょっと何！？」

サンシャイン「スバルとエリオがいっぱい・・・」

ムーンライト「（これはティアナの幻術魔法ね。どうやら幻術を使ってこつちを疲れさせるのを待ってから総攻撃を仕掛ける作戦ね。ここからは一気に片付けるか）集まれ！花のパワー！ムーンタクト！」

ブロッサム「ムーンライト、どっちが本物が分かりますか？」

ムーンライト「勿論よ、本物はここにはいないわ。」

サンシャイン「え!？」

マリ「じゃあ何処にいんのよ!？」

ムーンライトは目を閉じ、タクトを構えた。そして・・・

ムーンライト「そこ!」

ムーンライトの攻撃は木に隠れていたスバル（本体）に当たった。

スバル「え!？うわっ!」

スバルは見破ったことに驚いた。

スバル（嘘・・・何で本物だと分かったの?）

マリ「ムーンライト凄い!」

ムーンライト「感心してる場合じゃないわ。エリオがいるよ。」

再びムーンライトは目を閉じ、タクトを構えた。そして・・・

ムーンライト「そこ!」

発射した先には、木に隠れていたエリオ（本体）がいた。エリオはその攻撃を防ぐと、ブロッサム達に突っ込んでくる。

ブロッサム「みんな、行きますよ!」

マリ& amp; サンシャイン& amp; ムーンライト「うん

！  
「  
「

訓練私設の外ではなのは達がティアナの作戦について話し合っていた。

なのは「うん、最初の戦場構築（ステージ作り）さよかったけど・  
・  
「

フェイト「まさかスバルの本物を見つけるなんて思わないだろうしね。  
「

ヴィータ「流石はつぼみ達ってことか。この分だと、あいつ等の勝ちか？」

シプレ「つぼみは絶対に勝つですう。」

コフレ「えりかが絶対に勝つですっ！」

ポプリ「ポプリもでしょ。」

なのは「どうかな？フォワードのみんなも、日々の訓練で力を付けてきたし・  
「



ティアナとキャラは・・・

ティアナ「キャラ、平気？」

キャラ「大丈夫です。まだ行けます。」

ティアナ「そう。（こんな小さな体してるのに、キャラって凄じやない。でも私は負けてられない！）」

スバルとエリオは・・・

スバル「キャラ！」

エリオ「くっ！」

ムーンライト「みんな、ここで終わらせるよ！」

ブロッサム& amp・マリン& amp・サンシャイン「はい！」  
「」

ブロッサム達はハートキャッチミラーージュを出した。

ブロッサム& amp・マリン& amp・サンシャイン& amp・ムーンライト「」  
「鏡よ鏡、プリキュアに力を！」

ブロッサム達の姿が変わった。

ブロッサム& amp・マリン& amp・サンシャイン& amp・ムーンライト「」  
「世界に輝く一面の花、ハートキャッチプリキュア、スーパーシルエット！」

エリオ「変わった！」

スバル「綺麗。」

ブロッサム& amp・マリン& amp・サンシャイン& amp・ムーンライト「」  
「花よ咲き誇れ！プリキュア、ハートキャッチオーケストラ！」

すると上から女性みたいな人物が現れ、スバルやエリオに突撃した。

ムーンライト「ふっ！」

サンシャイン「ハアッ！」

マリ「たあっ！」

ブロッサム「やあー！」

そしてスバルやエリオに当たった。

ブロッサム& amp・マリ& amp・サンシャイン& amp・ム  
ーンライト「ハアアアアア・・・」

そして二人は浄化した。

ティアナ（スバルやエリオがやられた！）

キャロ（ティアさん。私達にはもう勝ち目は・・・）

ティアナ（キャロ、私にいい考えがあるの。）

キャロ（何ですか？）

ティアナ（それは・・・）

スーパーシルエットの姿からプリキュアの姿に戻った。

マリ「さうで、二人をやっつけたことだし、早くティアアナやキヤロをやっつけようか？」

サンシャイン「そうだね。」

ブロッサム「二人を倒せば、私達の勝ちですね。」

ムーンライト「みんな、行くわよ！」

ブロッサム& amp・マリ& amp・サンシャイン「はい！」  
「」

## プリキュアVSフォワード（後編）

訓練施設の外

ヴィータ「流石つぼみ達だな、やっぱりプリキュアってすげえな。」

フェイト「でもエリオとキャラロは凄いね。エリオとスバルはつぼみ達にやられはしたけど、つぼみ達にダメージを与えたみたいだよ。

流石私のバリアジャケットに傷を負わせた頃より性能が上がってるよ。」

なのは「キャラロだってスバル達全員にブースト魔法を掛け続けられる時間は随分伸びたと思うよ。やっぱり若いっていいね。」

森の中

ムーンライト「この先は良い場所みたいね。ということはお出た瞬間にティアナが仕掛けてくるから気を付けて。」

ブロッサム& amp・マリン& amp・サンシャイン「はい！」

「」

その時、地面から桃色の鎖が現れ、桃色の鎖が4人の体を縛りつける。

マリン「うわっ、何これ!？」

サンシャイン「これって罠!」

ムーンライト（成る程。）

キャロの拘束魔法『アルケミックチェーン』で身動きが取れない状態だった。

キャロ「ハア・・・ハア・・・ティアさん、つぼみさん達を拘束できました。今の内に攻撃を。」

ティアナ「ええ、ありがとキャロ。後は私に任せて!」

ティアナはブロッサム達のいる所へ向かった。

ブロッサム「なかなか抜けません。」

マリリン「どうしよう?」

サンシャイン「これじゃあ逃げられない。」

ムーンライト「みんな、私に考えがあるけど、いい?」

ティアナ「これが私の力、受けてもらいますよ!ファントム・ブレ  
イザー!」

ドーン!

大爆発が起こった。

キャロ「やった。ティアさんの作戦が成功しましたね。」

ティアナ「そうね。今の攻撃だったら絶対に避けられなかったからね。」

煙が晴れると、驚きが隠せなかった。

ティアナ「いない!」

キャロ「そんな!?!あの拘束状態からどうやって・・・」

ムーンライト「甘かったわね、キャロ。」

キャロ「!」

キャロは後ろを振り向くとそこにはムーンライトがいた。

キャロ「どうやって脱出したのですか?」

ムーンライト「これを使ったのよ。」

ムーンライトの手には、こころの種があった。

キャロ「それは・・・」

ムーンライト「レッドの種よ。これはスピードを出すことができるのよ。気付いていなかったら、今頃私は負けてたわ。さてと、行くわよ!ブロッサム、マリン、サンシャイン!あれ?」

ムーンライトが気付くとブロッサム達の姿はなかった。そこに通信が・・・



つぼみ『ゆりさん、失敗しました。(泣)』

ムーンライト「へっ?」

いつき『こころの種を使おうとしたけど、間に合わなくて……』

えりか『失敗しちゃいました。てへっ』

ムーンライト「てへっ、じゃないでしょー!」

ティアナ「残念でしたね、ゆりさん。」

そこにティアナがやって来た。

ティアナ「貴方が最後です。」

ムーンライト「それはどうかしら?」

ムーンタクトで何かをしようとした。

ティアナ「気を付けてキャロ。」

キャロ「はい。」

ムーンライト「見せてあげるわ。私の新しい力を……」

ムーンライトはタクトを回した。

ムーンライト「マジ・マジ・ゴーゴーカイ!ハアッ!」

ムーンライトの技がティアナとキャラの動きを抑えた。

ティアナ「えっ!?!」

キャラ「そんな!?!」

ムーンライト「残念ね、貴方達の終わりよ!プリキュア!シルバー  
フォルテウェイブ!」

ムーンライトの必殺技がティアナとキャラに向かって放った。ム  
ンライトは二人がやられると思った。しかし・・・

ティアナ「ひっかかりましたね。」

ムーンライト「え?」

キャラ「フリード!ブラストフレア、ファイアー!」

フリード「キュクル〜!」

ムーンライトの技は跳ね返された。

ムーンライト「くっ!あ、しまった!」

ティアナ「ヴァリアブルシュート!」

防御する暇なく、ティアナの技に直撃した。

ムーンライト「ぐあああああ!」

ムーンライトからゆりに戻ってしまった。そして、訓練終了が鳴った。

なのは「はい、つぼみちゃん達プリキュアが敗れた事により、勝者はティアナ達フォワードチームに決定！」

つぼみ「負けた。」

ゆり「この私が負けるなんて・・・」

スバル「やったねティア！つぼみちゃん達に勝てたよ！」

ティアナ「全員で頑張った結果よ。エリオも頑張ったね。」

エリオ「ええ、でも体がもうガタガタです。」

そこに、なのはとフェイトとヴィータとシプレとコフレとポプリがやって来た。

なのは「みんな、ご苦労様。つぼみちゃん達もお疲れ様。」

フェイト「皆よく頑張ったね。」

ヴィータ「まつ、今の段階で全員揃ってそこ一人前になった感じだな。」

シプレ「つぼみ、お疲れ様です。」

コフレ「えりかもお疲れ様です。」

ポプリ「ティアナよく頑張ったでしゅ。いちゆきもよく頑張ったでしゅ。」

ティアナ「有難う、ポプリ。」

なのは「実は何気に、今日の模擬戦が第二段階クリアの見極めテストだったんだけど・・・」

フォワードメンバー「え？」

スバル「どうでした？」

フェイト「合格。」

スバル& amp; ティアナ「早っ!」

ヴィータ「ま、こんだけみっちりやってて問題ある様な大変だったこった。」

エリオ& amp; キャロ「ハハハ・・・(汗)」

なのは「今日はみんな、一日お休みです。街にでも出かけて遊んでくるといいよ。」

フォワードメンバー「わーい!」

えりか「楽しそうだね。」

いつき「ホントに・・・」

## プリキュアVSフォワード（後編）（後書き）

今回のスイートプリキュアはキュアマミューズが登場しました！ミューズは凄かったです！次回はあの天使が登場します！お楽しみに！それとムーンライトが使った技はマジレンジャーに豪快チェンジしたゴーカイジャーの必殺技を使用しました。

番外編：5人目のプリキユア消える

希望ヶ花

薫子「つぼみやえりかちゃんやいつきちゃんに続いて、ゆりちゃんまで……」

コッペ「……」

薫子「一体何がどうなってるの？」

コッペは薫子に何かを話そうとした。

薫子「コッペ？」

コッペ「……」

コッペは指を指すと、そこには灰色のカーテンがあった。

薫子「あのカーテンは……もしかするとつぼみ達はあそこに！コッペ、行きましょう！」

コッペ「……」

二人は灰色のカーテンに入り、そのカーテンは消えた。薫子はつぼみ達のいる世界へ向かった。

機動六課の休日、5人目のプリキュア転生！（前編）

訓練が終わり、つぼみ達と音也は楽しく食事をとっていた。そんな中、ニュースが流れていた。

レジアス「魔法と技術の進歩と進化、素晴らしいものではあるがしかし！それ故に我々を襲う危機や災害も十年前とは比べ物にならないほどに危険度を増している！」

ヴィータ「このおっさんはまだこんな事言ってるな。」

シグナム「レジアス中將は古くから武統派だからな・・・」

音也「あのおっさんうるさいな。」

ゆり「音也さん、あまり酷いこと言っちゃ駄目ですよ。」

音也「そうだな、ゆ・・・月影ちゃん。」

ゆり「別にゆりでもいいですよ。」

音也「いや、俺は月影ちゃんの名前でいい。」

音也はゆりの名前で思い出した。名前は麻生ゆり。音也がまだキバの世界にいた頃であり、音也とゆりと一緒にファンガイアという怪人と戦っていた。

音也（ゆり。）

ゆり「音也さん、どうかしましたか？」

音也「いや、何でもない。」

フエイト「あ、ミゼット提督。」

ヴィータ「ミゼットばあちゃん？」

えりか「何これ？どれもこれもおじいちゃんとおばあちゃんだらけじゃない。何なのよこれ？」

フエイト「駄目だよえりか、偉大な人達にそんなこと言っちゃ・・・

「  
なのは「管理局の黎明期から今の形まで整えた功労者の人達なんだ。」

いつき「そうなんだ。」

はやて「所でつぼみちゃん達と音也さんはどうするん？」

音也「この後？」

はやて「フォワードのみんなは休みでお出かけするみたいやし、つぼみちゃん達も出かけてきたらどうや？」

いつき「でも僕達はまだミッドのことはよく知らないし、金もないよ。」

はやて「お金なら渡すし、そこまで変わってるわけでもないから大



丈夫やと思うで。」

えりか「でもな〜・・・」

ヴィータ「いいじゃんか、行ってこいよ。」

シグナム「ああ、お前達もミッドのことを知っておいて損はない。」

フェイト「そうだよ。隊舎には私達もいますし。」

なのは「たまには息抜きも必要だよ。」

リン「その通りです〜。」

音也「しょうがないな。たまには息抜きしてやるか。」

つぼみ「音也さんがそういうのなら、私も楽しむことにします。」

はやて「よしっ、決まりや!」

その後、ティアナとスバルはヴァイスから借りたバイクに乗って行き、エリオとキャロはデートみたいのように歩いて行き、音也は街の中でヴァイオリンを引き、つぼみとゆりは街でお土産を買いに、えりかといつきは一緒に街に向かって歩いていった。

その頃、地下道ではトラックの横転事故が発生していた。そこからスバルに似た少女がやってきた。少女の名はスバルの姉、『ギンガ・ナカジマ』であった。

ギンガ「横転事故と聞きましたが・・・」

局員「ええ。ただ、事故の状況がどうも奇妙でして・・・」

ギンガ「運んでいた荷物はカン詰めや飲料ボトル・・・爆発するよ  
うな物じゃないですね。」

局員「それと、下の方に妙な遺留品があつてですね・・・」

ギンガは驚いた。

ギンガ「これは、生体ポット!？」

地下水路では鎖を付けた少女が何かに追われてるように逃げていた。

????「キャッ！」

少女は逃げてる途中、足を滑らせてしまい、手に繋いでいた鎖の一部が破壊し、ケースの一つが水路に落ちてしまった。

????「助けて、助けて……」

少女の後ろには、スナツキーがいた。

????「誰か助けて！」

その時！

ドン！

スナツキー「キー！」

スナツキーが吹っ飛んだ。

スナツキー「キー？」

????「ん？あ……」

少女は後ろに振り向くとそこに桃色のプリキュアがいた。

????「大丈夫？」

????「はい、貴方は？」

フラワー「私は……聖なる光に輝く一輪の花！キュアフラワー！」

機動六課の休日、5人目のプリキュア転生！（前編）（後書き）

薫子「やっと私の出番ね」

響「あのさ、気になったけど、キーワードで『スイート参戦あり』って書いてるけど、私達って出るの？」

作者「・・・」

響「無視しないで！」

奏「・・・」

## オリジナルナンバーズ紹介(前書き)

オリジナルナンバーズの紹介です。

## オリジナルナンバーズ紹介

マリア・S・克蘭ベリー/サイクロンドーパント

ナンバーズ01の一人。彼女はWの世界に住んでいたプロフェッサーである。彼女はフィリップを守るために克巳を細胞分解酵素を使い、克巳に射殺されるが、スカリエッツィの手により、復活する。

スーパーアポロガイスト

ナンバーズ02の一人。彼はXの世界に住んでいたGODの一味である。ファンガイアのライフエナジーを吸い、スーパーアポロガイストとしてパワーアップした。ディケイドやディエンドによって倒されるが、スカリエッツィの手により復活する。

ドウコク

ナンバーズ03の一人。シンケンジャーの世界に住んだ外道衆のボスである。シンケンジャーによって倒されるがスカリエッツィの手により復活する。

大道克巳/仮面ライダーエターナル

ナンバーズ04の一人。Wの世界に住んでいたNEVERの隊長である。彼はWによって倒されたが、スカリエッツィの手により、復活する。

膜イン

ナンバーズ05の一人。ゴセイジャーの世界に住んでいた幽魔獣の一味である。ゴセイジャーによって倒されるが、スカリエッツィの手により、復活する。

筋グゴン

ナンバーズ06の一人。ゴセイジャーの世界に住んでいた幽魔獣の一味である。ゴセイジャーによって倒されたが、スカリエッツィの手により復活する。

デレプタ

ナンバーズ07の一人。ゴセイジャーの世界に住んでいたウォースター一味であったが、ゴセイジャーにより、姿が変わる。ゴセイレッドの決着に敗れたが、スカリエッツィの手によって復活する。

羽原レイカ/ヒートドーパント

ナンバーズ08の一人。Wの世界に住んでいたNEVERの紅一点である。左翔太郎こと仮面ライダージョーカーによって倒されるが、スカリエッツィの手により、復活する。

堂本剛三/メタルドーパント

ナンバーズ09の一人。Wの世界に住んでいたNEVERのパワーファイターである。レイカと同じくジョーカーによって敗れたが、スカリエッツィの手により、復活する。

泉京水/ルナドーパント

ナンバーズ10の一人。Wの世界に住んでいたNEVERであり、つかみ所のないオカマである。Wと戦かっている最中、オーズに乱入され、倒されるが、スカリエッツィの手により復活する。

芦原賢/トリガードーパント

ナンバーズ11の一人。Wの世界に住んでいたNEVERのクールスナイパーである。照井竜こと仮面ライダーアクセルに敗れたが、スカリエッツィの手により、復活する。

サソリーナ

ナンバーズ12の一人。ハートキャッチプリキュアの世界に住んでいた砂漠の使徒の一味である。プリキュアによって浄化されるが、スカリエッツィの手により、復活する。

クモジャキー

ナンバーズ13の一人。ハートキャッチプリキュアの世界に住んでいた砂漠の使徒の一味である。キュアマリンにより、浄化されるが、スカリエッツィの手によって復活する。

コブラージャ

ナンバーズ14の一人。ハートキャッチプリキュアの世界に住んでいた砂漠の使徒の一味である。キュアサンシャインによって浄化されるが、スカリエッツィの手により、復活する。



## オリジナルナンバーズ紹介（後書き）

どうでしたか？次回は本編です。ナンバーズファンのみなさんに言います。ナンバーズは出ません！

機動六課の休日と5人目のプリキュア転生！（後編）

ミッドチルダの街

つぼみ「デューンとの戦いから1ヶ月が過ぎましたね。」

ゆり「ええ。」

ゆりは空を見た。

ゆり（お父さん、コロシ。私は二人がいないのは寂しいけど、私はつぼみやえりかやいつきがいる。私はつぼみ達に会えてよかった。）

つぼみ「ゆりさん？」

ゆり「何？」

つぼみ「どうしたのですか？」

ゆり「うんうん、何でもないよ。」

つぼみ「そうですか。」

シプレ「つぼみ、何か心配がするですう。」

つぼみ「え？」

えりかといつきは・・・

えりか「此処に来てから、もう1ヶ月か。」

いつき「うん。」

えりか「もも姉どうしてるんだらう?」

いつき「きつとえりかのこと探してるかもしれないよ?」

えりか「そうかな?」

いつき「きつとそうだよ。僕だってお兄様と会ってないから。」

えりか「そうだね。あ、それとね、男の子と何か宙に浮いてる女の子が一緒に歩いてるらしいのよ。」

いつき「へえ、どんなの?」

えりか「えつとね・・・」

そこに・・・

????『早く行こつよ!』

「????」もう待ってたら!」

男の子と色気の薄い女の子が通っていた。

えりか「あ、そうそう。例えば、幽霊見たいで、あんな風にしていたよ。」

いつき「へえ、珍しいじゃない。」

.....

えりか& amp; いつき「って、何今の!？」

コフレ「えりか!何か心配するですっ!」

ポプリ「ポプリもでしょ!」

えりか& amp; いつき「えっ?うん。」

音也は.....

ヴァイオリンが引いてはないのに急に引き出した。

音也「行くぞ、蝙蝠野郎。」

キバット？世「ああ。」

エリオとキャラロは・・・

エリオ「ん？」

キャラロ「どうしたの、エリオ君。」

エリオ「キャラロ、聞こえなかった？」

キャラロ「えっ？」

エリオ「何か爆発した音が・・・」

## 地下水路

フラワー「何とかやつつけたわね。」

キュアフラワーは沢山のスナツキーを倒した。

フラワー「大丈夫よ、もう怖い物はいなくなったから。」

????「ホント?」

フラワー「ホントよ、さあ、此処から脱出しましょう。」

????「うん。」

フラワー「ハアッ!」

キュアフラワーは地下水路の天井を破壊した。

フラワー「さあ、掴まって。」

????「うん。」

キュアフラワーは少女を連れて、外に出た。丁度エリオとキヤロがいた。

フラワー「貴方達は?」

エリオ「僕達は機動六課です。」

フラワー「機動六課？」

キャロ「お聞きしたいのですが、何かあったのですか？」

フラワー「この子が襲われたの。」

エリオ「え？」

キャロ「どうしてですか？」

フラワー「私には分からないわ。」

エリオ「そうですか。」

キャロ「エリオ君、あれってレリックのケースじゃない？」

エリオ「え？ホントだ。」

フラワー「知ってるの？」

エリオ「はい、貴方の名前は？」

フラワー「私は・・・キュアフラワーよ。」

スバルとティアナは・・・

ティアナ「ん？キャロから、全体通信？」

スバル「何だろ？」

なのは達は・・・

なのは「スバル、ティアナ。ごめん、お休みは一旦中断。」

スバル「はい！」

ティアナ「大丈夫です。」

フェイト「救急の手配はこっちです。二人はそのままケースと少女を保護。大急手当をしてあげて。」



エリオ&amp;amp;キヤロ」「はい!」「

なのは「私達も行くつか。」

フェイト「うん。」

エリオとキヤロは・・・

キヤロ「ねえエリオ君。あの人の姿ってつぼみさん達に似てない?」

エリオ「確かに、似てる。」

フラワー「ねえ、今つぼみって言ってなかった!?!」

エリオ「え?つぼみさんを知ってるのですか?」

フラワー「知ってるも何も・・・」

スバル「おゝい!エリオ、キヤロ!」

そこにスバルとティアナがやってきた。

ティアナ「この子が。随分ボロボロに・・・ってこの人は？」

キャロ「女の子と一緒に地下水路を通ってきたらしいんです。何でもつぼみさん達とお知り合いみたいで・・・」

音也「おい！」

そこに音也がやってきた。

スバル「音也さん！」

音也「何かあったの・・・か？」

音也とフラワーの目があった。そして音也は・・・

音也「女神。俺の女神、見つけたぞ。」

フラワー「え？」

音也「是非、お茶でも如何ですか？」

フォワードメンバー「・・・」

つぼみ「みなさん！」

そこにつぼみ達がやってきた。

キャロ「つぼみさん！どうして此処に？」

つぼみ「シプレが何か感じていたから此処につて・・・」

つぼみはフラワーを見た。

フラワー「つぼみ、えりかちゃん、いつきちゃん、ゆりちゃん!」

つぼみ「おばあちゃん!」

フォワードメンバー「え?」

音也は固まった。

音也「お、おばあちゃん?」

えりか「音也さん、この人はつぼみのおばあちゃんだよ。」

フラワーから薫子に戻った。

フォワードメンバー「ええええええええ!?!」

ガーン!

音也「そんな、あんなに綺麗だった女神がおばあちゃんなんて。そんなー! (泣)」

いつき「音也さん……」

ゆり「ドンマイ。」

つぼみ「おばあちゃん、どうして此処に?」

薫子「前につぼみが何処に行ったのは分かるでしょ？私はつぼみを探してる最中、灰色のカーテンが現れて、私とコツペはそのカーテンに包まれたのよ。」

シプレ「コツペ様もいるのですか!？」

薫子「ええ。」

ティアナ「ケースの封印処理は？」

エリオ「キャラオがしてくれました。ガジェットが見つける心配はないと思います。」

ティアナ「うん。」

エリオ「それから、これ・・・」

エリオは鎖を見せる。

ティアナ「ケースがもう一個あった？」

なのは「みんな!」

そこからなのはとフェイトとシャマルとリインがやってきた。シャマルは少女を寝かせ、医療道具で少女の検査を始める。

薫子「つぼみ、この人達は一体？」

つぼみ「あの人達は時空管理局の魔道師です。最初はその人達はプリキュアだと思ったんですけど・・・」

シヤマル「うん、バトルは安定してるわね。危険な反応もないし、心配ないわ。」

エリオ「はい。」

キャロ「よかった。」

フェイト「ごめんね皆。お休みの最中だったのに……」

エリオ「いえ……」

キャロ「平気です。」

フェイト「っていつか音也さん何で落ち込んだの?」

全員「あ。」

全員は音也がいることをすっかり忘れていた。

つぼみ「いえ、これはカクカクシカジカで……」

なのは「それより、ケースと女の子はこのままへりで輸送するから、皆はこっちで現場捜査ね。」

フォワードメンバー「はい!」

えりか「あたし達も手伝うよ。」

なのは「お願いね。それと貴方はへりの方に来て下さい。」

薫子「分かったわ。」

薫子はへりに乗り、なのは達はへりへ移動した。

地下水路にはガジェット多数発見した。

はやて「多いな。」

ヴィータ『スターズ2からロングアーチへ！こちらスターズ2！』

リインは・・・

はやて『ほんならヴィータはリインと合流、協力して海上の南西方向を鎮圧。』

リイン「南西方向了解です。」

なのはとフェイトは・・・

はやて『なのは隊長とフェイト隊長は、北西部から。』

なのは& a m p・フエイト」「了解!」「」

シャマルとヴァイスは・・・

はやて『ヘリの方はヴァイス君とシャマルに任せてええか?』

シャマル「お任せあれ。」

ヴァイス「しっかり守ります。」

ギンガは・・・

はやて『ギンガは地下でスバル達と合流。道々、別件の方の話も聞かせてな。』

ギンガ「はい!」

## 地下水路

ティアナ「さて、みんな。十分休みは取れたわね?」

スバル「お仕事モードに切り替えて、しっかり気合い入れて行こう

「！」

エリオ& a m p・キャロ「はい！」

ゆり「皆、行くわよ！」

つぼみ& a m p・えりか& a m p・いつき「はい！」

音也「俺もやるか。絶滅せよ。」

キバット?世「有り難く思え、絶滅タイムだ！ガブリッ！」

音也「変身。」

シプレ& a m p・コフレ& a m p・ポプリ「プリキュアの種、行くですー！（でしゅー！）」

つぼみ& a m p・えりか& a m p・いつき& a m p・ゆり「プリキュア、オープンマイハート！」

フォワードメンバー「セーットアップ！」

全員は変身した。

ダークキバ「行くぞ！」

全員「はい！」



ナンバーズと黒い仮面ライダー（前編）（前書き）

ゆり「まず最初はゲストが来るらしいわよ。」

つぼみ「ゲスト？」

えりか「誰だろうか？」

いつき「別の作者との二回コラボしたゲストの二人が来るらしいよ。」

えりか「誰だろうか？」

つぼみ「では、本編をどうぞ。」

## ナンバーズと黒い仮面ライダー（前編）

???? 『ねえねえトモ、何かやってるよ!』

???? 『もう、操緒ったら勝手に行かないでよ。』

少年の名前は夏目智春と色気の薄い少女は水無神操緒である。

智春 「じゃあ行こっか、操緒。」

操緒 『うん!』

クロガネ!

二人の手にはUSBメモリみたいな物を出した。

智春 & amp; 操緒 「変身!」

クロガネ!

USBを智春の腰に付けたベルトをさし、そして姿が黒い姿となった。その姿は、『仮面ライダークロガネ』である。

なのは達は……

フェイト「フォワードの皆、ちょっと頼れる感じになってきた？」

なのは「あはは、もっと頼れるようになって貰わなきゃ。」

フェイト「うん。」

二人はバリアジャケットを装着した。

なのは「早く事件を片付けて、また今度お休みあげようね。」

フェイト「うん。」

なのは「皆で遊びに行ったら、きっと楽しいよ。」

フェイト「うん。」

二人は海岸上のガジェットの元へ向かった。

シャマル「気を付けてね？」

リン「はいです。ヴァイス陸曹もよろしくです。」

ヴァイス「ウツス！」

リン「ストームレイダーも皆を守って下さいです。」

リインはヴィータ達の所へ向かった。

ルーテシアは・・・

マリア『へりに確保されたケースとマテリアルは京水達が回収するわ。お嬢様は地下に。』

ルーテシア「うん。」

マリア『騎士ゼストとアギトは？』

ルーテシア「別行動。」

マリア『一人なの？』

ルーテシア「一人じゃない、私にはガリユールがいる。」

マリア『失礼したわ。協力が必要であればお申し付けて。最優勢で実行するから。』

ルーテシア「分かった。」

## 地下水路

ティアナ「ギンガさん、お久し振りです！」

ギンガ『うん、ティアナ。現場リーダーは貴方でしょ？従うから指示をくれないかな？』

ティアナ「はい。」

数分後

ティアナ「というわけです。お願いします。」

ギンガ『分かったわ。』

通信を切った。

ブロッサム「そういえば、ギンガさんって誰ですか？」

マリ「ギンガと言えば、『銀河を貫く伝説の刃！』だよね？」

コフレ「それは関係ないです。」

サンシャイン「マリン、ふざけるのもいい加減にしてよ。私達は真面目だから。」

ポプリ「そうでしゅ！」

マリン「冗談だよ冗談。」

エリオ「確か、スバルさんのお姉さんですよね？」

スバル「そう。私のシューティングアーツの先生で、年も階段も二つ上。」

ムーンライト「そうなの。」

ダークキバ「それより、話すのはこいつを倒してからにするぞ。」

いつの間にか多数のガジェットがいた。

マリン「ああ、またか！」

サンシャイン「仕方ない。このまま行くよ…！」

なのは達は・・・

ヴィータ「よし、いい感じだ。」

リン「リンも絶好調です。」

ヴィータ「ガンガン行くぞ。」

リン「はいです！ん？あれは・・・」

ビルの屋上では、NO04の大道克巳こと仮面ライダーエターナルがいた。

エターナル「エターナル専用のインヒューレントスキル。嘘と幻のイリュージョンで回るか。」

はやては……

はやて「私も久し振りの遠距離広域魔法、行ってみよか！」

地下水路

ティアナ達はギンガと合流し、ブロッサム達にも自己紹介した。そして……

キャロ「ありました！」

その時！

キャロ「キヤア！」

エリオ「キャロ！うわあ！」

キャロ「エリオ君！」



そこにルーテシアとガリユーがいた。ルーテシアの手には、レリックが持っていた。

キャロ「コラ！その女の子、それは危険な物なんだよ、触っちゃ駄目！こっちに渡して！」

ルーテシア「……」

キャロ「ごめんね、乱暴で……でもね、これはホントに危ない物なんだよ。」

ルーテシア「……」

ブロッサム「キャロちゃん！」

そこにバイクに乗った女性が現れた。その女性はナンバーズ08の羽原レイカである。

ブロッサム「危ないですよこんな所にいたら、だから貴方も早く逃げ……え？」

ブロッサムはレイカの手を触ったらブロッサムの驚きが変わった。

ブロッサム「冷たい。」

レイカ「言ったね？気にしてること……」

ブロッサム「え？」

レイカ「うん！うわ！」

ブロッサム「うわあー！」

ブロッサムははね飛ばされた。

シプレ「ブロッサム！大丈夫です！？」

ブロッサム「あの人の体、冷たい。どうして・・・」

レイカ「ホントにムカつく。それ。」

ヒート！

レイカの手にはガイアメモリがあった。それをレイカはメモリを投げ、スロットの所にさした。そしてレイカは怪人になった。

ヒート「フフ。」

マリン「新手？」

マリンはタクトを持ち、必殺技を放とうとしたその時！

剛三「うわあー！」

そこに剛三がやってきた。

マリン（な、何なのこの人！？それに何この力！？）

剛三「フッ！オラ！うわあー！」

マリインタクトを落とした。

マリ「あなた、いい加減にして！たあ！」

剛三「うわあー！」

マリは剛三をぶっ飛ばした。

マリ「フフン。あ、ヤバ！」

コフレ「どつするのですっ！」

マリ「どつするって・・・え？」

マリは驚いた。剛三の体が元通りになることを・・・

マリ「何この人、人間なの？」

剛三「やるじゃねえか。だがこっちから行くぜ！」

メタル！

剛三の手にはガイアメモリがあつた。メモリを投げ、服を脱ぎ、その後ろにはスロットがあり、そのメモリをさした。そして剛三は怪人となった。

メタル「ああ〜。」

マリ「何あれ？」

????「スターレンゲホイル！」

サンシャイン「サンフラワーीडジス！」

サンシャインは攻撃を防いだ。

????「つたくもあたし達に黙って勝手に出掛けちゃたりするか  
らだぞ、ルールもガリユーム！」

そこにリン並みの大きさな少女が現れた。

ルーテシア「アギト。」

ナンバーズと黒い仮面ライダー（前編）（後書き）

つぼみ「というわけでガタツクさんがやっていた『ダブルクラインのキャラクター、夏目智春さんと水無神操緒さんがやって来ましたー！』」

智春 & amp; 操緒「『こんにちは！』」

えりか「お久しぶりです智春さん！」

いつき「ファイル11以来ですね！」

智春「はい！」

操緒「最近皆と会ってなかったから久しぶりに皆に会いに来たんだけ！」

つぼみ「嵩月さんは元気ですか？」

操緒「もちろん！」

ゆり「朱湮は？」

智春「もちろんあの人も元気です。」

つぼみ「それじゃあみなさんで、せーの・・・」

全員「みんなでハートをキャッチだよ！」

智春と操緒は最終回までに使います。楽しみにして下さい！

## ナンバーズと黒い仮面ライダー（中編）

ムーンライト「アギト？それが貴方の名前なの？」

アギト「ああ。」

マリリン「アギトと言えばあれだよな？『アギトのために、人間のために！』というの？」

アギト「それは『仮面ライダーアギト』じゃー！」

マリリン「え？」

ルーテシア「アギト、それ知ってるの？」

アギト「知るかー！」

マリリン「でも仮面……」

アギト「そんなもん見たことねえよ！」

メタル「おいチビ。話す暇があるなら、こいつ等を倒してからにする。」

アギト「チビって呼ぶな！」

ダークキバ「さて、やるぞ。」

マリリン「そうだね、ここからは……あたし達のターンだよ！」

ブロッサム& amp・スバルVSヒートドーパント

ヒート「フン！」

ブロッサム「くっ！」

スバル「リボルバー・・・シュート！」

ヒート「フン！」

ヒートドーパントはスバルの攻撃を防いだ。

スバル「つぼみちゃん、大丈夫？」

ブロッサム「はい。」

スバル「行くよ！」

ヒート「フフ。」

ティアナ「スバル、待ってて。今助けに行くから！いつき！」

サンシャイン「はい！」



そこにナンバーズ10の泉京水がやって来た。

京水「あんだ達の相手は私よ。」

ティアナ「誰!？」

サンシャイン「ていうかオカマ!？」

京水「オカマなんて失礼よ!」

ルナ!

京水はガイアメモリを出し、それからメモリを投げ、変な踊りをしながらおでこにメモリをさした。そして京水は怪人になった。

ルナ「私が抱き締めてあげる。」

サンシャイン「うわっ!気持ち悪っ!」

マリンVSメタルドーパント

マリン「何なのよあんだ!」

メタル「へへへ。」

マリ「このー！」

マリが攻撃しようとしたその時！

マリ「うっ！今の攻撃、まさか！」

???「フッフ。久し振りだな、キュアマリン。」

マリは驚いた。攻撃した人は、マリが知っている人物だった。

マリ「クモジャキー！」

ナンバーズ13のクモジャキーがやって来た。

メタル「知り合いかよ？」

クモジャキー「まあちょっとな。」

マリ「どうして！？あなたはあたしが浄化したはず！」

クモジャキー「甦ったのは俺だけじゃないジャキ。」

マリ「え？」

サンシャイン「うわあー！」

マリ「サンシャインー！」

サンシャイン「くっ！」

ティアナ「いつき！キヤア！」

ポプリ「今の攻撃ってまじやかでしゅー！」

????「久し振りだね、キュアサンシャイン。」

サンシャイン「どうしてなの？コブラージャ！」

ナンバーズ14のコブラージャである。

ルナ「あら、知ってるの？」

コブラージャ「そうだよ。」

????「プリキュアは私達の敵だったのよ。」

そこに女性が現れた。

ムーンライト「貴方まで……。」

ブロッサム「そんな……サソリーナ！」

ナンバーズ12のサソリーナである。

スバル「つばみちゃん達の敵って……。」

ブロッサム「はい。あの三人は私達の世界を砂漠化しようとした砂

漠の使徒なんです!」

マリ「何で砂漠の使徒が・・・」

サソリーナ「違うわよ。」

ダークキバ「ん?」

クモジャキー「俺達はスカリエツティ一味になったジャキ。」

ギンガ「え?」

コブラージャ「フフン。」

キャロ「あれ、あの子がない!」

いつの間にかルーテシアとガリユーとアギトがいなかった。

スカリエツティ「後はルーテシアとアギトでやるから君達は早く帰って来い。」

ヒート「は?」

メタル「冗談言つなよ!俺達はまだ・・・」

ルナ「いいじゃない?私達の役目も終わったし、後は克巳ちゃんやお嬢様に任せましょ。」

サソリーナ「今日のところは見逃してあげるわ。私達はプリキュアを絶対に倒すから!」

サソリーナ達は消えた。

シプレ「何故サソリーナ達が甦ったのですっ？」

マリ「さあ？」

ヴィータ「おーい！」

そこにヴィータとリインがやって来た。

ヴィータ「無事だったな。」

ダークキバ「ああ。それより早く、お嬢ちゃんを探すぞ。」

ヴィータ「ああ。行くぞ！」

フォワードメンバー「はい！」

ムーンライト「ブロッサム、行くよ。」

ブロッサム「あ、はい！」

ルーテシアは・・・

アギト「駄目だよルールー、これはまずいって！埋もれた中からどうやってケースを探す！？あいつ等だって局員とはいえ、潰れて死んじゃうかもしれないんだぞ！」

ルーテシア「あのレベルなら多分、これくらい死なない。ケースは克巳と賢に頼んで、探してもらおう。」

アギト「良くねえよルールー！あの変態医師とかナンバーズ連中なんかと関わっちゃ駄目だってゼストの旦那が言ってたろ！」

ルーテシア「・・・」

アギト（ルールー。）

ルーテシア「ガリユー、怪我大丈夫？」

ガリユー「・・・」

ルーテシア「戻っていいよ。アギトがいてくれるから。」

ガリユーは魔法陣の中に戻った。

ルーテシア「地雷王も。」

地雷王を戻そうとしたその時！

ルーテシア「！」

アギト「な！」

二人の体が縛りつけ、そこにヴィータ達がやって来た。

ヴィータ「子供を嘗めてるみてゝで、良い気分はしねえが・・・市街地での危険魔法使用に公務執行妨害、その他諸々で逮捕する。」

ビルの屋上ではエターナルとトリガードーパントがいた。

エターナル「見えてるか？」

トリガー「ああ、空気が澄んで、よく見える。でもいいのか？ケースは残せるが、マテリアルの方は破壊することになるぞ。」

エターナル「フツ。スカリエツティとお袋がああのマテリアルの当たりなら、本当に聖王の器なら砲撃くらいは死んだりしないから大丈夫・・・だそうだ。」

トリガーの腕にはスナイパーみたいな物を付けており、その方向にはヘリがあった。

トリガー「それより、ルーテシアお嬢様とアギトが捕まったぞ。」

エターナル「そういえば、例のチビ騎士に捕まったとはな。」

トリガー「今は膜インや筋グゴンが様子を見ている。」

エターナル（膜イン、筋グゴン。）

膜イン（何なのかね、エターナル君。）

筋グゴン（何の用だ？）

エターナル（こっちから指示を出す。言う通りに動けよ。）

膜イン（了解。）

筋グゴン（行くか。）

エターナル（ルーテシア。）

ルーテシア（克巳。）

エターナル（何やらピンチのようだな。俺も手伝ってやるのか？）

ルーテシア（お願い。）

エターナル（よし、なら俺の言う通りの言葉、その赤い騎士に……）



なのはとフェイトは・・・

なのは「見えた！」

フェイト「良かった、へりは無事。」

エターナル「逮捕はいいが・・・」

ルーテシア「逮捕はいいけど・・・」

マリン「ん？」

エターナル「大事なへりは、放つてもいいのか？」

ルーテシア「大事なへりは、放っておいていいの？」

全員は驚いた。そして・・・

ムーンライト「しまった!」

ムーンライトの肩にマントが現れ、飛んだ。

サンシャイン「どうしたのですか?」

ムーンライト「畏だったのよ!私達を誘き寄せために別の仲間がへりを狙ってることを!」

マリン「ちょっと待ってよ!あのへりにはヴァイスとシャマルとあの子と・・・」

ブロッサム「おばあちゃんが!」

ルーテシアはまた喋り続ける。

エターナル「お前はまた、守れない。」

ルーテシア「あなたはまた、守れないかもね。」

ヴィータ「!」

トリガー「ゲームオーバー!」

へりに向かって放った。そして・・・

ドーン!

へりに直撃した。

マリン「そんな、間に合わなかった。」

コフレ「キュアフラワーが・・・」

ポプリ「嘘でしゅ。」

シプレ「ブロッサム。」

ブロッサム「おばあちゃん？おばあちゃん！」

## ナンバーズと黒い仮面ライダー（後編）

キャロ「ヴァイス陸長と……」

エリオ「シャマル先生が……」

ヴィータ「テメエー！」

ダークキバ「おい落ち着け！」

リイン「そうですよヴィータ副隊長！」

ヴィータ「おい！他に仲間がいんのか！？何処にいる！？言え！」

その時、ギンガは何かに気付いた。

ギンガ「エリオ君！足下に何がが！」

エリオ「え？うわ！」

エリオが手に持っていたレリックは奪われた。レリックを奪ったのはナンバーズ05の膜インである。

膜イン「レリックは貰っておくよ。管理局の諸君。」

地面からナンバーズ07の筋グゴンが出た。

筋グゴン「残念だったな！管理局、管理局、管理局！」

フォワードメンバー「キャアー！」

膜イン「お嬢様とアギトは我輩達が返してあげるよ。」

筋ゲゴン「あばよ！」

そう言いながら消えた。

ヴィータ「くっそー！」

ダークキバ「逃げられた、それにレリックも奪われたか。」

ブロッサム「おばあちゃん。」

シプレ「ブロッサム。」

サンシャイン「ん？」

サンシャインは何かに気付いた。

ポプリ「サンシャイン、どうしたのですしゅ？」

サンシャイン「あれ……」

マリ「ん？」

コフレ「何ですっ？」

ムーンライト「あれは……」

エターナル「直撃したな。」

トリガー「いや、命中はしているがへりは飛んでる。」

エターナル「何？あれは……」

へりの中

薰子「ん？生きてる。」

シャマル「何が起こったの？」

ヴァイス「シャマル先生、あれ！」

シャマル「ん？」

薰子「プリキュア？違う、あれって・・・」

へりの前には黒い姿をした仮面ライダークロガネがいた。

クロガネ「何とか間に合ったね、操緒。」

クロガネ「うん！このへり、何であいつ等が狙おうとしたんだろう？」

スバル達は・・・

スバル「ヴィータ副隊長、あれ！」

ヴィータ「ん？」

ダークキバ（あれはディケイド？いや、違う。）

ティアナ「何あれ？」

エターナル「Wじゃない。貴様、何者だ？」

クロガネ「僕達かい？僕達は……」

クロガネ『私達は……』

クロガネ「二人で一人の仮面ライダー……クロガネ！」

ブロッサム「クロガネ？」

マリ「しかも超かっこいい！」

サンシャイン「闇の仮面ライダー？」



ムーンライト（クロガネって何処かで聞いたような・・・）

キャロ「音也さん、あの仮面ライダー知ってますか？」

ダークキバ「いや、あれは初めて見るライダーだ。」

ギンガ「知らないということですね？」

ダークキバ「ああ。」

エターナル「仮面ライダー・・・クロガネだと！」

クロガネ「さあ、科学の光に沈め！」

クロガネは剣を持った。

トリガー「此処はどうする？」

エターナル「此処は撤退だ。スカリエッティからの命令だ。」

トリガー「ああ。」

クロガネ『トモ、あいつ等逃げるよ!』

クロガネ「逃がさない!」

クロガネ! マキシマムドライブ!

クロガネ「ライダーキック!」

クロガネの必殺技『ライダーキック』がエターナルにトリガーに炸裂する。そして……

ドーン!

直撃した。

なのは「凄い。」

フェイト「あの技で一撃だなんて……」

クロガネ『やったねトモ!』

クロガネ「いや、まだだ。」

煙が晴れるとそこにはデューンがいた。エターナルとトリガーを守ったのだ。

マリ「あれって・・・」

サンシャイン「そんな!」

ブロッサム「デューン!」

ムーンライト「いや、デューンに似てるけど、あれはデューンじゃない!」

???「フフフ。」

エターナル「遅いじゃないか。」

???「私が此処に来ていなければ、お前達はやられるところだったんだぞ。」

トリガー「ああ。」

フェイト「貴方、何者なの!」

???「私は・・・砂漠王のブレドランだ。」

ブロッサム「ブレドラン?」

ブレドラン「撤退だ。」

エターナル「ああ。行くぞ。」

エターナル達は消えた。

ブロッサム「ヴィータ！」

ヴィータ「つぼみ、すまねえ。」

ブロッサム「いいえ、ヴィータは頑張りましたよ。」

ダークキバ「レリックは奪われてしまったか。」

エリオ「大丈夫です。レリックは此処にあります。」

マリン「え？」

サンシャイン「それって何処にあるの!？」

エリオ「それは……。」

何処かの研究所

ドウコク「よお、遅かったじゃねえか。」

ナンバーズ01のマリアとナンバーズ03のドウコクとスカリエツ  
ティがいた。

レイカ「レリックは膜インが回収して来たよ。」

膜イン「この通り。」

膜インはケースを見せる。

克巳「早速だが、中身を見せろ。」

膜イン「了解。ジャーン！」

筋グゴン「な！」

全員は驚いた。ケースの中身は・・・

ドウコク「おい、空っぽじゃねえか！」

京水「膜インちゃん、まさか・・・」

膜イン「我輩はちゃんと運んできた。よく見て！」

マリア「貴方達の目は節穴なの？」

剛三「どづいづことだよ？」

マリア「レリックは・・・」

キャロは帽子を取ると、花があった。

マリ「花？」

ムーンライト「その花がどづしたの？」

ムーンライトは指をはじくと花がレリックに変わった。

ブロッサム「ホントにレリックだ！」

マリ「あなた達の強さにあたしが泣いた！」

ダークキバ「どういう意味だ？」

クロガネ「あの〜・・・」

そこにクロガネが・・・

ヴィータ「そっぴゃあんだ、誰なんだ？」

クロガネから智春と操緒の姿に戻る。

智春「僕は夏目智春と申します。」

操緒「私は水無神操緒だよ！」

はやて「じゃあ、君達も協力する？」

智春「もちろんします！」

操緒「私も！」

はやて「じゃあよろしくね。」

智春と操緒は時空管理局と協力することになった。



## 謎の少女

智春と操緒がこの世界に来てから一週間経った。車に乗ったなのはとシグナムとゆりが聖王教会の医療病院に向かう所であった。

なのは「ごめんなさいシグナムさん。車出しちゃって・・・」

シグナム「気にするな。この車はテストロツサからの借り物だ。シスターシャツハがいる。私が仲介した方がいいだろう。」

ゆり「私も付き合っただげるわ。」

## 聖王教会

シャツハ「申し訳ありません！」

なのは「状況はどうなってますか？」

数分後

ゆり「そういってね。」

シャツハ「貴方は？」

ゆり「私は月影ゆりよ。」

なのは「シグナム副隊長、病棟の搜索を・・・」

シグナム「はっ！」

なのは「ゆりちゃんは私と一緒に外を・・・」

ゆり「分かったわ。」

二人はすぐに外を出た。

シグナム「別の反応？」

シャツハ「はい、何か変な反応があったのです。それに反応は移動魔法ではなかったのです。」

シグナム「ということは・・・」

病室の外

ゆり「別れて探しましょう。」

なのは「はい。」

二人は別れた。

ジリジリ

ゆり「ん？」

ゆりは草の音に気付いた。そこにはぬいぐるみを持った少女がスナツキーに襲いかかった。

少女「あ、あ・・・」

ゆり「スナツキー、何故貴方が此処に!？」

スナツキー「キー!？」

ゆり「プリキュア! オープンマイハート!」

ゆりの姿がプリキュアの姿に変身した。

ムーンライト「月光に冴える一輪の花、キュアムーンライト!」

スナツキー「キキ!？」

ムーンライト「ハアツ!」

スナツキー「キー!」

ムーンライトの攻撃でスナツキーは吹っ飛んだ。

ムーンライト「探してたよ。どうかしたの?」

少女「ママ、いないの・・・」

ムーンライト「そう。」

### 聖王病室

シャツハ「ん？」

シャツハはムーンライトと少女を見た。

シャツハ「あれって・・・セットアップ！」

シャツハはバリアジャケットを付けた。

ムーンライト「シスターシャツハ。」

シャツハ「貴方誰ですか？何故私の名前を知ってるのです？」

ムーンライト「私は・・・」

シャツハ「侵入者は排除します。貴方はスカリエッティの仲間だと  
確実です。」

ムーンライト「ちょっと待って！私は貴方の敵じゃないわ！」

シャツハ「問答無用！ハアツ！」

シャツハはムーンライトを襲う！

ムーンライト「やめなさい！」

シャツハ「ハアッ！」

ムーンライト「があっ！」

ムーンライトはシャツハの攻撃を避けるが、最後は直撃した。

シャツハ「止めです。」

そこから・・・

なのは「シスターシャツハ、何してるのですか!？」

なのはがやって来た。

シャツハ「高町隊長。何故止めるのです?」

なのは「この人は私達の関係者!それにこの人はキュアムーンライ  
トこと月影ゆりちゃんよ!」

シャツハ「え?」

ムーンライトからゆりに戻った。

ゆり「この通りよ!」

シャツハ「あ、申し訳ございません!」

なのは「もう、ごめんねビックリしちゃって。ちょっと怖かつたよね?」

少女「うん。」

なのは「私は高町なのは、君のお名前は何て言うの？」

ヴィヴィオ「ヴィヴィオ。」

ゆり「いい名前じゃない。」

そこにシグナムがやって来た。

シグナム「見つけたか。」

なのは「はい。」

ゆり「この子、母親がいないんだって。」

なのは「そう。じゃあお姉ちゃんと一緒にママを探そうか。」

ヴィヴィオ「うん。」

ヴィータ「な、何だこれ？」

ヴィータ達は驚いていた。その前には、薫子のパートナー、コッペがいた。

シプレ&amp;mp・コフレ&amp;mp・ポプリ」「コッペ様！」「

操緒『コッペって……』

コッペ「……」

操緒『ねえ、何か喋れない？』

コッペ「……」

つぼみ「コッペ様は喋らないんです。」

スバル「え？」

ティアナ「動くことは？」

いつき「出来ますよ。」

えりか「さうと……ってうわあー！」

えりかは足を滑らせ、転ぶ所である。

いつき「危ないー！」

智春「おっと。」

倒れそうになったえりかを智春が支えた。

智春「大丈夫ですか？」

えりか「は、はい・・・／＼／＼」

つぼみ&amp;コフレ（おやおや、これは・・・）

なのは「皆助けてー！」

そこになのはの叫び声がした。

えりか「あれ、あの声って・・・」

いつき「なのはさん？」

スバル「ちよつと行ってみよう。」

操緒「ねえトモ、どうすんの？」

智春「そうだね。せつかくだから僕等も行こうか？」

操緒「うん！」

スバル達はなのはの所に向かうとそこには、ヴィヴィオが泣いていた。

操緒「ねえトモ、あれってあの時の子じゃない？」



智春「そつだね。」

つぼみ「ゆりさん、どうかしたのですか？」

ゆり「実はね、なのはちゃんは聖王教会の所に行くはずだったけど、急にあの子泣き始めたのよ。」

つぼみ「そうですか。」

ゆり「薰子さんは？」

つぼみ「買い物です。」

そこにフェイトとはやてがやって来た。

フェイト「なのは、何の騒ぎ？」

なのは「あ、フェイト隊長。」

ヴィヴィオ「うわーん！行っちゃだよー！うえーん！」

えりか「（しょうがない。）じゃああたしが面倒見てあげるよ。」

ヴィヴィオ「え？」

いつき「そつだね。僕も面倒見てあげるよ。だから泣かないで。」

ヴィヴィオ「ホント？」

いつき「うん。」

えりか「あたし達は傍にいてあげる。」

ヴィヴィオ「うん!」

なのは「じゃあすぐに帰って来るから。ヴィヴィオ、ちゃんと二人のお姉さんの言うことを聞くんだよ。分かった?」

ヴィヴィオ「うん。」

その後、なのはとフェイトとはやては聖王教会の所に行った。

ヴィヴィオ「えりかお姉ちゃん、本を読んで。」

えりか「しょうがないな。じゃあ読むよ。」

コフレ「えりかに凄くなついでるですつ。」

ポプリ「いちゆきもでしゆ。」

つぼみ「二人とも、パパとママみたいのような感じですね。」

ゆり「そうね。」

音也「信じられない。」

つぼみ& amp・ゆり「?」「?」

音也「あの女神がおばあちゃんだと未だに信じられないんだ。」

ゆり「音也さん、薫子さんに対して失礼ですよ？」

つぼみ「音也さんはおばあちゃんが年寄りだと信じてないんですか？」

音也「いや、変身前ならおばあちゃんということは分かるが、変身後だと・・・分からない。」

ゆり「音也さん、年寄りに対して本当に失礼ですよ。薫子さんに謝って下さい。貴方は女に向いてないからこんなことになるのですよ！」

つぼみ「酷いですね。」

音也「・・・(泣)」

## 聖王教会

カリム「これは最短で半年、最長で数年先の未来。それを詩文形式で記した予言書の作成が出来ます。予言書の中身は古代ベル力語。解釈によって意味が変わることがある難解な文章。世界に起こる事件を書き出すだけで解釈ミスも含めば、的中率や実用性は割とよく

当たる占いって・・・つまりはあまり便利な能力ではないんです。」

語られた予言を見ると、驚くべき物であった。

『古い結晶と無限の欲望が集い交わる地、死せる王のもと、聖地よ  
りかの翼が蘇る。死者達が踊り、なかつ大地の法の塔は焼け落ち、  
それを先駆けに数多の海を守る法の船も砕け落ちる。』

なのは「それって・・・」

フェイト「まさか・・・」

カリム「ロストログアをきっかけに始まる、管理局地上本部崩壊と  
・・・そして、管理局システムの崩壊。」

いつき「..?」

いつきはメイドの服を着ていた。

ヴィヴィオ「可愛いよいつきお姉ちゃん！」

えりか「似合うじゃんいつき！」

ヴィータ「ホントに女の子だった。」

シグナム「ああ。」

つぼみ「私も最初は、いつきが女の子なのはびっくりしましたけど・・・(汗)」

操緒『でもいつきちちゃん、男装しても可愛いじゃん。』

智春「もう操緒ったら。」

そこになのはとフェイトが帰ってきた。

なのは「ただいま、ヴィヴィオ。良い子にしてた?」

ヴィヴィオ「うん。」

フェイト「ありがとね、えりか、いつき。」

いつき「いえ、僕も暇だったので・・・」

えりか「あの子、良い子にしてくれたよ。」

フェイト「それと何で音也さん落ち込んだの?」

音也「・・・(泣)」

つぼみ「気にしないで下さい。」

シャーリー「なのはさん。」

なのは「シャーリー。」

シャーリー「夕食でも食べましょう。」

なのは「うん、そうだね。」

えりか「ねえ、つぼみ、さっきから気になったけど、シャーリーの声を聞いてたら何でムカツクの？」

つぼみ「え？」

なのは「じゃあご飯食べようか？」

ヴィヴィオ「うん。」

フェイト「私も一緒に行くよ。」

なのは「ありがとう。」

シャーリー「じゃあつぼみちゃん達は此処にいてね。」

つぼみ「はい。」

えりか「ねえ、つぼみ、何でシャーリーの声を聞いてたらムカツクの？」

つぼみ「そんなこと言われても……」

なのは、フェイト、ヴィヴィオと一緒に夕食を食べた。

## ヴィヴィオの母親

訓練施設

なのは「はい、集合！」

フェイト「お疲れ様、今日の朝練はここまでよ。」

フォワードメンバー「はい！」

なのは「今日は目立ったミスもなく、良い感じでした。今後もこの調子でね。」

フォワードメンバー「ありがとうございました。」

なのはとフェイトは大舎に戻ろうとすると、散歩をしているえりかといつきとフェイトとヴィヴィオを見つける。

なのは「ヴィヴィオー！」

ヴィヴィオ「あ。」

なのは「おはようヴィヴィオ。ちゃんと起きられた？」

ヴィヴィオ「うん！」

なのは「おはようえりかちゃん、いつきちゃん、フェイトちゃん。」

えりか「おはよう。」



いつき「おはようございます。」

フェイト「おはようなのは。ヴィヴィオ、なのはさんにおはようつて……」

ヴィヴィオ「おはよう。」

なのは「おはよう。」

フェイト「朝ご飯一緒に食べられるでしょ？」

なのは「うん。」

その後、なのは、フェイト、えりか、いつき、ヴィヴィオは隊舎の食堂に向かって歩いた。

数分後

いつき「美味しかった？」

ヴィヴィオ「うん!」

えりか「良かったじゃん。」

なのは「えりかちゃん、いつきちゃん、またお願いがあるんだけど・・・」

いつき「いいですよ。」

えりか「ヴィヴィオちゃんはあたし達に任せて！」

なのは「ありがとう！じゃあ私は仕事はあるからヴィヴィオ、二人のお姉ちゃんの言うことを聞くんだよ。」

ヴィヴィオ「うん！」

何かの研究所

そこにはナンバーズ04の大道克巳がモニタリングしていた。フォワードの戦闘データを見ている。

克巳「フッ。やっといたか。もうすぐであいつ等は俺達の・・・」

克巳はニヤリと笑った。

なのはヴィヴィオの話聞いても分からない表情であった。

なのは「ほら、やっぱり分からない。」

いつき「僕も・・・」

スバル「だとしたらつまり、暫くはなのはさんがヴィヴィオのママ  
だよってこと。」

えりか「は？」

ヴィヴィオ「ママ？」

なのは「いいよ、ママでも。」

するとヴィヴィオが泣き出した。

つぼみ「泣かないでヴィヴィオちゃん！」

なのは「大丈夫だよヴィヴィオ。」

ヴィヴィオ「うん。」

その後なのは達は食事をした。

その夜、音也は・・・

音也「・・・」

その時、音也の後ろから怪人が襲った。その怪人は音也が知ってる怪人である。

音也「ファンガイア。何故此処に？」

ファンガイア。それはキバの世界に存在した怪人である。

キバット？世「どうする？」

音也「しょうがないな。やるか。」

キバット？世「お前なら言うと思った。ガブリッ！」

音也「変身。」

音也はダークキバに変身した。

ダークキバ「さうて、久し振りにファンガイアと戦うか。」

ファンガイア「うおおおおお！」

ダークキバ「フッ！ハッ！」

ファンガイア「ぐおっ！」

ダークキバ「お休みの時間だ。」

ウェイクアップ？！

ダークキバ「ハアアアアアアア……ハッ！」

ダークキバは高く飛んだ。そして……

ダークキバ「ハアッ！」

ファンガイア「ぐおわああああ！」

ダークキバはファンガイアを倒した。

ダークキバ「ふう。」

ダークキバから音也に戻った。

音也「疲れた。戻るか。」

音也は機動六課の所へ戻った。

## 最後の生活

### 訓練施設

なのは「はい集合！今日はギンガがいることなので、フォワード5人対隊長4人で勝負よ。」

ギンガ「え？」

スバル「あのね、ギン姉・・・これ時々やるのよ。」

エリオ「しかも隊長本気なんです。」

なのは「それじゃあ皆、バリアジャケットを用意して。」

フォワードメンバー「はい！」

ヴィータ「じゃあ始めるぞ！」

つぼみはお花を水にかけた。

つぼみ「お花さん、元気に咲いて下さい。」

シプレ「ですう〜。」

ヴィヴィオ「ん？」

シプレ「つぼみ、ヴィヴィオちゃんが起きたですう。」

つぼみ「あ、ヴィヴィオちゃん。おはよう。」

ヴィヴィオ「つぼみお姉ちゃん、おはよう。何してるの？」

つぼみ「お花さんに水をかけています。お花さんが元気に咲くように水をかけてるのですよ。」

ヴィヴィオ「そうなんだ。」

えりか「おはようヴィヴィオちゃん！」

いつき「おはよう〜！」

ヴィヴィオ「えりかお姉ちゃん、いつきお姉ちゃん！おはよう。」

コフレ「えりかにももの凄くなついでですっ。」

ポプリ「いちゆきもそうでしゅ。」

ヴィヴィオ「なのはママとフェイトママは？」



ゆり「なのはママとフェイトママは、フォワードの朝の訓練してるのよ。一緒に行く？」

ヴィヴィオ「うん！」

つぼみ「じゃあ行きましょう。」

#### 訓練施設

フォワードメンバー「疲れた〜。」

なのは「は〜い、お疲れ様。」

ヴィータ「全員、防護服解除！」

フェイト「惜しい所まで行けたね。」

シグナム「後もうちよつとだったな。」

ティアナ「はあ〜、最後のシフトが上手く行ければ逆転出来たのに。」

スバル「悔しい。」

なのは「じゃあ今度はもう少し腹筋をしたら、朝食にするよ。お疲れ様。」

フォワードメンバー「ありがとうございます。」

智春「皆さん、凄いですね。」

操緒「皆、朝からこんなにキツイことやってるんだ。」

ヴィータ「まあ、あいつ等成長したからな。」

シグナム「エリオ達はデバイスをちゃんと使いこなしている。」

フェイト「私達は嬉しいよ。皆、少しチェンジ出来たから。」

操緒「へえ〜。」

智春（アスラマキーナよりも凄いな。）

そこにつぼみ達とヴィヴィオがやって来た。

つぼみ「皆さん、おはようございます。」

シャーリー「おはよう。」

いつき「皆さんはどうですか？」

シャーリー「皆、成長したよ。今でもなのはさん達には勝てないけど。」

ゆり「良かったね。」

えりか「つづぼみ、シャーリーの声を聞いてたら何でムカつくの？（激怒）」

つぼみ「私に言われても……」

ヴィヴィオ「ママー！」

なのは「ヴィヴィオ！」

フェイト「危ないよ、転ばないでね！」

ヴィヴィオ「ぶっ！」

ヴィヴィオは転んだ。

操緒「転んだ！」

フェイト「大変、ヴィヴィオ！」

なのは「大丈夫、芝生柔らかいし、綺麗に転んだから怪我はして無いよ。」

フェイト「でも……」

なのは「ヴィヴィオ、大丈夫？怪我して無い？」

ヴィヴィオ「う……」

なのは「大丈夫なら自分で立って見ようか？」

ヴィヴィオ「ママ……」

なのは「うん、ママはここにいるから、さあ、おいで。」

フェイト「ダメだよなのは、ヴィヴィオはまだちっちゃいから！」

フェイトはヴィヴィオにかけよった。

フェイト「大丈夫？ここは転ぶことはあるけど、怪我はしないから大丈夫よ。」

ヴィヴィオ「フェイトママ。」

フェイトはヴィヴィオに抱っこをした。

なのは「もうフェイトママ、もう少し厳しくしないと……」

フェイト「なのはママは厳し過ぎ。」

智春「あ、えりかさん。」

えりか「な、夏目さん！／＼／」

智春「智春でいいよ。皆はそう呼んでるから。」

えりか「じゃあ智春さん……／＼／」

操緒『じ〜。』

いつき「操緒さん。」

操緒「あ、いつきちゃん。」

いつき「智春さんを見てどうしたの？」

操緒『別に……』

いつき「あ、分かった。操緒さんって智春さんのこと好きなんだ。」

操緒『私は、トモのこと、好きっていうわけじゃ……／＼／』

いつき「ごめんなさい、変なこと言っちゃって……」

操緒『いいよ。私、気にしてないから。』

ゆり「皆、よくやったじゃない。」

つぼみ「そうですね。」

食堂ルーム

つぼみ「また凄い量で食べるんですね。(汗)」

智春「どんだけなんですか？(汗)」

スバル「だって美味しいんだもん」

いつき「食べないの？」

操緒「食べたいけど、私、幽霊だから食べれないんだ。」

いつき「じゃあ僕に取りついたら？」

操緒「え？でもいつきちゃんに悪いよ。」

いつき「いいの、ほら。」

操緒「うん。」

操緒はいつきの体に取り付いた。

いつき(操緒)「でもいいの？」

いつき(いって。早く食べて。)

いつき(操緒)「うん。美味しい。」

いつき(でしょ。)

智春「珍しいな。」

えりか「え?」

智春「うんうん、何でもない。」

音也「貴方は美しいですね。俺は貴方のことは光栄します。」

シヤマル「いや、それほどでも・・・」

薫子「紅さん。」

音也「何だおばあちゃん。」

薫子(仕方ない。)

音也の前で薫子からキュアフラワーに変身した。

音也「おお、美しい女神よ。是非俺とお茶を・・・」

フラワー「喜んで」

つぼみ「音也さんってホントにバカですね。」

ゆり「正直、天才バカで変態バイオリニストだね。」

シヤマル「ホントにバカなんだ。」

なのは「ん？」

なのはヴィヴィオを見た。

なのは「ヴィヴィオ、食べないの？」

ヴィヴィオ「苦いの苦手。」

ヴィヴィオはピーマンが嫌いである。

なのは「ダメじゃないヴィヴィオ。好き嫌いしちゃ……」

えりか「そうそ。食べないとなのはママとフェイトママのように大きくなるよ。」

ヴィヴィオ「だって……」

ゆり「そういつえりかこそ、これは何？」

えりかの皿の上にはトマトが残っていた。

えりか「ああ〜これは最後に食べた方がいいかな〜と思って……」

（苦笑）

ヴィヴィオ「えりかお姉ちゃんも人のこと言えない。」

えりか「うっ。」

つぼみ「えりか、残したらケーキは無いですよ。」



えりか「ケーキ！あむっ！美味しい。（泣）」

つぼみ「うふふ。」

ヴィータ「まあリインは子供なんだからな。」

リイン「リインは大人です！」

シグナム「嘘つけ。」

シャマル「リインちゃんは大人には見えないよ。」

リイン「そんな！二人とも酷いですー！」

シプレ「リインは大人ですう。」

コフレ「リインにはとっても気が向いてるですっ。」

ポプリ「リインは優しい子でしゅ。」

リイン「三人ともありがとうございますー！」

シャーリー「とっても仲良しになってるね。」

えりか「つづぼみ、シャーリーの声を聞いてたら何でムカつくの？（激怒）」

つぼみ「それは……」

智春「あれ？この雰囲気何処かで……」

操緒「確か腕男が、トモに敵対していたような気が……」

えりか「皆、あたしに釣られてみる？」

エリオ「釣られませんよ。」

キヤロ「だよな。」

ギンガ「あのさ、『銀河を貫く伝説の刃』って何？」

えりか「それは……」

いつき「それは知らない方がいいですよ。」

つぼみ「えりか、ふざけてますから。」

えりか「コラー！」

全員「アハハハハハ！」

全員は最後の生活になることは知らない。

## 六課襲撃

へりポート

つぼみ達はなのはとフェイトの見送りをしていた。

なのは「ん？ヴィヴィオ、こんな所にいたら危ないよ？」

えりか「あ、その〜・・・」

いつき「ヴィヴィオちゃん。どうしてもなのはママの見送りがした  
いって、それで連れて来ちゃったんです。」

なのは「駄目じゃないヴィヴィオ。えりかお姉ちゃんといつきお姉  
ちゃんにワガママ言っちゃ・・・」

ヴィヴィオ「ごめんなさい。」

なのは「ヴィヴィオ、私達が夜勤で出勤なんて初めてだから不安な  
んだよ。」

ヴィヴィオ「・・・」

ゆり「ヴィヴィオ、なのはママがいなくなるのは寂しくなるでしょ  
？でも貴方にはえりかお姉ちゃんといつきお姉ちゃんとフェイトマ  
マがいるじゃない。なのはママが帰ってくるまで、二人のお姉ちゃ  
んとフェイトママで我慢しなさい。」

ヴィヴィオ「ゆりお姉ちゃん。」

なのは「ママ、今日は外でお泊まりだけど・・・明日の夜にはちゃんと帰ってくるから。」

ヴィヴィオ「うん。」

なのはへりに乗り、へりは飛んでいった。

つぼみ「行っちゃいましたね。」

シプレ「ですう。」

薫子「じゃあ皆、戻ろっか？」

えりか「ヴィヴィオちゃん。あたしといつきと一緒に遊ぼっか？」

いつき「今度は何して遊ぶ？ままごとにする？」

ヴィヴィオ「うん。」

一日が経った夕方の外

克巳「さて、もう出るか？」

マリア「ええ。もうスカリエッティの命令が来たわ。」

克巳「分かった。」

エターナル！

克巳「変身。」

エターナル！

克巳はエターナルに変身した。

サイクロン！

マリアの手にはガイアメモリを出し、メモリを投げ、後ろ首にあるスロット処置をさした。マリアは怪人となった。

サイクロン「作戦開始よ。」

エターナル「ああ。」

ユニコーン！マキシマムドライブ！

エターナル「ハアッ！」

ドーン！

フォワードメンバーは・・・

ウィーン！ウィーン！

スバル「ん？」

ティアナ「まさか！」

エリオ「急ぎましょう！」

キャロ「うん！」

ヴィータ「あたしとリインは空、お前等は地上を頼む！」

フォワードメンバー「はい！」

機動六課内

つぼみ「えりか！いつき！」

ゆり「つぼみ！」

つぼみ「ゆりさん！」

ゆり「えりかといつきは？」

つぼみ「それが、いないんです！」

ゆり「え？二人は何処に？」

つぼみ「もしかしたらあの二人、ヴィヴィオちゃんの所に！」

ゆり「こうしちゃいられないわ、つぼみ！」

つぼみ「はい！」

つぼみはココロパフォームを出し、ゆりはココロポットを出した。

シプレ「プリキュアの種、行くですう！」

つぼみ& amp; ゆり「プリキュア！オープンマイハート！」

つぼみとゆりはプリキュアの姿に変わった。

ブロッサム「大地に咲く一輪の花！キュアブロッサム！」

ムーンライト「月光に冴える一輪の花、キュアムーンライト！」

二人はエレベーターの扉を開けた。

ブロッサム「なのはさん、フェイトさん！今の内に！」

なのは「ありがとう二人とも。フェイトちゃん、行こう！」

フェイト「うん！」

内部

スバル「ぐあ！」

ティアナ「スバル！あ！」

ティアナ達の周りには赤い光の弾が浮かんでいた。スバル達の前には、スーパーアポロガイストがいた。

スーパーアポロガイスト「ハハハ。わがなはスーパーアポロガイスト。世界最も迷惑な存在なのだ。」



ドウコク「俺はドウコク。元外道衆のものだ。ん？」

ダークキバ「ハアッ！」

スーパリアポロガイスト「ふっ！」

二人はダークキバの攻撃を避けた。

ダークキバ「お前達が此処に来たら迷惑だ。帰れ。」

スーパリアポロガイスト「ダークキバか。」

ドウコク「おもしれえ。やって見る。」

ダークキバ「行くぞ！」

フォワードメンバー「はい！」

ヴィヴィオ「えりかお姉ちゃん！いつきお姉ちゃん！」

マリン「大丈夫だよ。あたし達を守るから。」

サンシャイン「だから安全な場所に隠れて！」

ヴィヴィオ「うん！」

ヴィヴィオは安全な場所に隠れた。

マリン「それにしても、凄い数だね。」

サンシャイン「うん。」

二人の前には、大量のスナッキーとガジェットがいた。

マリン「あたし達で皆と一緒にパーティーをやるっよ！」

サンシャイン「そうだね！」

コフレ&amp;pp・ポプリ「やるっしゅ！」

マリン「さあ、あんた達の罪を数えなさい！」

サンシャイン「プリキュアのために、人間のために、私達は戦う！」

クロガネ！マキシマムドライブ！

クロガネ「『ライダーキック！』」

ドーン！

クロガネ「トモ！急ごうよ！』

クロガネ「分かった。」

クロガネは次の所へ向かおうとしたその時！

クロガネ「くっ！」

クロガネ「何今の！？誰！？』

クロガネ「あ。」

クロガネの前には、砂漠王のブレドランが現れた。

ブレドラン「フッフ。」

クロガネ「砂漠王のブレドラン。」

ブレドラン「お前の相手は・・・私だ。」

クロガネ「トモ！やろう！』

クロガネ「うん。」

ブレドラン「来い。」

クロガネ「さあ、科学の光に沈め！」

戦いは・・・始まった。

## 六課襲撃（後書き）

言っておきますが、スバルとギンガは戦闘機人ではありません。二人の正体は次回で・・・

## ナカジマ姉妹の正体

ヒートドーパント「フフ。」

ザフィーラ「くっ。」

シャマル「強い。」

ザフィーラとシャマルはヒートドーパントとメタルドーパントとルナドーパントにやられていた。

メタル「どうした？そんな程度か？」

ルナ「あら、もう終わり？」

ヒート「こっちから行くよ。うん！」

ザフィーラ「くっ！」

ザフィーラはヒートの攻撃を避けるが・・・

ルナ「天まで届けー！」

ザフィーラ「ぐわあー！」

ルナの攻撃でザフィーラは落ちた。

ルナ「やった！当たった！」

シャマル「くっ。」

メタル「ほら、立て！フン！」

シャマル「がはっ！」

ヒート「バイバイ。うん！」

シャマルとザフィーラは避ける暇がなく、ヒートの攻撃に直撃した。

スバル（ギン姉。ギン姉！）

スバルはギンガのいる所に向かった。そこには……

スバル「ギン姉！」

ギンガ「スバル！」

ギンガはエターナルとサイクロンの戦いに苦戦していた。

エターナル「来たか。」

スバル「ギン姉、大丈夫？」

ギンガ「気を付けてスバル。奴は強いよ。」

スバル「分かってるよ。」

エターナル「待っていたぞ、兄妹。」

スバル「え？」

エターナル「お前等のことだよ。スバル、ギンガ。」

ギンガ「誰なの？何で私達の名前を・・・それに兄妹って？」

エターナルは克巳に戻った。

克巳「忘れたのか？お前達は俺達と同じ、バケモン。つまりお前達は NEVER で作られた存在だ。」

スバル「NEVER？」

サイクロン「貴方達は十年前、交通事故で死んだ。」

ギンガ「！」

それは・・・十年前の出来事であった。スバルとギンガはまだ五歳であった頃、横断歩道を歩いている最中、大型のトラックに衝突した。信号が赤になっていることに気付いていなかった。

スバル「嘘だ・・・」



サイクロンからマリアに戻った。

マリア「私は貴方達に、細胞を注入して、貴方達をNEVERにした。」

克己「その結果、お前達二人は、俺達と同じ悪魔となった。だが、お前達は高町なのは率いる機動六課に所属した。お前達は俺達の裏切り者、お前達にはもう必用ない。」

ギンガ「嘘だ。嘘だ嘘だ嘘だー！」

克己「死ね。」

エターナル！

克己はエターナルに変身した。スバルとギンガは動いていなかった。

ユニコーン！マキシマムドライブ！

エターナル「ハアアアアアア・・・ハアッ！」

その時！

ダークキバ「うわあああああ！」

ダークキバはスバルとギンガを守った。

スバル「音也さん！」

ダークキバ「あ……」

ダークキバから音也に戻り、音也は倒れてしまった。

音也「バカ野郎。何故こんな攻撃くらいで避けねえんだよ？目見え  
てんのかよ？」

ギンガ「それは……」

音也「何か言えよ。グハツ！」

スバル「音也さん！音也さん！」

エターナル「終わりだ。」

その時、マリアが止めた。

マリア「克己もう止めて。スカリエツティから帰還命令よ。」

エターナル「そうだな。始末はお預けだ。地獄を楽しめ。ナカジマ  
姉妹。」

二人は去った。

ティアナ「スバル！ギンガさん！」

そこにティアナ達がやって来た。

エリオ「音也さん！」

キャロ「酷い。」

ティアナ「エリオ、キャロ。スバル達は私が何とかするから、二人は早く！」

エリオ& amp・キャロ「はい！」

二人はシャマルとザフィーラのいる所へ向かった。

マリン「マリンインパクト！」

サンシャイン「サンフラワー！インパクト！」

マリンとサンシャインは大量のスナツキーとガジェットを倒した。

マリン「何とか倒したね。」

サンシャイン「うん。後は……」

その時、ヴィヴィオの声が……

ヴィヴィオ「えりかお姉ちゃん！いつきお姉ちゃん！助けてー！」

マリン「え？この声って……」

サンシャイン「ヴィヴィオちゃん！？ヴィヴィオちゃん！」

二人はヴィヴィオの所へ向かうと、そこにはルーテシアとガリユーがいた。

マリン「あなた……」

ルーテシア「邪魔。」

サンシャイン「サンフラワーイージス！」

ルーテシアの攻撃をサンシャインが防いだ。

サンシャイン「どうしてこんなことをするの！？ヴィヴィオちゃんは罪もないのに、どうして！？」

ルーテシア「貴方達には……関係ない。」

マリン「ハアー！」

マリンはルーテシアを攻撃しようとするが、ガリユーに防がれる。

マリン「何を企んでるかは知らないけど……ヴィヴィオちゃんを返して貰うから！」

サンシャイン「ハアー！」

サンシャインもガリユーにパンチにしようとしたその時！

サンシャイン「うわ！」

突然後ろの攻撃により、サンシャインは直撃した。

マリン「サンシャイン！」

クモジャキー「キュアマリン、今日こそ決着を付けるぜよ。」

マリン「クモジャキー！」

コブラージャ「キュアサンシャイン、君は僕が倒すよ。」

サンシャイン「怪我したコブラージャ！」

コブラージャはずっこけた。

コブラージャ「怪我したとは何だ！？」

マリン「そっぴや、昨日のゴーカイジャーで怪我したような？」

コブラージャ「何でゴーカイジャーが出て来るんだ！？」

クモジャキー「ずるいぞコブラージャ。自分だけ特撮に出て・・・」

コブラージャ「うるさい！クモジャキーだってガオレンジャーに出たくせに！」

クモジャキー「ガオレンジャーは関係無いだろ！」

コブラージャ「ゴークアイジャー何て関係無いじゃん！」

クモジャキー&amp;mp・コブラージャ「むづ〜!」「」

ルーテシア「ケンカしたら駄目ってドクターが言ってたよ。」

クモジャキー「そうだな。」

コブラージャ「仕方ない。やるか。」

サンシャイン「来るよ!」

マリン「うん!」

クロガネは・・・

クロガネ『トモ!こいつ強いよ!』

クロガネ「くっ!」

ブレドラン「どうした、仮面ライダークロガネ。もう終わりか?」

クロガネ「まだだ！」

クロガネ！マキシマムドライブ！

クロガネ「『ライダーキック！』」

クロガネの必殺技、『ライダーキック』をブレドランに直撃しようとするが、ブレドランに防がれる。

クロガネ『嘘！？』

ブレドラン「甘いな。むん！」

クロガネ「うわ！」

ブレドラン「終わりだ。ブレドランチャー！」

クロガネ「『うわあー！』」

クロガネは防ぐ暇もなく、ブレドランの攻撃に直撃した。クロガネから智春と操緒に戻った。

智春「くっそ〜。」

操緒『あ、あ・・・』

ブレドラン「ハハハ。ハハハハハ！もうすぐで聖王が誕生する。」

操緒「それって一体？」

ブレドランは消えた。

智春「待て！グハッ！」

操緒「ト・・・モ・・・」

二人は気絶した。



ナカジマ姉妹の正体（後書き）

何かごちゃごちゃになっちゃったらいらぬさ。

## 守れなかった約束

ヴィータ「リイン、しっかりしろ。リイン！」

ヴィータはゼストやアギトにやられていた。

シグナム「ヴィータ！」

ムーンライト「どうしたの？」

そこに、シグナムとムーンライトがやって来た。

ヴィータ「シグナム、ゆり。リインが……アイゼンが！」

ムーンライト「やられたわね。」

マリ「ハア……ハア……今までクモジャキーとコブラージャとは全然違う。」

サンシャイン「強く……なってる。」

ルーテシア「これはどう?」

ルーテシアは三つの魔法陣を出した。

偽W「『さあ、お前の罪を数える!』」

偽オーズ「何処にでも行けるさ。明日のパンツさえあれば。」

偽バース「俺がバースだ!」

マリン「な、何こいつら!?!」

サンシャイン「気を付けてマリン。何処に仕掛けて来るか分からないから。」

偽バース「ハアツ!」

マリン「くっ!マリン・・・シュート!」

偽バース「ぐあああああ!」

ドーン!

バースは爆発した。

マリン「あれ?あつけな・・・」

偽オーズ「ハアツ!」

マリン「くっ!あゝもうこうなりゃーか八かだ!ハアツ!」

マリンはタクトを回した。

マリン「花よ煌めけ！プリキュア！ブルーフォルテウェイブ！」

ブルーフォルテウェイブが偽オーズに当たった。

マリン「ハアアアアアアア・・・」

偽オーズ「あ、あ・・・」

偽オーズは幸せな顔をしながら消えた。

マリン「あれ？もう終わり？」

サンシャイン「プリキュア！ゴールドフォルテ・・・バースト！」

ゴールドフォルテバーストが偽Wに当たった。

サンシャイン「ハアアアアアアア・・・」

偽W「やっぱ、風は吹くな。」

偽W「検索したかったよ。この町のこと・・・」

偽Wは消えた。

サンシャイン「・・・」

コブラージャ「おーい！あっけなくやられたじゃないか！」

ルーテシア「ごめん。」

クモジャキー「俺達が相手ぜよ！」

マリ「あ、くっ！」

サンシャイン「マリ！」

コブラージャ「余所見をしてる暇はないよ、キュアサンシャイン！」

サンシャイン「うわ！」

マリ「ほいっと！こんな攻撃効くわけ……！」

マリの前にはルーテシアがいた。

ルーテシア「邪魔。」

ドーン！

サンシャイン「マリ！」

マリは倒された。

マリ「あんなの……あり？卑怯だよ、そんな……の。」

マリは気絶した。

コフレ「マリ！」

サンシャイン「マリン？マリン！」

コブラージャ「隙があったな。キュアサンシャイン。」

サンシャイン「え？」

サンシャインの後ろには、コブラージャがいた。

コブラージャ「アデュー、キュアサンシャイン。」

ドーン！

ポプリ「サンシャイン！」

サンシャイン「あ・・・あ。」

サンシャインはもの凄くダメージを受けた。

ルーテシア「ドクターが帰って来いの命令が来た。」

コブラージャ「しょうがないね。」

クモジャキー「此処は退くか。」

クモジャキーとコブラージャは消えた。

ルーテシア「ガリユー、行こっか？」

サンシャイン「待て・・・待て・・・ヴィヴィオ・・・ちゃん。」

サンシャインは気絶した。

遅れてブロッサムとエリオとキャロが来た。

ブロッサム「酷い。」

エリオ「ザフィーラとシャマル先生が……」

ザフィーラとシャマルはナンバーズにやられていた。

キャロ「つばみさん、あれ！」

ブロッサム「マリン！サンシャイン！」

ブロッサム達はマリンをサンシャインが倒れてる所を見た。

フラワー「皆！」

ブロッサム「おばあちゃん！」

フラワー「遅かったわね。」

ブロッサム「そんな・・・」

シプレ「ブロッサム、あれを見るですう！」

ブロッサム「ん？」

ブロッサムが方向を向いた先には、ルーテシアとヴィヴィオを抱えているガリユーがいた。

ブロッサム「ヴィヴィオちゃん！」

フラワー「つぼみ！」

ブロッサムはルーテシアのいる所へ突っ込む。

ブロッサム「どうしてヴィヴィオちゃんを？」

ルーテシア「貴方には・・・関係ない。」

ブロッサム「ハアッ！」

ブロッサムのパンチをガリユーが防いだ。

ブロッサム「関係なくありません！貴方はどうして酷いことをするのですか！？」

ルーテシア「・・・」

エリオ「ハアアアアア！」



エリオもガリユーに攻撃した。しかし・・・

エリオ「うわ！」

ブロッサム「うわあー！」

二人は・・・墜ちた。

キャロ「エリオ君！うっ！」

キャロはバインドにかけられ、フリードと一緒に水に落ちた。

フラワー「つぼみ！」

ヴィヴィオは連れ送られてしまった。

フラワー「ヴィヴィオちゃん！ん？」

フラワーは三人があがってくるのを見た。

キャロ「ハア・・・ハア・・・」

フラワー「キャロちゃん！」

キャロ「薫子さん。ごめんなさい。」

フラワー「いいのよ。でも、こんなことになってしまっなんて・・・」

キャロ「……」

フラワー「キャロちゃん？」

キャロ「竜騎、召還。ヴォルテール！」

巨大な物体が現れた。

キャロ「これ以上、私達の居場所を……」

フラワー「キャロちゃん。貴方……」

キャロ「壊さないでー！」

はやて「こんな事で機動六課は……私達は終わらへん！」

守れなかった約束（後書き）

ごめんなさいガタツクさん！あの三人のライダーをどうしてもやら  
れ役がやりたかったので、ごめんなさい！

再び空へ・・・

機動六課の基地の被害はほとんど酷かった。

### 聖王教会病室

つぼみ「・・・」

つぼみはベッドで寝ているえりかといつきを見た。

コフレ「お医者さんが言ってたですっ。命には別状はないと言っ  
たですけど・・・」

ポプリ「治るまで1週間がかかるでしゅ。」

つぼみ「・・・」

シプレ「つぼみ？」

つぼみ「くっ!」

つぼみは走り去った。

シプレ「つぼみ!」

ヴィータ「放つとけよ。あいつは、悩んでいることがあるかもしれない……」

## 聖王教会 外

つぼみ「う……うう……」

つぼみは大粒の涙を出した。

つぼみ「何のために私はプリキュアになったの？皆の心を守るため？世界を守るため？私はチェンジしてもまだ変わってないの？私はまだ史上最弱なプリキュアなの？私は……（泣）」

????「アギユ」

つぼみ「ん？」

つぼみの前に、犬みたいな動物が現れた。

????「アギユ〜。」

動物はつぼみの顔にペロペロとなめた。

つぼみ「やめてったら、くすぐりたい。」

????「アギユ〜。」

つぼみ「やめて。遊んでる暇なんか・・・」

そこに・・・

操緒「トモ、まだ動かない方がいいよ。」

智春「でも大丈夫。これくらいはかすり傷だから。」

操緒「でも・・・ん？トモ！あれってペルペルじゃない!？」

智春「ん？ホントだ！何処行ってたんだよ全く・・・ペルセフォネ  
」!

つぼみ「ん？」

ペルセフォネ「アギユ〜！」

智春「つたく〜、ペルセフォネ。今まで何処に行ってたんだ?」

操緒「心配したよ。」

ペルセフォネ「アギユ〜。」

つぼみ「この犬？知ってますか？」

智春「うん。こいつはペルセフォネって呼ぶんだ。」

操緒「ペルペルがないと私達戦えないよね。」

つぼみ「それって・・・一体？」

智春「仮面ライダークロガネの武器にもなるんです。」

操緒「例えばこんな感じ・・・」

ペルセフォネから剣に変わった。

つぼみ「・・・」

智春「これからはペルセフォネと一緒にいなきゃ駄目だから僕達は戦ってるんだ。」

操緒「ペルペル、これからは一緒にいることは大事だからね。」

ペルセフォネ「アギユー！」

智春「戻って。」

ペルセフォネは消えた。

つぼみ「よく分かりませんが、私、元気になりました。」

智春「そうですね。えりかさんは？」

つぼみ「……」

操緒『どうしたの？』

数分後

智春「えりかさんもですか……」

つぼみ「はい。私が一緒にいなかったせいで二人は……」

操緒『そんなことないよ。悪いのはスカリエッティって奴だよ！』

智春「つぼみさん、勇氣出して下さい。」

つぼみ「……」

つぼみは走り去った。

智春「つぼみさん！」

操緒『トモー！』

智春「操緒。」



機動六課襲撃から、一週間が経った。そして、スカリエツティとの最終決戦が始まる。

えりか「つぼみ、何処に行っちゃったんだろう?」

いつき「うん。」

シプレ「シプレはつぼみを探すですう!」

シプレはつぼみを探しに行った。

ヴィータ「きつとあいつなら大丈夫なはずだ。」

シグナム「そのようだな。」

なのは「皆、この戦い・・・終わらせよ。」

なのは達はへりを飛び出した。なのは達はバリアジャケットを付けた。

なのは「エクセリオンモード!」

なのはのバリアジャケットが変わった。

フラワー「皆、この戦いは負けられないよ。」

ムーンライト「はい。皆、行くわよ!」

フォワードメンバー「はい!」

マリン「やるっしゅ!」

サンシャイン「うん!」

つぼみは・・・

つぼみ「・・・」

つぼみは皆が戦ってる所を見た。

つぼみ「もう終わる。この世界も。皆、死ぬ。もう・・・何も出来ない。」

そこに、足音が鳴り、つぼみに近付いた。

????「探したぞ。」

再び空へ・・・(後書き)

次回、あの男・・・

## 謎の男（前書き）

今回はあの男が登場です。

## 謎の男

「????」探したぞ。」

つぼみ「貴方は?」

謎の男はつぼみを近付き、そしてつぼみを殴った。

つぼみ「・・・」

「????」いつまでこんな情けない顔してるんだ?」

謎の男はつぼみの首を掴み、右手から機械の音がした。

つぼみ「くっ!うう・・・」

「????」どうした?そんなに消えたいのか?」

つぼみ「ちょうどいいですね。私を消して下さい。」

「????」何?」

つぼみ「私には・・・もう・・・守る人なんか・・・いない。皆さんは・・・やられる・・・だけ、殺・・・される・・・だけ、皆・・・死ぬん・・・です。」

謎の男はつぼみを離れた。

「????」お前、まさかこのまま死んでもいいというわけか!?」

謎の男は叫んだ。

「???」今のお前には、プリキュアと名乗る資格はない。」

つぼみ「ゴホッ！ゴホッ！どういう・・・ことですか？」

「???」俺の知ってるプリキュアは・・・そんな奴じゃない。俺の前にいたキュアアンジェは、そんな言うようなことをするはずがない。」

つぼみ「・・・」

「???」俺はかつて、世界の破壊者に右腕は奪われた。」

つぼみ「世界の・・・破壊者？」

「???」そうだ。あいつは世界を守るために戦っている。見る・・・あの魔道師やプリキュアが戦っているのと同じだ！」

つぼみ「！」

つぼみは気付いた。

つぼみ「そうだ、私は皆の心を守るために、私はプリキュアとして戦い続けて来た。でも、今の私は・・・逃げた。自分の弱さに・・・負けたんだ！」

「???」そうだ。お前は負けた。」

二人の前に、大量のスナッキーと、大量のガジェットが現れた。

つぼみ「逃げて下さい！此処は私が・・・ん？」

謎の男はつぼみを止めた。

????「下がってる。」

謎の男は右手を引つ張り始める。

????「ぐうううう・・・うわあー！」

右手は火花を散らしながらとれた。

つぼみ「！機械の・・・腕？」

????「ハア・・・ハア・・・例え孤独でも、皆の心と笑顔を守るために戦う。ぐっ、ぐあー！」

謎の男はキャノン砲のような物を苦しそうに右腕に取り付ける。

????「それが・・・プリキュアだろ？」

つぼみ「・・・」

????「戦うとは・・・こういうことだ。」

謎の男は大量のスナッキーとガジェットにキャノン砲を向けた。そしてキャノン砲を放ち、大量のスナッキーとガジェットを一瞬で吹き飛ばした。

つぼみ「うっ！凄い威力！」

謎の男はその場から立ち去ろうとする。

つぼみ「待って下さい！貴方の名前は！？」

謎の男「結城・・・丈二。」

結城丈二と名乗った男は、霧の中に入った。

つぼみ「待って下さい！」

つぼみは霧の中に入ろうとするが、謎の男は・・・もういなかった。

つぼみ「結城・・・丈二。」

シプレ「つぼみー！」

シプレはつぼみを見つけた。

つぼみ「シプレ！」

シプレ「今まで何処に行ってたのですう！？」

つぼみ「ごめんなさいシプレ。」

シプレ「マリン達が戦ってるですう！」

つぼみ「分かっています。シプレ！」



シプレ「はいですう！」

つぼみの手からココロパフォームを出した。

シプレ「プリキュアの種、行くですう！」

つぼみ「プリキュア！オープンマイハート！」

つぼみの姿がプリキュアの姿に変わった。

ブロッサム「大地に咲く一輪の花！キュアブロッサム！」

つぼみはキュアブロッサムに変身した。

ブロッサム「（私はもう迷わない。皆のためにも！）シプレ、行き  
ますよ！」

シプレ「はいですう！」

ブロッサムの肩にマントを付け、ブロッサムは飛んだ。

ブロッサム（結城丈二のためにも！）

謎の男（後書き）

結城丈二を出してしまったのですが、どうでしたか？

## 役目

クロガネ「ペルセフォネ！」

ペルセフォネ「アギュー！」

ペルセフォネは剣になった。

クロガネ「『さあ、科学の光に沈め！』」

クロガネ！マキシマムドライブ！

クロガネ「『ペルセフォネ・・・ダークスラッシュ！』」

クロガネの周りにいた100体のガジェットを撃墜した。

クロガネ『どんなもんだい！』

そこに・・・

筋グゴン「うわあー！」

クロガネ「くっ！」

クロガネは筋グゴンの攻撃を止めた。

筋グゴン「やるじゃないか。今度は俺の相手だ、相手だ、相手だ！」

クロガネ「・・・」

筋グゴン「うおおおおお！」

クロガネ「ハッ！」

二人の攻撃が当たった。勝ったのは……

筋グゴン「ぐお！」

クロガネだ。

筋グゴン「バ、バカな……」

クロガネ「トモ！」

クロガネ「分かった！これで決まりだ。」

クロガネメモリをマキシマムスロットにさす。

クロガネ！マキシマムドライブ！

クロガネ「ライダーキック！」

筋グゴン「ぐわあー！」

クロガネの必殺技が炸裂し、筋グゴンは吹っ飛んだ。

筋グゴン「この俺が……負けるとは、負けるとは、負けるとは、負けるとは……」

筋グゴンは倒れ、そして爆発が起きた。

クログガネ『トモ、もう帰ろうか？』

クログガネ「え？もうなの？」

クログガネ『だって、ほら。』

二人の前には、灰色のカーテンが現れた。

クログガネ『トモ、私達の役目は終わったんだよ。』

クログガネ「そうだね。後は皆さんが任せた方がいいね。」

そこに、コツペがやって来た。

クログガネ「コツペさん。」

クログガネ『コツペちゃん！いつきちゃん達によろしくと伝えて！』

クログガネ「さよなら！」

二人は灰色のカーテンに入り、灰色のカーテンは消えた。

ダークキバ「くっ！」

スーパーアポロガイスト「どうした？ダークキバ、まだ傷に響くか？」

ダークキバ「これくらいで諦めるか。これくらい諦めるか！」

スーパーアポロガイスト「フン。諦めの悪い奴だな。だが、もう終わりだ。」

ダークキバは構えた。

スーパーアポロガイスト「スーパー……ガイストカッター！」

ダークキバ（やられる。）

そう思ったその時！ダークキバの前には灰色のカーテンが現れた。

スーパーアポロガイスト「何！？」

ダークキバ「あれは……」

灰色のカーテンから青年が現れた。

「……？」「あれ？此処、何処？」

ダークキバ「渡。」

渡「あれ、父さん？」

ダークキバ「渡じゃないか！」

渡「父さん！」

渡はダークキバに抱き付いた。

渡「父さん、会いたかったよ！」

ダークキバ「俺もだ、渡！」

スーパァポロガイスト「いつまでこんなことするつもりだ!？」

ダークキバ「渡、行くぞ！」

渡「はい。キバット! タツロツト!」

キバット三世「よっしゃ! 久し振りにキバって行くぜ! ガブツ！」

キバットは渡の手に噛み付いた。

渡「変身！」

タツロツト「ビュンビュン。」

渡の姿が蝙蝠みたいな姿に変わった。その姿は『仮面ライダーキバ』  
。最強フォームはエンペラーフォームである。

キバE& amp; ダークキバ「ハアアアアアア・・・ハアッ！」

「  
スーパーアポロガイスト「ぐおっ！しまった、動けぬ！」

ダークキバ「渡！」

キバE「はい！」

ダークキバはフェッスルを出した。

キバット？世「ウェイクアップ?!」

キバEはルーレットを回した。

タツロツト「ウェイクアップファイバー！」

キバEとダークキバは高くジャンプした。そしてキバEの必殺技、  
『エンペラームーンブレイク』と、ダークキバの必殺技、『キング  
スバーストエンド』がスーパーアポロガイストに炸裂する。

キバE & amp; ダークキバ「ハアアアアア！」

スーパーアポロガイスト「ぐわ！」

スーパーアポロガイストは吹っ飛んだ。

スーパーアポロガイスト「いつか私は、宇宙で最も迷惑な奴として、  
蘇るのだ！」

スーパーアポロガイストはそう言い、最後に爆発した。



ダークキバ「渡、俺の役目はもう終わった。」

キバE「え？」

ダークキバ「俺はまた、あの世へ行かなきゃならない。」

キバE「そんな。せつかく会えたのに……」

ダークキバ「落ち込むな渡。本物は……お前の胸に生き続けているんだ。」

キバE「父さん。」

ダークキバ「あばよ。俺の息子よ。」

ダークキバは消えた。

キバE「……」

キバット「渡、帰るぜ。後はプリキュアちゃんに任せた方がいいぜ。」

キバE「うん。」

キバEは灰色のカーテンに入り、灰色のカーテンは消えた。

なのは「相手をしてる暇はないのに……」

ブロッサム「どうしたら……」

その時、桜の花が散り、そこにコツペが変身した男が現れた。

なのは「誰？」

ブロッサム& a m p・シプレ「コツペ様！」

ヴィータ「コツペって……あれコツペなのか!？」

ブロッサム「はい。」

コツペは『先に行け』と言う。

ブロッサム「皆さん、ヴィヴィオちゃんを助けに行きましょう！」

なのは「でも、コツペさんは……」

ブロッサム「コツペ様なら大丈夫だと思います。行きましょう！」

ヴィータ「分かった。コツペ、頼んだぞ！」

三人はゆりかごに潜入した。コツペは大量のガジェットに立ち向かった。

## 役目（後書き）

ガタツクさん、ありがとうございました！何とか智春と操緒を返しました！そして紅音也は退場です。

音楽のプリキユア登場！（前編）（前書き）

今回は音楽のプリキユアが登場です！但し、一人だけです。

音楽のプリキユア登場！（前編）

メタル「てめえの相手は俺だ。」

ヒート「チュツ。フフ。」

ルナ「貴方は私が可愛がってあげる。」

ティアナ「・・・」

ティアナはメタル、ヒート、ルナと立ち向かっている。

ティアナ（私はもう迷わない。ホテルアグスタであった私とは違う。私は兄のために、執務官になってみせる！）

メタル「行くぜ！」

メタルの掛け声で、三人は走った。

ティアナ「シユート！」

ヒート「うん！」

ティアナの弾丸をヒートが防いだ。ティアナの後ろから・・・

メタル「貰ったー！」

メタルが襲った。

ティアナ（しまった！）

ティアナがやられようとしたその時！

メタル「ぐっ！」

ティアナ「え？今のつてスバル？」

ティアナは後ろを振り向くとそこには、つばみ達と同じプリキュアだった。

????「何とか間に合った。これを行けるくらいどれだけかかったんだろう？」

ティアナ「ねえ、君って……」

ルナ「あら？誰なのかしらあの子？」

ヒート「誰？」

????「私？私は……爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」

ティアナ「キュアメロディ？いつき達と同じプリキュアなの？」

メロディ「そういうこと。」

メタル「一人増えたか。だが二対三で、俺達に勝てると思ったか！？」

メロディはメタルの攻撃を片手で止めた。

メタル「何！？」

メロディ「ハッ！」

メタル「ぐわ！」

ヒート「うん！フッ！」

メロディはヒートの攻撃を全部止めた。

メロディ「たあ！」

ルナ「あの子って強い。嫌いじゃないわ！」

ルナの両腕が伸び、メロディを巻き付けた。

メロディ「うわあー！気持ち悪っ！」

ルナ「私が抱き締めてあげる。」

ティアナ「ファントムブレイザー！」

ティアナはルナのムチを切り裂き、巻き付けられたメロディを助けた。

ルナ「あ、切れちゃった！」

メロディ「ありがとう。」

ティアナ「どういたしまして。」

メタル「うう……。」

フェアリートーンが現れ、メロディは武器を召還した。メロディの手には……

メロディ「奏でましょう、奇跡のメロディ！ミラクルベルティエ！」

メタル「それがどうした!?!」

メロディ「おいで、ミリー！」

ミリー「ミミィー！」

フェアリートーンはベルティエに取り付けた。

メロディ「駆け巡れ！トーンのリング、プリキュア！ミュージック  
ロンド！」

メロディの必殺技、『ミュージックロンド』が、メタルに直撃した。

メタル「ぐおっ！」

メロディ「三拍子！1・2・3、フィナーレ！」

メタル「ぐわあー！」

ドーン！



メタルから剛三に戻った。

剛三「あ。」

ヒート「うん！」

ティアナ「ふっ！」

ティアナはヒートの攻撃を避けた。

ティアナ「クロスファイアー・・・シュート！」

ヒート「くっ！ん？何処に行った？」

ティアナ「ここよ！」

ヒート「何！？」

ヒートの目の前には、ティアナがいた。

ティアナ「ファントムブレイザー！」

ティアナの必殺技、『ファントムブレイザー』が、ヒートに切り裂く。

ヒート「うっ。」

ティアナ「絶望が・・・貴方のゴールよ。」

ヒート「うわぁー！」

ドーン！

ヒートからレイカに戻った。

レイカ「うっ。うう・・・」

メロディ「残るはあんたよ。」

ルナ「あらま、私一人になっちゃった。」

メロディ「おいで、ドリー！」

ドリー「ドドー！」

ドリーはベルティエにはめ、そしてベルティエが分割した。

メロディ「ミラクルベルティエ、セパレーション！」

ルナ「真っ二つになっちゃった！」

メロディは二本のベルティエを鳴らし、そして・・・

メロディ「溢れるメロディの、ミラクルセッション！プリキュア！  
ミラクルハートアルペジオ！」

メロディの必殺技、『ミラクルハートアルペジオ』が、ルナに直撃した。

メロディ「三拍子！1・2・3、ファイナーレ！」

ルナ「克己ちゃん！」

ドーン！

ルナから京水に戻った。

京水「うつ・・・」

メロディは此処から去ろうとする。

ティアナ「待って！何処へ行くの？」

メロディ「これから私、元の世界へ戻らなきゃ行けないの。後は管理局とブロッサム達に任せるよ。」

ティアナ「どうしてそれを・・・」

メロディ「じゃあね。」

メロディは灰色のカーテンに入り、灰色のカーテンは消えた。

ティアナ「つぼみ達の他に、プリキュアが・・・」

その後、レイカと剛三と京水は塵となり、消滅した。

**音楽のプリキュア登場！ (前編) (後書き)**

リズムは次回に出します。

音楽のプリキュア登場！(後編)(前書き)

キュアリズム登場です！

## 音楽のプリキュア登場！（後編）

ヴィータ「ハア・・・ハア・・・何とか片付いたな。急がねえと・・・」

ヴィータは多数のガジェットとスナッキーの相手をしていた。なのはとプロツサムは別行動をしていた。ヴィータは進もうとしたその時！

ヴィータ「！」

ヴィータの体に何かが貫いた。ヴィータは後ろを見てみるとそこには、デレプタがいた。ヴィータは思い出した。二年前になのはの胸に何かが貫いたことを・・・

ヴィータ「うわあー！」

ヴィータはデレプタに攻撃したが、デレプタは避けた。

ヴィータ「ガハッ！てめえがなのはを撃墜した奴か！」

デレプタ「その通り。二年前にエースオブエースを撃墜したのは、この・・・俺だー！」

ヴィータ「てめえが・・・なのはを・・・」

デレプタ「あいつが生きていたのは驚いたが、あいつはもう終わる。聖王によって！」

ヴィータ「どういう・・・ことだ？」

デレプタ「知りたければ、俺等を倒してからだ。」

デレプタの後ろには多数のガジェットとスナツキーがいた。

ヴィータ「上等だよ、あんな奴なんかあたしが全部、ぶっ壊す！」

ブロッサムとなのは・・・

ブロッサム「・・・」

ブロッサムはヴィータの事を心配していた。

ブロッサム（ヴィータ。）

なのは「つぼみちゃん？」

ブロッサム「いえ、何でもありません。」

なのは「まさか、ヴィータちゃんが心配？」

ブロッサム「はい。」

なのは「ヴィータちゃんなら大丈夫。ヴィータちゃんはヴォルケンリッターの一人だもん。」

ブロッサム「なのはさん。」

なのは「今戦っているスバル達も皆無事だと信じたいの。だから、皆の無事を祈ろうよ。」

ブロッサム「はい！」

なのは「私はヴィヴィオの所へ行くから、つぼみちゃんは薫子さんを・・・。」

ブロッサム「なのはさん！」

なのは「ん？」

ブロッサム「気を付けて下さい。」

なのは「分かった。つぼみちゃんも気を付けて。」

二人は約束し、ふたてに別れた。



ヴィータは……

ヴィータ「くっそ、体が……」

ヴィータは多数のガジェットとスナツキーにやられていた。ヴィータの傷は響いており、戦いにくい状態である。

デレプタ「傷に響くか？」

ヴィータ「くっ！」

デレプタ「甘かったな。」

ヴィータ「！」

ヴィータの後ろにはスナツキーがいた。

ヴィータ「しまった！」

ヴィータはやられようとしたその時！

スナツキー「キー！」

デレプタ「な、何だ！？」

ヴィータ（今の攻撃って……）

ヴィータは後ろに振り向くとそこには、つばみ達と同じプリキュアがいた。

「???」はあく、何とか間に合った。上手くやってるかな?」

デレプタ「だ、誰だ貴様は!？」

「???」私?私は・・・爪弾くはたおやかな調べ!キュアリズム!

ヴィータ「キュア・・・リズム?」

デレプタ「やれー!」

スナッキー「キー!」

リズムは多数のスナッキーとガジェットに立ち向かう。

リズム「フツ!ハアツ!」

スナッキー「キー!」

リズム「やあっ!」

ドーン!

リズムは多数のスナッキーとガジェットを倒した。

ヴィータ「凄え。」

デレプタ「俺が相手だ!流星弾!」

リズムはデレプタの攻撃を完璧に避ける。

デレプタ「何!?!」

リズム「今度は・・・私よ!」

その時、ファリーが現れ、リズムは手拍子を始めた。そして、リズムの手には・・・

リズム「刻みましょう、大いなるリズム!ファンタスティックベルティエ!」

ヴィータ「・・・」

ヴィータはリズムを見た。

リズム「おいで、ファリー!」

ファリー「ファファ〜!」

ファリーはベルティエにはめた。そして・・・

リズム「駆け巡れ、トーンのリング!プリキュア!ミュージッククロンドー!」

リズムの必殺技、『ミュージッククロンド』が、デレプタに直撃した。

デレプタ「ぐおっ!」

リズム「三拍子！1・2・3、フィナーレ！」

ドーン！

デレプタ「うっ！何故俺がこんな奴に・・・何故俺が、こんな奴に  
ー！」

デレプタはそう言いながら爆発した。

リズム「あ、もう帰らないと。」

ヴィータ「待ってくれ！」

リズム「ん？」

ヴィータ「あんたもプリキュアなのか？」

リズム「うん。」

ヴィータ「おめえ、凄えんだな。」

リズム「誉めてくれるの？」

ヴィータ「ああ。」

リズム「それと、つぼみ達によろしくと伝えて！」

ヴィータ「分かった。」

リズム「可愛いヴィータちゃん。じゃあねー！」

リズムは灰色のカーテンに入り、灰色のカーテンは消えた。

ヴィータ「可愛いあたし・・・か。」

なのは「ヴィヴィオ、待ってて。今助けに行くから！」

ブロッサム「おばあちゃん。」

フラワー「砂漠王のブレドラン、貴方は・・・私が倒す！」

ブレドラン「やってみる。私はデューンを継ぐ者。」

エターナル「もうすぐ地獄が・・・始まる。」

音楽のプリキユア登場！（後編）（後書き）

二年前になのはを襲ったのは、ガジェットではなく、デレプタにしてみました。どうでしたか？

## サソリーナ、クモジャキー、コブラー ज्याの最後

マリン「クモジャキー。」

クモジャキー「キュアマリン。今度こそ、お前を倒すぜよ！」

マリン「望む所よ。クモジャキー！」

コブラー ज्या「フッフ。」

サンシャイン「コブラー ज्या。」

コブラー ज्या「キュアサンシャイン、今日こそ此処で決着を付けてやる。」

サンシャイン「コブラー ज्या、その心の闇、私の光で照らしてみせる！」



ブロッサム「サソリーナ。」

サソリーナ「あなたの相手は私よ〜ん。」

シプレ「ブロッサム。」

ブロッサム「シプレ、下がって下さい。サソリーナは・・・私が倒します！」

サソリーナ「キュアブロッサム、あなたが私が倒してやるわよ〜ん！」

なのは「ヴィヴィオ。」

なのはが向かう所をトリガードーパントが準備していた。

トリガー「ゲームオーバー。」

なのは「！デイバイン・・・バスター！」

二人の撃ち合いで衝撃波が・・・

なのは「プラズマ・・・シュート！」

トリガー「な！ぐあー！」

なのはのプラズマシュートにより、トリガーは負け、トリガーから賢に戻った。

賢「うつ・・・」

なのは「貴方を・・・逮捕します。」

すると賢の体が消滅し始める。

なのは「大丈夫!？」

賢「頼む。俺の話を・・・聞いてくれ。」

なのは「何？」

賢「克己が・・・ヴィヴィオを使って・・・何か企んでいる。」

なのは「え!？」

賢「奴は・・・全員の人間を死人にし、化け物に変えようと・・・するつもりだ。」

なのは「……」

賢「頼む。克己を……止めてくれ。」

賢はそう言い残し、賢は消滅した。

なのは「止めるよ。全力で……」

マリン「うっ！」

クモジャキー「どうだキュアマリン。あの時の俺とは違っぜよ。」

マリン「へえ、強いじゃない。」

クモジャキー「ん？」

マリン「あの時のクモジャキーと比べてみると、強くなってるじゃない。あんたが強くなったのは、嬉しいよ。」

クモジャキー「何を言うジャキ？」

マリ「でもあんたが強くなったくらい、あたしは絶対に負けない！海より広いあたしの心も、心が我慢の限界よ！（久し振りに言ってみた。）」

クモジャキー「ハアッ！」

マリ「ふっ！マリインパクト！」

クモジャキー「くっ！」

マリ「たあ！」

クモジャキー「ぐおっ！」

マリは、タクトを出した。

マリ「集まれ、花のパワー！マリインタクト！ハッ！」

マリはタクトを回した。

マリ「花よ煌めけ！プリキュア！ブルーフォルテウェイブ！」

マリの必殺技、『ブルーフォルテウェイブ』が、クモジャキーに直撃した。

マリ「ハアアアアア・・・」

クモジャキー「また・・・俺の負けジャキ。」

クモジャキーは消えた。

マリィ「クモジャキー、永遠に・・・」

サンシャイン「ハアッ！」

コブラージャ「くっ！フッ！」

サンシャイン「サンフラワーイージス！」

サンシャインはコブラージャの攻撃を防ぐ。

コブラージャ「キュアサンシャインはパワーアップしたのか!？」

サンシャイン「残念だったね。前の私とは違うよ!！」

コブラージャ「おのれー！」

サンシャイン「フッ！ハアッ！」

コブラージャ「くっ！」

サンシャインは、タンバリンを手に持った。

サンシャイン「集まれ、花のパワー！シャイニータンバリン！ハッ  
！」

サンシャインはタンバリンを回した。タンバリンを叩きながら、そ  
して・・・

サンシャイン「花よ、舞い踊れ！プリキュア！ゴールドフォルテ・  
・バースト！」

サンシャインの必殺技、『ゴールドフォルテバースト』が、コブラ  
ージャに直撃した。

サンシャイン「ハアアアアアア・・・」

コブラージャ「キュアサンシャイン、また会おう。アデュー。」

コブラージャは消えた。

サンシャイン「闇に抱かれて、眠れ。」

ブロッサム「ハアッ！」

サソリーナ「くっ！フッ！」

ブロッサム「たあ！」

サソリーナ「イタッ！」

ブロッサム「ウエイ！」

サソリーナ「ぐっ！」

ブロッサムは、タクトを出した。

ブロッサム「集まれ、花のパワー！ブロッサムタクト！ハアッ！」

ブロッサムはタクトを回した。

ブロッサム「花よ輝け！プリキュア！ピンクフォルテウェイブ！」

ブロッサムの必殺技、『ピンクフォルテウェイブ』が、サソリーナに直撃した。

ブロッサム「ハアアアアアアア……」

サソリーナ「プリキュアに……負けた。私、こんなに気持ち良いの、初めて。」

サソリーナは消えた。

シプレ「ブロッサム、おばあちゃんの所に行くですう！」

ブロッサム「はい！」

外には、4年前にスバルを助けた女性が現れた。

「???」待っていてくれ。姉さん。」



## キュアプロツサム、死す

ヴィータは動力源を破壊し、シグナムはゼストを倒す。その頃、エリオとキャロは・・・

ルーテシア「もう、一人ぼっちは嫌だ。一人ぼっちは嫌だ！」

キャロ「大丈夫だよ！貴方は一人じゃない！私達がいるから！」

ルーテシア「何が大丈夫なの？貴方達は幸せなの？裏切られた人達に、貴方達は幸せなの！？」

キャロ「・・・」

エリオ「それは・・・」

エリオとキャロは思い出す。

ゆりかご内

エターナル「フン。」

エターナルはエターナルメモリを抜き、ナイフのような物をメモリにさす。

エターナル！マキシマムドライブ！

エリオとキャロは……

ルーテシア「え、どうしたの？」

するとルーテシアのデバイスとガリユーの動きが作動停止した。そして魔導陣も消えた。

ルーテシア「魔導陣が！」

エリオ「止まった？」

その時、通信が入った。

エターナル『よお、ルーテシア。』

ルーテシア「克己、私のデバイスが急に……」

エターナル『知ってる。俺がお前のデバイスとガリユーの力を作動停止したのだ。』

ルーテシア「え!？」

エターナル『言っただけでなかったか?前に話したろ?エターナルメモリはT2以外のメモリを作動不能となる。だが、エターナルメモリを改造した結果、お前のデバイスを作動不能するために用意しておいたんだよ。俺が・・・』

ルーテシア「そんな!どうしてそんな事を!？」

エターナル『決まってるだろ。お前はもう用済みだ。』

ルーテシア「克己。」

エターナル『消える。』

通信を切ると、ルーテシアの後ろから、デザトリアンがおり、ルーテシアに攻撃しようとした。

キャロ「逃げて!」

ルーテシア「嫌・・・」

エリオ「ダメだ!間に合わない!」

ルーテシア「嫌ああああああ!」

だがその時!

ドーン！

何かの攻撃でデザトリアンは倒れる。

エリオ「え？」

キャラ「今のつて……」

三人は後ろに振り向くと、そこにはつばみ達と同じプリキュアがいた。

???「大丈夫？ルーテシア。」

ルーテシア「貴方……誰？」

???「私は……爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」

エリオ「キュアビート。」

ビート「エリオ、キャラ、此処は私に任せてルーテシアを安全な所へ！」

キャラ「はい！」

二人はルーテシアを安全な所に……

ビート「私は散々皆を不幸にした。でも今の私は違う。私はハミィや皆を守りたい。私は皆を、守って見せる！」

すると、ソリーが現れ、ビートは指を鳴らしてから音符を手に取り、と、ビートは武器を召還する。

ビート「吹き鳴らせ！愛の魂！ラブギターロッド！おいで、ソリー！」

ソリー「ソソ！」

ソリーはラブギターロッドにセットすると・・・

ビート「チェンジ！ソウルロッド！」

ラブギターロッドは変わった。

ビート「駆け巡れ、トーンのリング！プリキュア！ハートクルビート、ロックー！」

ビートの必殺技で、デザトリアンに直撃した。

ビート「三拍子！1、2、3。フィナーレ！」

デザトリアンは爆発した。

エリオ「凄い。」

ビートは此処から去ろうとした。

ルーテシア「持って。」

ビート「ん？」

ルーテシア「助けてくれてありがとう。キュアビート。」

ビート「・・・」

するとビートの目は涙を流した。

ビート「こちらこそ、ありがとう。」

ビートは微笑む。

ビート「それじゃあこの世界を頼んだよ。」

ビートは灰色のカーテンに入り込み、灰色のカーテンは消えた。

キャラ「あれ？エリオ君、あの人、どうして私達の名前を知ってたんだろう？」

エリオ「さあ？」

ルーテシア「キュアビート。」

ゆりかご内

ブロッサム（おばあちゃん！）

ブロッサムはフラワーの所へ急ぐ。

なのはは・・・

なのは「ヴィヴィオ！」

エターナル「よお。」

ヴィヴィオ「ん？」

ヴィヴィオは目を覚ます。

ヴィヴィオ「ママ！」

なのは「ヴィヴィオ、待ってて。今助けるから！」

エターナル「フン。お前に出来るかな！」

エターナルはマントを脱ぐ。

エターナル「フツ！セアツ！」

なのは「くっ！」

エターナル「フフフ。」

なのは「貴方、ヴィヴィオを使って何を企んでるの!?!」エターナル「さあな？」

なのは「ヴィヴィオを、ヴィヴィオを返して！」  
エターナル「フン。」

ムーンライト「ハアッ！」

膜イン「ブフフ。」

ムーンライトは膜インと戦っていた。

ムーンライト「があっ！」

膜イン「どうしたの？もう終わり？」

ムーンライト「まだ終わらないわ。」



膜イン「まあいいや。我が輩も本気にするか！」

スバルとギンガはドウコクと戦っていた。

スバル「うっ！」

ドウコク「フフフ。」

ドウコクの後ろから・・・

ギンガ「ハアアアアア！」

ギンガは攻撃するが、防がれる。

ドウコク「死人のお前達には俺を勝つことは出来ぬ。」

ギンガ「私達は悪魔じゃない！」

スバル「私達は死んでるけど、皆が私達の傍にいてくれる。私は皆に会えて、嬉しかった！」

ギンガ「皆の絆がある限り、私達は絶対・・・」

スバル& amp・ギンガ「諦めない！」

ドウコク「フツ。面白れえじゃねえか。お前等は死んで貰うぜ！」

フラワー「くっ！」

フラワーはブレドランに苦戦していた。

ブレドラン「どうした？デューンを倒したお前の力はその程度か？」

フラワー「くっ！」

ブレドラン「おらばだ。ムン！」

そこに

ブロッサム「ブロッサム・・・シャワー！」

ブレドラン「くっ！」

ブロッサム「キュアフラワー！」

フラワー「ブロッサム、どうして？」

ブロッサム「貴方を助けに来たのです。私は貴方の孫ですから。」

フラワー「つぼみ。」

ブレドランは剣を持った。

ブレドラン「死ねー！」

ブレドランは二人に近付く。そして・・・

グシッ！

刺さった。刺さったのは・・・

フラワー「ん？何にもない。あ！」

フラワーは上を見ると、ブロッサムの胸に剣が貫いた。

ブロッサム「あ・・・あ。」

ブロッサムは倒れた。

シプレ「ブロッサム！」

フラワー「つぼみ、大丈夫！？」

ブロッサム「おばあ・・・ちゃん。大丈夫・・・夫で・・・すか？」

フラワー「私は大丈夫よ。どうして？」

ブロッサム「おばあ・・・ちゃんが死ん・・・だら、私は・・・嫌  
だったんです。」

フラワー「私を？でもつぼみはまだ若いのよ！死んじゃ駄目！」

ブロッサム「まだ・・・私は若いけど・・・もう私は・・・死ぬん  
です。」

シプレ「つぼみ、何を言ってるですう！？？」

フラワー「死んじゃ駄目よ！つぼみ！」

ブロッサム「おばあ・・・ちゃん。私をプリキュアにしてくれて・・・  
・ありが・・・と。」

ブロッサムはその言葉で言い残し、ゆっくりと目を閉じる。

シプレ「ブロッサム！」

フラワー「つぼみ、つぼみ？嘘だと言ってよつぼみ。つぼみー！」

キュアブロッサム、死す（後書き）

ブロッサムは死んだ。果たして、ミッドチルダの運命は！？

闇のプリキュア登場！（前書き）

闇のプリキュア登場です。

## 闇のプリキユア登場！

ムーンライト「くっ！」

膜イン「どうしたのかね？もう終わり？」

ムーンライト「まだだわ！集まれ、花のパワー！ムーンタクト！」

膜イン「ほう。それで我輩に勝てるとても？」

ムーンライト「フツ。やってみなきゃ分からないよ？」

膜イン「おもしろい。」

膜インはスライムになりながら、ムーンライトに突撃する。

ムーンライト「・・・」

ムーンライトは目を閉じた。そして・・・

ムーンライト「そこ！」

ムーンライトが後ろにいたのは・・・

膜イン「うわあー！」

膜インだった。

膜イン「何故我輩が後ろにいたのと分かった!？」

ムーンライト「甘かったようね。私には分かるのよ。目でね！」

膜イン「何!?!」

ムーンライト「プリキュア、シルバーフォルテウェイブ！」

ムーンライトの必殺技、『シルバーフォルテウェイブ』が、膜インに直撃する。

ムーンライト「ハアアアアアアア……」

膜イン「バカな。我輩が負けるとは嘘だー！」

ドーン!

膜インは爆発した。

ムーンライト「ブロッサム、今行くから！」

ムーンライトはブロッサムのいる所へ向かった。



マリン「ブロッサムの方に行こう！」

サンシャイン「分かった！」

コフレ「二人はこの子を頼みますっ！」

エリオ「はい！」

キャロ「気を付けて下さい！」

ポプリ「はいでしゅ！」

サンシャイン「ブロッサム、待ってて！」

マリン「あたし達は今すぐ行くから！」

二人はブロッサムの方に向かった。

スバル「強い。」

ギンガ「スバル、諦めちゃ駄目！」

スバル「大丈夫だよギン姉。私達は諦めないから！」

ドウコク「諦める。全ての世界らもう終わりだ。」

スバル「まだ終わりじゃない！」

ギンガ「絶対に・・・終わらせない！」

ドウコク「諦めの悪い奴だな。だが、ここで終わりだ！」

ドウコクは二人に止めを刺そうとしたその時！

ドウコク「ぐっ！ぐあー！」

何かの光弾でドウコクは吹っ飛ぶ。

ギンガ「何！？」

スバル（今の光弾ってまさか！）

二人は後ろを見ると、そこには、四年前スバルを助けた彼女が現れた。

スバル「貴方は！」

ギンガ「知ってるのスバル？」

スバル「うん。四年前の空港事件で、私を助けた人だよ。」

ドウコク「ぐっ、てめえ。」

「????」

彼女は両目を閉じ、そして目を開くと……

ドン!

ドウコク「ぐわあー!」

衝撃波でドウコクを吹っ飛んだ。

ギンガ「凄い。」

彼女の手には、つばみ達が持つタクトとは違った。

「????」闇の力を集え、ダークタクト!

ドウコク「おのれー!」

ドウコクは彼女に突進する。

スバル「逃げて!」

「????」『ダークフォルテウェイブ。』

彼女の必殺技、『ダークフォルテウェイブ』で、ドウコクに直撃する。

ドウコク「ぐおっ!」

「????「ダークパワーフォルテツシモ！」

彼女の必殺技、『ダークパワーフォルテツシモ』が、ドウコクに直撃する。

ドウコク「ぐわあー！」

ドーン！

ドウコクは爆発した。

ギンガ「あの怪物を倒すなんて……」

彼女はこの場を去ろうとする。

スバル「待って！貴方の名前が聞いてないです。私はスバル・ナカジマ。貴方は？」

「????「ダーク……プリキュア。」

彼女の名はダークプリキュア。サバークに作られた存在である。

スバル「ダークプリキュア。」

ダークプリキュア「スバル・ナカジマ。姉さんを頼む。」

ダークプリキュアは消えた。

ギンガ「姉さんって？」

スバル「・・・」

ブロッサム「ん？此処は？」

ブロッサムが目が覚め、気付くとそこは・・・

ブロッサム「何これ？」

キュアブロッサムは地獄の世界に降り立つ。

**闇のプリキュア登場！（後書き）**

次回はキュアブロッサムの話です。

キュアフロツサム、地獄の世界へ……(前書き)

派手に行くぜ!

キュアブロッサム、地獄の世界へ・・・

ブロッサム「此処は・・・そっか。私、死んだんだ。」

ブロッサムはフラワーにブレドランの攻撃をしようとしたが、ブロッサムはフラワーを庇ったのだ。

ブロッサム（私はもう・・・）

その時・・・

ブロッサム「ハッ！」

何かの攻撃がブロッサムに直撃しようとしたが、ブロッサムは避けた。

ブロッサム「誰ですか!？」

????「ハハハハハ！」

ブロッサムの後ろには、宇宙人がいた。

ブロッサム「貴方一体？」

????「私の名は、アーマードメフィラス。」

メフィラス。ウルトラマンの勝負を挑んできた宇宙人である。

アーマードメフィラス「キュアブロッサム。此処は貴方の墓場にな



るのです。」

ブロッサム「墓場？」

????「つまりお前を殺すことだ！」

ブロッサム「うわあー！」

ブロッサムの後ろには別の宇宙人がおり、ブロッサムを攻撃した。

ブロッサム「今度は一体？」

????「俺様はアーマードグローザム！」

グローザム。ウルトラマンメビウスに挑んできた宇宙人である。

アーマードグローザム「キュアブロッサム。お前には死んで貰う！」

ブロッサム「え！？私はもう死んでるんです！此処で死ぬわけ・・・

」

アーマードメフィラス「お前はもう死んでいるが、もう一回死ねば、お前の魂は消えるのだ。」

ブロッサム「何ですって!？」

????「へへへ、分かったのなら死ぬのだ！」

????「やあー！」

ブロッサム「うわあー！」

ブロッサムの後ろから二人の宇宙人が現れ、ブロッサムに攻撃した。

ブロッサム「誰ですか!？」

????「俺はデスレムだ！」

デスレム。メビウスを苦しめた卑怯な宇宙人だ。

????「私はメビウスキラーだ！」

メビウスキラー。ヤプールが作った宇宙人。初期はエースキラーだったが、ヤプールに改造し、メビウスキラーとなった。

ブロッサム「貴方達が此処にいるってことは死んでるってことですか!？」

アーマードメフィラス「その通り。」

アーマードグロウザム「俺達はウルトラマンという光の巨人にやられた。」

デスレム「俺達はウルトラマンが憎いのだ！」

ブロッサム「ウルトラマン?」

メビウスキラー「お喋りは終しまいだ。早速お前を死んで貰う！」

ブロッサム「そうはさせません！」

フラワー「つぼみ。」

ブレドラン「残念だったなキュアフラワー。やはりこいつは弱い。お前の負けだ。」

フラワー「弱い？つぼみが？」

ブレドラン「そうだ。こいつは史上最弱の・・・」

フラワー「つぼみは史上最弱のプリキュアじゃないわ！」

ブレドラン「何？」

フラワー「つぼみは弱くない！えりかちゃんやいつきちゃんやゆりちゃんと会えたおかげでつぼみは強くなった！弱いのは貴方の方よ、ブレドラン！」

ブレドラン「何をほざけたことを言ってる？こいつはもう死んだんだ。」

フラワー「死んでない！つぼみは死んでないわ！」

シプレ「シプレには分かるですう！ブロッサムは絶対に帰って来て  
って言ったですう！」

ブレドラン「言っても分からないのか？仕方ない。お前を消して貰  
うぞ。」

フラワー「ブレドラン、貴方は私が倒すわ！」

## 地獄の世界

ブロッサム「ブロッサム・・・シャワー！」

メビウスキラ「メビュームシユート！」

ブロッサムの攻撃をメビウスキラがメビュームシユートを放ち、  
ブロッサムの攻撃を防ぐ。

ブロッサム「そんな！」

デスレム「余所見をするな！てあ！」

ブロッサムの下から、デスレムの光弾が現れ、ブロッサムに直撃する。

ブロッサム「くっ!」

アーマードグロージャー「おら!」

ブロッサム「うっ!」

アーマードメフィラス「ハアッ!」

ブロッサム「キャア!」

ブロッサムは三人の攻撃を防きれず、直撃してしまつ。

ブロッサム「うっ、強い。」

アーマードメフィラス「止めです。さようなら。」

ブロッサムはやられようとしたその時!

ドン!

アーマードメフィラス「ぐおっ!だ、誰だ!？」

ブロッサム「ん?」

ブロッサムは後ろに振り向くと、そこには三人の男性と二人の女性が現れた。

アーマードグローザム「てめえ等なにもんだ!？」

????「さあな。それと、俺達に関係あるのは、ピンク野郎だ。」

ブロッサム「え?」

デスレム「何だと?お前等も死にたくなかったら消える。」

????「うっさいバカ!」

メビウスキラ「バ、バカ!？」

????「消えるのはお前だ。」

????「卑怯な貴方達にはそんなこと言つ資格はありません。」

????「僕も、お前等みたいなのは大つ嫌いだ!」

アーマードメフィラス「何だと!？貴様等は私達に齒向かう気か!？」

????「そうだ。気に入らねえもんはぶつ潰す。」

五人はキーみたいな物を出した。

????「それが海賊つてもんだろ?」

五人は携帯みたいな物を出した。

????「豪快チェンジ!」

キーを携帯にさし、そして・・・

ゴークイジャー！

変身した。

????「ゴークイレッド。」

????「ゴークイブルー。」

????「ゴークイイエロー。」

????「ゴークイグリーン。」

????「ゴークイピンク。」

ゴークイレッド「海賊戦隊・・・」

ゴークイジャー「ゴークイジャー！」

ブロッサム「ゴークイジャー？」

ゴークイレッド「派手に行くぜ！」

アーマードメフィラス「小賢しい、やれ！」

キュアフロツサム、地獄の世界へ・・・（後書き）

言っておきますがゴーカイジャーは死んでません。死んでない理由は次回で。



## 海賊VS四天王

地獄の世界

ゴークイブルーVSアーマードグロウザム

ゴークイブルー「ふっ！」

アーマードグロウザム「ぐっ！てあ！」

ゴークイブルーは二つのゴークイサーベルを使い、アーマードグロウザムと対決していた。

アーマードグロウザム「お前、なかなかやるじゃないか。」

ゴークイブルー「そっちこそ。」

アーマードグロウザム「フッフ、だが終わりだ！」

グロウザムは冷凍ガスを吐き出した。

ゴークイブルー「フツ、甘いな。」

ゴークイブルーはレンジャーキーを出した。

ゴークイブルー「マーベラス、少し借りるぞ。豪快チェンジ！」

シンケンジャー！

ゴークイブルーからシンケンレッドに変身した。

アーマードグロウザム「何!?!」

シンケンレッド「シンケンマル、火炎の舞!」

火炎の舞で冷凍ガスの攻撃を阻止する。

アーマードグロウザム「バカな!」

シンケンレッド「残念だったな。」

シンケンレッドは次のレンジャーキーを出した。

シンケンレッド「豪快チェンジ!」

デューカレンジャー!

シンケンレッドからデカブルーに変身した。

デカブルー「デイスナイパー!ターゲットロック!」

アーマードグロウザム「な!」

デカブルー「ストライクアウト!」

デカブルーの必殺技、『ストライクアウト』が、アーマードグロウザムに直撃する。

アーマードグローザム「ぐあああああああ！」

ドーン！

デカブルーからゴークイブルーに戻る。

ゴークイブルー「フッ。」

ゴークイグリーンVSデスレム

デスレム「喰らえ！」

ゴークイグリーン「ハッ！」

ゴークイグリーンは二つのゴークイガンを使い、デスレムの攻撃を阻止する。

デスレム「隙があつたな！」

ゴークイグリーンの下に、デスレムの光弾が、ゴークイグリーンに直撃する。

ゴーカイグリーン「うわ！」

デスレム「へへへ。我が輩を倒すなんて10万年早いわ！」

ゴーカイグリーン「それはどうかな？」

ゴーカイグリーンはレンジャーキーを出した。

ゴーカイグリーン「豪快チェンジ！」

ゴーオンジャー！

ゴーカイグリーンからゴーオングリーンに変身した。

デスレム「何だと!？」

ゴーオングリーン「やあー！ブリッジアクセス！」

ゴーオングリーンは高く飛び、デスレムを攻撃した。

デスレム「ぐわあー！」

ゴーオングリーン「次はこれだ！豪快チェンジ！」

ダ〜イレンジャー！

ゴーオングリーンからシシレンジャーに変身した。

シシレンジャー「気力ボンバー！」

デスレム「ぐっ！があああああ！」

ドーン！

シシレンジャーからゴーカイグリーンに戻る。

ゴーカイグリーン「ど〜んなもんだい！」

ゴーカイイエロー& amp・ゴーカイピンクVSメビウスキラ

ゴーカイイエロー「ハッ！」

ゴーカイピンク「はいっ！」

ゴーカイイエローは二つのゴーカイサーベルとゴーカイピンクは二つのゴーカイガンでメビウスキラに立ち向かう。

メビウスキラ「メビュームスラッシュ！」

二人はメビウスキラの攻撃を避ける。

ゴーカイイエロー「アィム、行くよ！」

ゴーカイピンク「はい！」

二人はレンジャーキーを出した。

ゴーカイイエロー & amp・ゴーカイピンク「豪快チエンジ！」

ギンガマン！

ゴーカイイエローはギンガイエローに、ゴーカイピンクはギンガピンクに変身した。

メビウスキラ「変わったと!?」

ギンガイエロー「星獣剣！」

二人は星獣剣を出した。

ギンガイエロー「ハアッ！」

ギンガピンク「はい！」

メビウスキラ「ぐっ！メビュームバースト！」

ギンガイエロー「フフツ。」

二人はレンジャーキーを出した。

ギンガイエロー & amp・ギンガピンク「豪快チエンジ！」

マジレンジャー！

ギンガイエローからマジエローに、ギンガピンクからマジピンクに変身した。

マジエロー& amp; マジピンク、「ジンガ・マジカ！」

二人はバリアみたいのようにメビウムバーストを防いだ。

メビウスキラ「何！？」

マジピンク「ピンクストーム！」

メビウスキラ「ぐお！ぐおわあああ！」

マジエロー「これで最後よ！イエローサンダー！」

メビウスキラ「ギャアアアア！」

ドーン！

マジエローからゴークাইエローに、マジピンクからゴークাইピンクに戻る。

ゴークাইエロー「楽勝だね。」

ゴークাইピンク「はい。」

ゴークイレッドVSアーマードメフィラス

ゴークイレッド「おりゃー！」

アーマードメフィラス「くっ！ハッ！」

ゴークイレッドはゴークイサーベルとゴークイガンでアーマードメフィラスに立ち向かう。

ゴークイレッド「結構やるじゃねえか。」

アーマードメフィラス「何だこの力は？貴様、死んでないのか！？」

ゴークイレッド「当たり前だ！俺が死ぬわけないだろ。」

アーマードメフィラス「死んでないなら、何でこの地獄の世界に！？」

ゴークイレッド「さあな。知りたきゃ俺を倒してみろ！」

ゴークイレッドはレンジャーキーを出した。

ゴークイレッド「豪快チェンジ！」



ゲ〜キレンジャー！

ゴークイレッドからゲキレッドに変身した。

ゲキレッド「激技、砲弾！」

タイガーみたいなものが出て、そしてアーマードメフィラスに直撃。

アーマードメフィラス「ぐあっ！」

ゲキレッド「止めはこれだ！豪快チェンジ！」

ゴ〜セイジャー！

ゲキレッドからゴセイレッドに変身した。

ゴセイレッド「スカイクソード！ハア〜！」

ゴセイレッドは飛んだ。そして・・・

ゴセイレッド「レッドブレイク！」

アーマードメフィラス「ぐあああああ！」

ドーン！

ゴセイレッドからゴークイレッドに戻る。

ゴークイレッド「へっ。」

ブロッサム「凄い。」

アーマードグロウザム「フハハハハ！」

するとアーマードグロウザムの顔が動いた。

ゴークイレッド「あ？」

アーマードグロウザム「覚えておけ、アーマードグロウザム様は、不死身なのだー！」

ブロッサム「そんな！不死身なんて!?!」

アーマードグロウザム「お前達を凍らせてやる！」

ゴークイブルー「だから何だ？」

アーマードグロウザム「ん？」

ゴークイエロー「不死身なんてただの調子者じゃん。」

ゴークイグリーン「相手が復活する前に……」

ゴークイピンク「早めに倒した方が優先ですね。」

ゴークイジャーは二つのレンジャーキーを出す。

アーマードグロウザム「何をする気だ!?!」

ゴークイレッド「こつこついう事だ!」

ゴークサイサーベルとゴークカイガンを二つのレンジャーキーをさし、  
そして……

フア〜イナルウェイ〜ブ！

ゴークカイジャー「ハアアアアアア……」

必殺技を発動する。

ゴークカイグリーン & amp; ゴークカイピンク「ハッ！（はい！）」  
「

最初はゴークカイグリーンとゴークカイピンクの二つのゴークカイガンで、  
アーマードグロウザムの両足を破壊する。

ゴークカイブルー「フッ！」

ゴークカイエロー「ハアッ！」

次にゴークカイブルーとゴークカイエローが二つのサーベルで、ア  
ーマードグロウザムの腕と体を破壊する。

アーマードグロウザム「なっ！」

最後にゴークカイレッドがゴークカイガンで撃ってから次は……

ゴークカイレッド「ハアッ！」

ゴークカイサーベルでビームを放ち、ゴークカイガンで撃った弾を合体

し、そしてアーマードグロウザムの顔に直撃する。

アーマードグロウザム「ぐあっ！バカな。この俺様が・・・この俺様がー！」

ドカーン！

アーマードグロウザムは爆発する。

ブロッサム「あの人達は一体？」

ゴークイジャーは変身を解けた。

「???」お前がキュアブロッサムか？」

ブロッサム「は、はい。あの、助けに来てくれてありがとうございます。」

「???」何言ってるんだ？あんた。」

ブロッサム「え？」

「???」あたし達は別に此処に来たわけじゃないからね。」

ブロッサム「じゃあどうして？」

「???」頼まれたんだよ。」

ブロッサム「頼まれたって誰に？」

???「キュアアンジェさんに。」

ブロッサム「キュアアンジェに!?!」

???「ああ。俺はマーベラスだ。」

???「俺はジョー。」

???「あたしはルカ。」

???「僕はハカセ。」

???「私はアイムです。」

ブロッサム「それと死んでないって……」

マーベラス「ああ。それはな……」

マーベラス達が地獄の世界に行く前の時間に戻る。

ルカ「大いなる力はこれで14個か。」

ハカセ「でもザンギャックはいつ襲って来るか分からないからね。」

ジョー「ああ。」

マーベラス「飯だ。」

アイム「もう、マーベラスさんったら。」

その時、何かが光り出した。

ハカセ「何!？」

キュアアンジエが現れた。

アイム「貴方は？」

アンジエ「私はキュアアンジエ。」

ルカ「キュアアンジエ？」

マーベラス「何の用だ？」

アンジエ「お前達に地獄の世界に行ってくれないか？」

ジョー「断る。死ぬような世界であるのなら俺達は行く気はない。」

マーベラス「いや、おもしれえじゃねえか。地獄の世界にお宝があるかもしれねえな。地獄の世界に行かせる。」

アイム「私も行きます。」

ルカ「あたしも。」

ハカセ「僕も行く。」

ジヨ「仕方ない。俺も行くか。」

アンジエ「頼むぞ。ゴーカイジャー。」

ゴーカイガレオンは地獄の世界へ・・・

凱「あれ？ゴーカイガレオンがない。」

元の時間

マーベラス「というわけだ。」

ブロッサム「そうですか。」

ルカ「んで、あんた死んでんの？」

ブロッサム「はい。」

ハカセ「どうして死んだの？」

ブロッサム「大切な人を守りたかったら私は死んだんです。」

アトム「大切な人？」

ブロッサム「はい。」

ルカ「大切な人か。」

マーベラス「来い。俺が案内してやる。」

ブロッサム「え？」

マーベラス「返事は？」

ブロッサム「はい！」

ブロッサムはゴーカイジャーの戦艦、ゴーカイガレオンに住むこととなった。



海賊VS四天王(後書き)

次回はフェイトが大活躍します！

空へと響る雷の花！（前書き）

今回フェイトがプリキュアに変身します！

空へと曇る雷の花！

地獄の世界では・・・

ブロッサム「あ。」

マーベラス「ん、どうした？」

ブロッサム「いえ、何でもありません。（今思ったけど何で変身が解けないんだろう？）」

ブロッサムは変身が解けないことに気付いた。

ブロッサム（まさか、私が死んだから。）

????「ああー！感じちゃった、感じちゃった！」

その時、鳥みたいなロボットが急に喋り出した。

ルカ「どうしたのナビィ？」

この鳥のことナビィという。

ナビィ「ワームホールだよ！ワームホール！」

アイム「ワームホール？」

ジョー「ハカセ。」

ハカセ「うん。」

ハカセは映像を出した。

ハカセ「何あれ？」

その映像はワームホールが映していた。

ナビィ「このワームホールは死んだ人が生き返ることが出来るぞよ。」

ルカ「じゃあブロッサムをそのワームホールを連れて行けば……」

アイム「甦ることが出来るのですね。」

ナビィ「そうだよ！でも……」

ブロッサム「でも？」

ナビィ「ワームホールには制限時間がある。制限時間は1時間、ワームホールに早く入らなければワームホールが閉じてしまうぞよ。」

全員は驚いた。

ジョー「どうする？」

マーベラス「決まってんだろ。行くしかねえ。」

ブロッサム「私は生きたい。生きて、自分の世界に帰ってみせる！」

マーベラス「フツ。ワームホールへ、派手に行くぜ！」

ゆりかご内

フェイト「くっっ！」

フェイトはスカリエッツィとサイクロンドーパントに苦戦していた。スカリエッツィ「どうしたのかね？フェイト・テストロッサ。パワーアップしてもそんな力なのかね？」

フェイト（ソニックフォームになっても敵わないなんて。）

スカリエッツィ「一応忘れておったが、私は・・・NEVERだ。」

スカリエッツィの手にはUのついたガイアメモリだった。

ユートピア！

フェイト「！」

スカリエッツィはメモリをドライバーにさすと、フェイトの体が浮

き始めた。

ドン！

フェイト「うわあー！」

衝撃波でフェイトは吹っ飛び、スカリエッティは怪物に変身した。その怪物は・・・『ユートピアドーパント』である。

ユートピア「フッフ。」

フェイト「ハアアアアア！」

フェイトはユートピアに攻撃をするが、ユートピアは片手でフェイトの攻撃を止める。

フェイト「なっ!?!」

ユートピア「甘かったね、フン！」

フェイト「くっ!」

フェイトのバリアジャケット、ソニックから普通のフォームに戻る。

フェイト「これは!?!」

ユートピア「君のパワーを吸収したのさ。君のパワーを吸収すれば、君は普通に戻る。そういうシステムさ。」

フェイト「くっ!」

サイクロン「ハッ！」

フェイト「うわあー！」

フェイトのバリアジャケットは強制解除してしまった。

ユートピア「終わりだね。」

フェイト「……」

サイクロン「さよなら。ハッ！」

フェイト（お母さん。お姉さん。なのは、はやて、皆、ごめん！）

フェイトはやられると思っていたがその時！

ピカー！

フェイト「！」

フェイトの体が光り出した。サイクロンの攻撃は消えた。

ユートピア「何！？」

サイクロン「この光は……」

????「フェイト。フェイト。」

フェイト（誰？）

????「フェイト、目を開けなさい。」

フェイトは目を開けると・・・

フェイト「お母さん！」

そこには何と、フェイトの母親、プレシア・テストロッサだった！

プレシア「何とか間に合ったね。」

フェイト「お母さん、会いたかった！」

プレシア「フェイト、私もよ。」

フェイト「それよりもお母さん！スカリエッティ、強くなってるよ！  
！どうしたらスカリエッティに・・・」

プレシア「スカリエッティを倒す方法があるわ。」

フェイト「それって何！？」



プレシア「フェイト、プリキュアになりなさい。」

フェイト「え！？私がプリキュアに……でも無理だよ。つぼみ達よりもそんなに強くない。母さん、私には……」

プレシア「フェイト、高町なのはの言葉を忘れたの？」

フェイト「!」

プレシア「高町なのはは無茶しても、彼女はどんな時でも諦めない。そのことを忘れたの？」

フェイト「忘れてないよ、母さん。」

プレシア「……」

フェイト「私、プリキュアになりたい！なのはやエリオやキャロ、つぼみ達を守りたい！お願い母さん！私を……プリキュアにして!」

プレシア「フェイトならそういうと思っていたわ。フェイト、これを。」

プレシアの手には、つぼみ達とは少し違うココロパフュームではなく、ライトニングパフュームである。

フェイト「ありがとうございます、母さん。」

プレシア「行きなさい、フェイト。」

フェイト「はい！」

プレシア（フェイト、貴方は一人じゃないわ。高町なのはがいる限り、ずっと、ずっと！）

ゆりかご内

ユートピア「この光は一体!？」

すると光が消え始め、そこにはフェイトがいた。

サイクロン「貴方は・・・」

フェイト「勇気。愛。友情。悲しさ。優しさ。喜び。沢山の気持ち、私は戦う！皆の仲間のために！」

フェイトはライトニングパフュームを出し、その光はフェイトに包み込む。

フェイト「プリキュア！ライトニング・・・オープンマイハート！」

フェイトはこころの種を、ライトニングパフュームに入れる。フェ

イトはスプレーみたいな物をかけ、服、靴をフェイトの体につけた。髪金の髪から、オレンジに変わる。ライトニングパフュームをしまい、そして変身完了。

ユートピア「な、何!？」

サイクロン「あれは!？」

フェイト?「・・・」

サイクロン「ハッ!」

サイクロンはフェイト?を攻撃しようとするが・・・

バン!

フェイト?「・・・」

フェイト?は片手で止める。

サイクロン「何!？」

フェイト?「ハッ!」

サイクロン「ぐっ!」

サイクロンは吹っ飛ぶ。

フェイト?「メモリブレイク。」

サイクロン「うっ！がはっ！」

サイクロンは何故か知らずにいつの間にやら、メモリブレイクされてた。

ドカーン！

サイクロンは爆発し、そしてサイクロンからマリアに戻る。

マリア「そんな。強い。」

マリアはそう言いながら、塵となり、消滅した。

ユートピア「君はフェイト・テストアロツサ・・・じゃない。君は何者だ！」

フェイト？「私の名は・・・空へと曇る雷イカツチの花！キュアライトニング！」

フェイト？はキュアライトニングと名乗った。

ユートピア「キュア・・・ライトニングだと!？」

エリオとキャラは・・・

エリオ「凄い。」

キャラ「フェイトさんが、プリキュアに・・・」

ライティング「スカリエッティ、貴方だけは・・・私が倒す！」

ユートピア「うおおおおおおー！」

ライティングとユートピアは走り出した。

ライティング「フッ！」

ユートピア「ぐっー！」

ライティングの攻撃でユートピアは吹っ飛ばす。

ユートピア「そんなはずはない！私の力で吸収すれば、フェイト・テストロツサにも上回るはず・・・うおおおおおー！」

ユートピアはライトニングの力を吸収しようとするが・・・

ユートピア「力が収まらない！」

ライトニング「このプリキュアには、皆の思いがあるの。そんな力では吸収することは出来ないよ！」

ユートピア「ぐっ！これが、プリキュア。まだまだ、まだまだ！」

ユートピアは力を溜め、そして飛ぶ。

ライトニング「バルディッシュ。」

ライトニングの手にバルディッシュを取る。

ユートピア「うおおおおお！」

ライトニングはバルディッシュの力を溜める。

ライトニング「雷よ・・・誘え！プリキュア！ライトニングスマッシュシュ！」

二人の必殺技がぶつかり合った。そして、勝ったのは・・・

ライトニング「ハート・・・キャッチ！」

キュアライトニングであった。

ドーン！

ユートピア「バカな、この私が・・・」

そう言いながら、ユートピアからスカリエッティに戻る。

## 地獄の世界

ゴークイレッド「ワームホール、到着。」

ゴークイブルー「ブロッサム、あのワームホールさえ入れれば、お前は甦る。チャンスは一回だ。これが復活の鍵になることを・・・」

ブロッサム「はい。」

ゴークイイエロー「ん？何あれ？」

ゴークイガレオンに乗ったゴークイジャーはワームホールに到着したが、そこには三体のダークロプスがいた。

ダークロプス「ここは通さん。」

ダークロプスはゼロワイドショットを放つ。

ゴークイグリーン「うわっ！」

ゴークイジャーは何とか避ける。

ゴークイピンク「しつこい人は嫌いです。」

ゴークイレッド「付き合ってる暇はねえが、やるしかねえ。行くぜ！」

ゴークイジャー「海賊合体！」

ゴークイガレオンは変形し、残りのマシンはゴークイガレオンに合体する。そして……

ゴークイジャー「完成！ゴークイオー！」

ダークロプス「破壊する！」

ゴークイレッド「ちゃっちゃと倒して、ブロッサムを復活してやる！」

ブロッサム「……」



ゴークイオーとダークロプスの戦いは始まる。

## 空へと曇る雷の花！（後書き）

僕のオリジナルプリキュア、キュアライトニング登場！久し振りの更新で、フェイトを大活躍するために、フェイトをプリキュアにさせました！考えるのにホントに大変でした。

## エターナルの最後とキュアブロッサム、復活！

### 地獄の世界

ゴークイジャー「ハアッ！」

ゴークイオーは三体のダーククロスと相手をしていた。

ゴークイエロー「ねえ、あれ！」

ゴークイジャーはワームホールを見ると・・・

ゴークイブルー「ワームホールが！」

ゴークイグリーン「やばい、どうしようー！」

ゴークイレッド「焦んな。ブロッサム、ゴークイオーの手に乗れ。」

ブロッサム「え？」

ゴークイレッド「いいから乗れ。」

ブロッサム「はい！」

ブロッサムはゴークイオーの手に乗る。ダーククロスは警戒した。

ゴークイピンク「マーベラスさん、何をするのですか？」

ブロッサム『この状況をどうするのですかー！』

ゴークイレッド「いいか。俺を・・・信じるー！」

ゴークイオーは何とワームホールに向けてブロッサムを投げる。

ゴークイイエロー「嘘！？」

ゴークイグリーン「ええええええええええええ！？」

ブロッサム「ちよつとー！」

ブロッサムはワームホールの中に入った。

ゴークイレッド「成功だ。」

ゴークイピンク「マーベラスさん、酷すぎます！」

ゴークイレッド「何だよ？ワームホールに入ったからいいじゃんえかよ。」

ゴークイブルー「お前、女を投げる必要があるか？」

ゴークイレッド「そ、それは・・・」

ダークロプスはゼロスラッガーを投げる。

ゴークイイエロー「話は後よ！」

ゴークイブルー「ああ。」

「ゴーカイレッド」俺達も脱出するか。派手に行くぜ！」

ゆりかご内

ライティング「・・・」

ライティングはなのはのいる所へ向かっていた。

数分前

スカリエッティ「ぐっ！」

スカリエッティの体が消滅し始める。

ライティング「スカリエッティ！」

「スカリエッティ」もはや、このゆりかごは・・・もう止められない。  
」

ライティング「・・・」

スカリエッティ「もう世界は・・・終わりだ。」

ライトニング「終わらないよ。」

スカリエッティ「何？」

ライトニング「私達にはなのはや皆がいる。このゆりかごは、私達が止めて見せる。」

スカリエッティ「ふっ、諦めが悪いね。」

ライトニング「ええ。」

スカリエッティ「フェイト・テストロッサ。ゆりかごを止めるんだ。」

ライトニング「うん。」

スカリエッティ「頼む、私を・・・信じる。」

そう言いながらスカリエッティは塵となり、消滅した。

ライトニング「信じるよ。絶対に！」

元の時間

ライトニング（なのは。）

なのは「ぐっ！」

なのはエターナルに苦戦していた。

エターナル「フン。」

ヴィヴィオ「ママ！」

エターナル「ついに聖王が覚醒する時が来た。」

エターナルはゾーンメモリをヴィヴィオが座っているエクスピッカーをさす。

ゾーン！マキシマムドライブ！

するとエターナルから克己の姿に戻り、25本のメモリをエクスピッカーにさした。

アクセル！バード！サイクロン！ダミー！エターナル！ファンゲ！  
ジーン！ヒート！アイスエイジ！ジョーカー！キー！メタル！ナス  
カ！オーシャン！パペティアー！クイーン！ロケット！スカル！ト  
リガー！ユニコーン！ヴァイオレンス！ウェザー！エクストリーム  
！イエスタデイ！マキシマムドライブ！

ヴィヴィオ「キャアアアアア！」

なのは「ヴィヴィオ！」

克己「もうすぐで聖王は登場する。発射ボタンを押せば、こいつは聖王になるのだハハハハハハ！」

なのは「そう簡単に……があっ！」

克己はなのはを蹴る。

克己「邪魔をするな。お前とあいつは……血と繋がっていない。お前とあいつは他人だ。」

なのは「確かに他人だけど、違う！」

克己「何？」

なのは「私とヴィヴィオは血と繋がってはいない。でも、ヴィヴィオに会えたから私は嬉しかったの！ヴィヴィオ！ママを探すって約束だったけどごめんね！」

ヴィヴィオ「ママ。」

なのは「私はママになるように頑張るから！っっ！」

克己はなのはの服を掴む。

克己「お喋りはそこまでだ。死んで貰う。」

克己の手にはナイフがあり、なのはを向ける。



なのは（「ごめん、ヴィヴィオ。」）

ヴィヴィオ「ママー！」

なのははやられようとしたその時！

ドーン！

克己「何だ？」

マリ「マリンシュート！」

マリンシュートがエクスピッカーに向けて直撃し、全てのメモリが地面に置く。

コフレ「今ですっ！ポプリ！」

ポプリ「はいでしゅ！」

二人はヴィヴィオを助ける。

克己「貴様。」

なのは「皆。」

そこには、マリ、サンシャイン、ムーンライト、ライトニングがいた。

ライトニング「なのは、大丈夫？」

なのは「まさか、フェイトちゃん!？」

ヴィヴィオ「フェイトママ、それって……」

ライトニング「これは……」

克己「おのれ。」

克己の腰にロストドライバーをつける。

エターナル!

克己「変身。」

エターナル!

克己からエターナルに変身した。

サンシャイン「ホントはブロッサム所に行きたかったけど……」

ムーンライト「ヴィヴィオちゃんの方が助けたかったですよ?」

マリン「へへへ。」

エターナル「お前等全員吹っ飛ばしてやる!」

ゾーン!

エターナルはゾーンメモリを手に取り、マキシマムスロットをさす。

ゾーン！マキシマムドライブ！

エターナル「うおおおおおお！」

アクセル！バード！サイクロン！ダミー！エターナル！ファンゲ！  
ジーン！ヒート！アイスエイジ！ジョーカー！キー！ルナ！メタル  
！ナスカ！オーシャン！パペティアー！クイーン！ロケット！トリ  
ガー！ユニコーン！ヴァイオレンス！ウエザー！エクストリーム！  
イエスタデイ！マキシマムドライブ！

エターナル「フン。」

エターナル！マキシマムドライブ！

エターナル「全て・・・終わりだ！」

なのは「そうはさせない！」

なのははレイジングハートの出力を溜める。

なのは「全力、全開！スターライト・・・ブレイカー！」

二人の技が激突する。

エターナル「貴様等、何故人々を守ろうとする！」

なのは「皆、好きだから。」

エターナル「何？」

なのは「皆、好きだから私達は負けない。皆の思いがある限り、私達は・・・絶対に負けない！プラズマ・・・シユート！」

エターナルの必殺技が抑えておき、そして・・・

エターナル「ぐわ！これが、そうか。これが・・・」

なのは「そう。それが皆の絆だよ。大道克己。」

エターナル「そうか。皆の絆があるから、俺は負けたのか。久し振りに・・・死ぬか。」

ドカーン！

エターナルは爆発し、全てのメモリは破壊した。

なのは「皆、つぼみちゃんの所に急ごう！」

全員「うん！」

フラワー「がはっ！」

ブレドラン「どうした？その程度か？」

フラワー（つぼみ。）

ブレドラン「フツ、死ぬがいい。」

フラワー（つぼみ。）

フラワーはやられようとしたその時！

ドン！

フラワー「ん？」

ブレドラン「何だ!？」

二人は別のほうへ見ると、そこにはキュアブロッサムがいた。

ブロッサム「お待たせしました、おばあちゃん。」

フラワー「つぼみ。」

ブレドラン「バカな！貴様は死んだはずだ！」

ブロッサム「例え私が死んでも、いつかは甦ります！何度でも！」

ブレドラン「おのれ〜！」

ブロッサム「おばあちゃん、行きましょー！」

フラワー「うん！ブレドラン！貴方の好きなよつにはさせない！」

ブレドラン「貴様するなど、私が潰してやる！」

最後の戦いが・・・始まる。

エターナルの最後とキュアブロッサム、復活！（後書き）

今回はゴージャスVSダーククロスです。そしてオリジナルナンバーズは全員退場です。

## プリキュアVSソレドラン(前書き)

久し振りのスーパーシルエットです。



## プリキュアVSフレドラン

地獄の世界

ゴークイレッド「おりゃー!」

ダークロプス「ぐっ!」

ゴークイオーはダークロプスを追い詰める。

ゴークイレッド「止めだ!」

ゴークイジャーはレンジャーキーをセットする。

ゴークイジャー「ゴークイスターバースト!」

ダークロプス「ぐおー!」

ゴークイオーは一体目のダークロプスを破壊する。

ゴークイブルー「次はマジゴークイオーだ。」

ゴークイレッド「ああ。」

ゴークイジャー「レンジャーキー、セット!」

するとゴークイオーの体からドラゴンみたいなものが出て来た。

ゴークイジャー「完成!マジゴークイオー!」

「ダークロプス「何!？」」

「ゴーカイジャー「Let's GO! ゴーカイマジバインド!」」

ドラゴンが飛び出し、ドラゴンはダークロプスをバインドのようにかける。

「ダークロプス「ぐおー!」」

二体目のダークロプスを倒す。

「ゴーカイイエロー「最後はデカゴーカイオーよ!」」

「ゴーカイジャー「レンジャーキー、セット!」」

すると体がパトカーみたいなものが出て来た。

「ゴーカイジャー「完成! デカゴーカイオー!」」

「ダークロプス「ふん!」」

ダークロプスはゼロワイドショットを放つ。

「ゴーカイジャー「ハアッ!」」

デカゴーカイオーは避け、そして攻撃する。

「ダークロプス「うぐっ!」」

ゴークイレッド「止めだ！」

ゴークイジャー「Let's GO!ゴークイフルブラスト！」

デカゴークイオーはマシンガンみたいのように、ダークロプスに直撃する。

ダークロプス「があー！」

ゴークイオーは三体のダークロプスを倒す。

ゴークイレッド「脱出するぞ。」

ゴークイグリーン「でもまずいじゃん！もうすぐでワームホールが閉じるよー！」

ゴークイピンク「このままでは私達は、帰らぬ場所に・・・」

ゴークイレッド「俺にいい考えがある。」

ゴークイブルー「それは何だ？」

ゴークイレッド「それは・・・」

ゆりかご内

ブレドラン「てやー！」

フラワー「くっっ！」

ブレドランの後ろにブロッサムがいた。

ブロッサム「プリキュア！ピンクフォルテウェイブ！」

ブレドランはブロッサムの必殺技を止める。

ブレドラン「貴様等など私の敵ではない！てやー！」

ブレドランは攻撃しようとしたその時！

ドーン！

ブレドラン「ぐおっ！何！？」

二人は後ろに振り向くとそこにはマリン、サンシャイン、ムーンライト、ライトニング、なのはがいた。

ブロッサム「皆！」

マリン「ブロッサム、お待ちせ！」

サンシャイン「遅くなってごめんね。」

ブロッサム「いえ。ん？貴方は？」

ムーンライト「フェイトよ。」

ブロッサム「え、フェイトさん!？」

ライトニング「うん。今はキュアライトニングだけだね。」

シプレ「驚きですう。」

ブレドラン「貴様等、何故そこまで人間を守ろうとする!？」

ブロッサム「私達は諦めない！」

マリリン「例えあんたが強くても……」

サンシャイン「私達は皆の心を守るために戦う！」

ムーンライト「だから私達は何度でも立ち上がる！」

なのは「砂漠王のブレドラン！」

ライトニング「貴方を……倒す！」

ブレドラン「ほざけ！」

全員とブレドランは激突する。

ブロッサム「ハッ！」

ブレドラン「ぐっ!」

マリン& amp・サンシャイン「ハアッ!」

ムーンライト「ふっ!」

なのは「エクセリオン・・・バスター!」

ブレドラン「ぐおー!」

五人の攻撃の後にライトニングが必殺技の用意していた。

ライトニング「プリキュア!ライトニングスマッシュ!」

ブレドラン「ぐあー!」

ライトニング「今よ!」

ブロッサム「はい!」

ハートキャッチミラーージュを出し、パワーアップの種を入れる。

ブロッサム& amp・マリン& amp・サンシャイン& amp・ムーンライト「鏡よ鏡、プリキュアに力を!」

プリキュアの姿は変わった。

Sブロッサム& amp・SマリンSサンシャイン& amp・SMーンライト「世界に輝く一面の花!ハートキャッチプリキュア、

スーパーシルエツト!」「」「」

ブレドラン「何!?!」

ハートキャッチミラージュが光り始める。

Sブロッサム& amp・スマリン& amp・サンシャイン& amp  
p・SMーンライト」「」「花よ咲き誇れ!プリキュア!ハートキ  
ャッチオーケストラ!」「」「」

すると女性が現れ、ブレドランのいる所に向かう。

SMーンライト「ふっ!」

Sサンシャイン「ハアッ!」

Sマリリン「たあー!」

Sブロッサム「やあー!」

女性はブレドランに殴る。

ブレドラン「ぐおっ!おわあああああ!」

Sブロッサム「ハアッ!」

プリキュアVSソドラン(後書き)

次回は・・・苦戦



闇の天使復活！（前書き）

この小説っていつになったら終わるんだろう？

闇の天使復活！

プリキュアはハートキャッチミラーージュを出した。

ブロッサム&amp;p・マリン&amp;p・サンシャイン&amp;p・ムーンライト「「「鏡よ鏡、プリキュアに力を！」「」」

プリキュアの姿は変わった。

Sブロッサム&amp;p・スマリン&amp;p・サンシャイン&amp;p・スマーンライト「「「世界に輝く一面の花！ハートキャッチプリキュア！スーパーシルエット！」「」」

ハートキャッチミラーージュは光る。

Sブロッサム&amp;p・スマリン&amp;p・サンシャイン&amp;p・スマーンライト「「「花よ咲き誇れ！プリキュア！ハートキャッチオーケストラ！」「」」

女性が現れ、ブレドランに突撃する。

Sムーンライト「ふっ！」

Sサンシャイン「ハアッ！」

Sマリン「たあー！」

Sブロッサム「やあー！」

女性はブレドランにパンチをする。

ブレドラン「ぐおおっ！うおあああああ！」

ドン！Sブロッサム&amp;Sマリオン&amp;Sサンシャイ  
ン&amp;Sムーンスライト「ハアアアアアアアアアア・・・」  
「」

プリキュアはブレドランを浄化する。

なのは「やったー！」

ヴィヴィオ「ママ！お姉ちゃん！やったね！」

ライトニング「うん。終わったよ。」

フラワー「皆、脱出よ！」

全員「はい！」

全員はハートキャッチミラーージュを使い、ゆりかごに脱出した。

外では・・・

アギト「ん？シグナム、あれ！」

シグナム「ん？」

シグナムとアギトはユニゾンし、多数のガジェットを相手をしていった。二人は光っていた所を見ると・・・

シグナム「帰って来たか。」

アギト「あれって・・・」

なのは達はゆりかごに脱出した。

シグナム「高町！」

なのは「貴方ってシグナムさん？」

Sブロッサム「何ですかその姿!？」

シグナム「ユニゾンしたのさ。」

アギト「よお。」

Sマリン「あ、あなたは！」

アギト「前より変な格好してるじゃねえかよ。」

Sマリン「うるさい!」

シグナム「んで、そいつは？」

ライトニング「シグナム、私のこと忘れたの？」

シグナム「お前、テストロッサなのか!？」

ライトニング「うん。今はキュアライトニングだけど。」

シグナム「そうか。」

ヴィータ「おーい!」

そこにヴィータ達がやって来た。

Sプロツサム「ヴィータ!」

ヴィータ「終わったんだな。」

Sムーンライト「ええ。」

スバル達は驚いた。フェイトがプリキュアとシグナムとアギトがユニゾンしてることに・・・

Sマリン「あれ?」

Sマリンは誰かいないことに気付く。

キャロ「どうしたのですか?」

Sマリン「智春さんは？」

Sサンシャイン「そういえば操緒さんがいない。」

ティアナ「音也さんも。」

そこにコッペがやって来た。

エリオ「コッペさん。」

コッペは皆に話そうとしていた。

シプレ「コッペ様は『クロガネは次の旅に出た。』と言ってるですう。」

コフレ「『ダークキバはあの世に戻った。』と言ったのですっ。」

シャマル「あの三人、帰ったの？」

Sマリンは転ぶ。

Sマリン「嘘。智春さん、どうしてあたし達に何も言わずに……」

Sブロッサム「マリン。」

ポプリ「クロガネは『いちゆき達によろしく！』と言ったでしゅ。」

Sサンシャイン「私達に……」

Sマリン「あたし、智春さんのこと、大好きだった。『僕はえりか

さんのことは守る。』って約束したじゃない。何で……」

シャマル「えりかちゃん。」

Sマリ「シャマル。」

シャマル「泣いてもいいよ。悔しい時は泣いた方が一番よ。」

Sマリ「シャマル。あたし……うわあああああ！」

ギンガ「ん？皆、あれ！」

全員はギンガの指を指した方向を見ると……

ブレドラン？「フフフ。」

フラワー「ブレドラン！」

Sブロッサム「そんな！何で!？」

ブレドラン？「少しは違うな。私の本当の姿は……」

煙りがなくなるとブレドランとは少し違う姿だった。

ブラジラ「救世主のブラジラ！」

Sムーンライト「救世主の……」

ライトニング「ブラジラ！」

ヴィヴィオ「あれがブレドランの、本当の姿。」

ブラジラ「ご苦労だったな。」

なのは「それってどういうこと!?!」

ブラジラ「こういうことだ。」

ブラジラはゆりかごを破壊した。

ブラジラ「使い物にはならないということだ。」

シグナム「貴様!」

アギト「てめえ! あたし達と旦那を利用したのか!?!」

ブラジラ「その通りだ。」

Sマリン「許せない。絶対に許せない!」

ブラジラ「もはや私を止めることは出来ぬ! ビービ!」

するとブラジラの周りから虫みたいのような物がブラジラにとりつき、ブラジラは巨大化した。

フラワー「巨大化したの!?!」

スバル「嘘!?!」

ブラジラ「フッフ。この星は私の物だ!」



するとブラジラの後ろから羽みたいのような物が出てきた。

ブラジラ「フン！」

ブラジラは衝撃波を放つ。

全員「キヤアアアアアアアア！」

闇の天使復活！（後書き）

次回は、宇宙に咲く大輪の花！

反撃！

ブラジラ「フハハハハ！終わりだ！」

ブラジラが止めをさそうとしたその時！

ブラジラ「ぐおっ！何者だ!?!」

キャロ「皆さん、あれ！」

全員は上を見ると・・・

Sブロッサム「あれってまさか！」

地表に降りたのは、ライオン？の上に乗ったゴーカイオーだ。

ゴーカイレッド「ゴーカイ・・・アニマルハート！」

ブラジラ「ぐー！むん！」

ブラジラはゴーカイオーの必殺技を避ける。

ゴーカイオー内部

ゴーカイブルー「ムチャクチャだったな。」

ゴーカイレッド「うるせえ！」

ゴーカイイエロー「疲れた〜。」

ゴーカイグリーン「あ、ブロッサム！」

ゴーカイピンク「ブロッサムさん、元気ですか？」

Sブロッサム『皆さん！』

Sマリン『ブロッサム、知り合いなの？』

Sブロッサム『まあちょっとしたお知り合いです。皆さん、どうして地獄の世界に脱出したのですか？』

全員『地獄の世界！？』

Sサンシャイン『それってどういふこと？』

Sブロッサム『あ、それは・・・』

ゴーカイレッド「地獄の世界に脱出したことを説明するぜ。」

数分前

ゴーカイレッド「ガオゴーカイオーで行くぜ。」

ゴーカイイエロー「ガオゴーカイオーで！？』

ゴーカイグリーン「それって何の意味があるの！？』

ゴーカイレッド「いいから、行くぞ。」

ゴーカイジャー「レンジャーキー、セット！」

ガッオ！

すると漢字が出て来た。

ガッオライオン！

空からガオライオンが出て来た。

ゴーカイジャー「完成！ガオゴーカイオー！」

ガオライオンとゴーカイオーは合体した。

ゴーカイイエロー「これで何をしようとするの？まさかゴーカイアニマルハートでワームホールを・・・あれ？それってもしかして！」

ゴーカイレッド「そういうことだ。」

ゴーカイブルー「そうか。アニマルハートでワームホールを広くするということだったのか！」

ゴーカイグリーン「でも成功出来るの？」

ゴーカイレッド「俺を信じろ。」

ゴーカイピンク「はい。」

ゴーカイジャー「ゴーカイアニマルハート！」

ガオゴーカイオーはワームホールに向けて発射した。結果は・・・

ゴーカイピンク「成功です！」

ゴーカイグリーン「予想外だった。」

ゴーカイイエロー「これだったら、脱出出来るかも！」

ゴーカイブルー「ああ。ブロッサムを助けに・・・」

ゴーカイレッド「よし、地獄の世界に脱出だ！」

元の時間

ゴーカイレッド「というわけだ。」

Sブロッサム『そうだったのですか。』

ゴーカイレッド「ああ。」

そこにブラジラが立ち上がる。

ブラジラ「貴様ー！」

ゴーカイレッド「話は後だ。シンケンゴーカイオーで行くぜ！」

ゴーカイジャー「レンジャーキー、セット！」

ガオライオンの手と顔が外し、別々に合体した。顔は火、右腕は土、左腕は天、右足は木、左足は水で漢字がはっていた。

ゴーカイジャー「完成！シンケンゴーカイオー！」

ブラジラ「ふん。そんなので私に勝てるんでも思ってたのか！」

ゴーカイレッド「ヘッ。やってみなきゃ分かんないだろ。」

するとワームホールからドリルみたいな兵器が現れた。

アギト「な、何だありゃ!?!」

ゴーカイレッド「凱か!」

ゴーカイシルバー「ちよつと皆さん！俺だけ置いてくのはダメですよ！つたく〜・・・」

するとドリル兵器が恐竜みたいな兵器に変形した。

豪獣レックス！

ゴーカイシルバー「完成！豪獣レックス！」

豪獣レックス！

豪獣レックスからロボに変形した。

ゴーカイシルバー「完成！豪獣神！」

Sブロッサム「皆さん、今こそプリキュアの力を！」

SマリンSサンシャインSムーンライト」「うん!」「

ハートキャッチミラーージュが光り出す。

Sブロッサム&amp;p:Sマリン&amp;p:Sサンシャイン&amp;p:Sムーンライト」「宇宙に咲く大輪の花!」「

四人のプリキュアは合体し、そして巨大化した。

無限シルエット「ハートキャッチプリキュア、無限シルエット!」

なのは達&amp;p:ゴークイジャー「ええええええええ!?!」

なのは達は勿論驚く。

ゴークイエラー「嘘。」

ゴークイピンク「素敵です。」

ゴークイシルバー「超スゲー!」

ライトニング「これが、無限シルエット。」

ブラジラ「貴様等で私を……『ハアツ!』ぐふっ!人の話を最後まで聞け!」

無限シルエット「あ、ごめんなさい。」

なのは「謝ってどうすんの!?!」

ゴークイレッド「行くぞ!」



ゴーカイジャー「烈火大斬刀！」

シンケンゴーカイオーは烈火大斬刀を出した。

ゴーカイジャー「ゴーカイ侍斬り！」

ゴーカイシルバー「豪獣、トリプルドリルドリーム！」

ブラジラ「ぐあっ！」

無限シルエット「プリキュア！こぶしパンチ！」

ブラジラ「ぐっ！うおおおおお！」

無限シルエット「今です、なのはさん！ライトニング！」

なのは「OK！」

ライトニング「分かった！」

ブラジラ「何！？」

なのは「スターライト・・・」

ライトニング「ライトニング・・・」

なのは&amp;mp;ライトニング「ブレイカー！」

二人の必殺技でブラジラに直撃した。

ブラジラ「おのれー。この私が、こんな奴等にー！」

ブラジラは爆発した。

ヴィヴィオ「やったー！」

機動六課とプリキュアの戦いは、終わった。

反撃！（後書き）

次回、最終回！

それぞれの道(前書き)

ハトプリSTRIKERS、いよいよ完結！

## それぞれの道

ゆりかご事件から一ヶ月が経った。マーベラス達は自分達の世界に帰った。

つぼみ「皆さん、行っちゃうんですね。」

えりか「それにしてもこんなに綺麗な桜があったなんて超感激！」

いつき「えりかったら。」

ゆり「皆、お疲れ様。」

フォワードメンバー「ありがとうございます。」

フェイト「つぼみ。」

つぼみ「はい。」

フェイト「私、プリキュアとして、皆を守って頑張るからつぼみも頑張るってね。」

つぼみ「はい。」

なのは「皆、よく頑張ったね。」

フォワードメンバー「はい。」

スバル「ん？あ！」

エリオ「どうしたのですか？スバルさん。」

ティアナ「まさか忘れ物？」

スバル「違う！つぼみちゃん達を見て！」

なのは達はつぼみ達を見ると、つぼみ達の体が光り始めた。

フェイト「まさか皆！」

シプレ「お別れですう。」

ヴィータ「何だよ、せっかく会えたのに・・・」

コフレ「しょうがないですっ。コフレ達は別世界にやって来たですっ。」

シグナム「そうだったな。」

えりか「長い間だったけど、ありがとう。」

いつき「僕達もここに来るから。ん？」

ヴィヴィオはいつきの服を掴む。

ヴィヴィオ「もう、会えないの？」

つぼみ「え？」

ヴィヴィオ「いつきお姉ちゃん達が元の世界に行ったら会えなくなるの!？」

ヴィヴィオは涙を流す。

なのは「ヴィヴィオ。」

ヴィヴィオ「うう……(泣)」

いつきはヴィヴィオの頭を撫でる。

いつき「そんなことはないよ。これ。」

いつきはヴィヴィオに何かを渡した。

えりか「いつき、それって……」

いつき「うん。これは僕達の世界の花。この花がある限り、僕達は絶対に来るよ。」

ヴィヴィオ「ホント？」

いつき「うん。」

ヴィヴィオ「ありがとういつきお姉ちゃん、この花は大事に育てるから。」

いつき「約束だよ。」

ヴィヴィオ「うん。」

ゆり「ヴォルケンの皆にもありがとう。」

シグナム「いや、礼を言うのはこっちだ。」

ヴィータ「そうだ。あたしを助けてくれてありがとうな。」

シャマル「私達は感謝するよ。」

ゆり「そう。」

ヴィータ「それと薫子ばあちゃん。」

薫子「何？」

ヴィータ「体に気を付けるよ。」

薫子「分かったわ、ありがとうヴィータちゃん。」

ヴィータ「ああ・・・／／／」

シグナム「照れてるのか？」



ヴィータ「照れてなんかねえよ！」

リン「三人とも、帰っちゃうのですか。」

シプレ「そうですね。」

コフレ「でもリンと友達になったのは嬉しかったです！」

ポプリ「ポプリもでしゅー！」

リン「リンはこんなこと聞くなんて……嬉しいです。」

はやて「よかったなリン。」

リン「はい。」

つぼみ「皆さん、さようなら。今まで……ありがとうございました。」

そして、つぼみ達は消えた。

フェイト「行っちゃったね。」

なのは「うん。」

ヴィヴィオ「ママ、泣いてるの？」

なのは「泣いてないよ、ヴィヴィオ。」

ヴィヴィオ」・・・」

なのは(さようなら、つぼみちゃん。(

希望ヶ花

植物園に光が現れ、その光からつぼみ達がいた。

つぼみ「此処って・・・」

えりか「植物園？」

いつき「ということは此処って・・・」

ゆり「私達の世界。」

シプレ「シプレ達は帰って来たのですう。」

コフレ「コフレもですっ。」

ポプリ「ポプリもでしゅー！」

薫子（皆、よく頑張ったね。）

そこに・・・

ももか「ああ！つぼみちゃんといつきちゃんといりかとゆり！やっぱりこんな所にいたのね！」

つぼみ「ももかさん！」

えりか「もも姉、そんなに慌ててどうしたの？」

ももか「もうすぐファッションが始まっちゃっよ！」

いつき「え？あ！」

ゆり「こんな肝心な時忘れちゃったわ。皆急ぐよ！」

つぼみ& amp・えりか& amp・いつき「はい！」「」

薫子「行ってらっしゃい。」

つぼみ達は慌てて外へ出る。

つぼみ（また会えるからね。いつかきつと・・・また会えるから！）

つぼみ達は走り出す。皆がまた会えるその日を・・・

完

## それぞれの道（後書き）

ハトプリSTRIKER S 完結です！執筆してから一ヶ月経って早くも完結！読んで下さった皆さん、ありがとうございました！次はリリカルキュアライダー学園の更新です。リリカルキュアライダー学園も楽しみにして下さい！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5212s/>

---

ハートキャッチプリキュアSTRIKERS

2011年7月25日22時54分発行